男女貞潔之理想　會長　島田三郎

公娼廢止之主張　副會長　安部磯雄

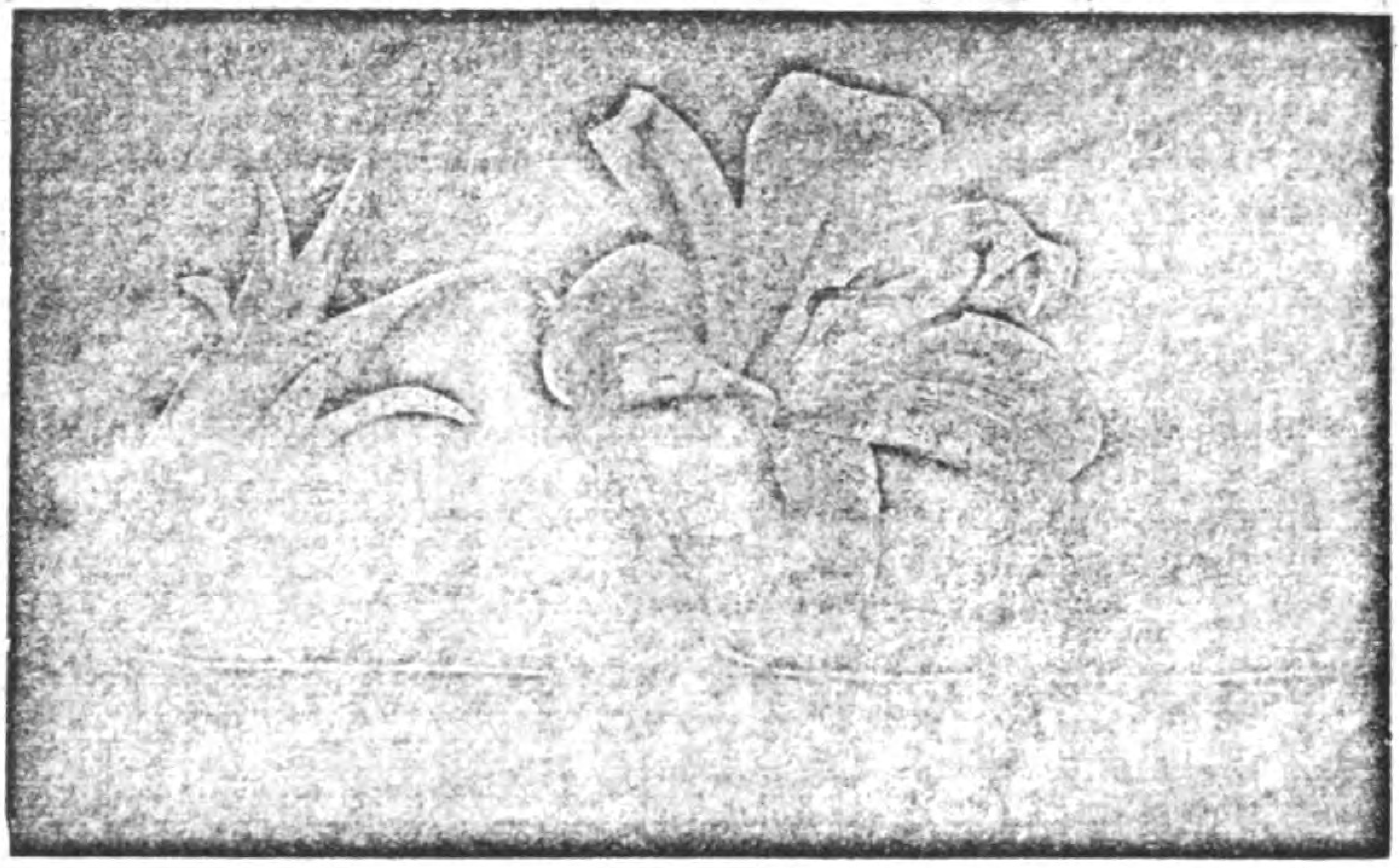
廓清

男女交際問題號

（明治四十四年八月一日第三種郵便物認可）（大正五年十月一日發行）（毎月一回一日發行）第六卷　第九、十號

東京　廓清會本部　發行

廓清
THE PURITY.
大正五年十月
第六卷第九十號



廓清時言

大隈内閣の功と罪

一昨年十一月大隈内閣の組織成るや、吾人は之を祝して從來の戰鬪的態度より提携實行の時期に入る可しとなし、種々の期待を有し居たりしが、既に國政を執る事滿二ヶ年の今日、果して幾何吾人の理想を實現し、吾人の所期に背かざる施政を見たりしや。昨春に於ける花魁道中の禁止と桑港博行藝妓の渡航禁止と、而して最近數日前に於ける、女優某が花魁道中を海外の舞臺に演ぜんとする者に對し、吾人の反對を容れて渡航を許可せざる事となりたるが如きは、些か快心の事に屬す。然れども昨秋の御大典に於ける藝妓問題の大運動に對しては、頗る隔靴掻痒の感に堪へざらしめ、遂に飛田遊廓の設置に於て現内閣を呪ふの止むなきに至り、更に警視廳の公娼擴張によつて、大隈内閣の何等從來の内閣と擇ぶ處なきを確信せしめたりき。

大隈侯桂冠説の傳へらるゝ昨今。豫期に反する事の餘りに甚しかりしを顧みて、吾人は今更在野當時の侯の盛名を傷けたることの大なるを痛惜の情に堪へざる也。

噫公娼廢止の一擧によつて、日本風俗史中に不朽の名を輝かす大政治家は未だ出でざる乎。侯が晩年を飾らんには此れより大なる光彩なきものを痛惜と痛歎との窮まる處、豈痛憤の情なからんや。

新聞を讀まぬ婦人

日本の婦人は新聞を讀まざる國民也。偶々之を手にする者あれば即ち小說講談の類か、然らずんば三面中の特異なる記事のみ、彼等は實に國家に

如何なる事件が起り、社會に如何なる事柄が生じ、人心に如何なる思潮が流れつゝあるかと全く沒交渉に生活す。多數の婦人は吾人男性の殆んど解する能はざる程無頓着の狀態にあり。試みに第一流と稱せらるゝ婦人雜誌數種を檢せよ、然らば彼等が全く家庭の中に沒頭して、毫も社會を知らんとするの欲求なきの狀を知らん也。

如斯にして婦人の地位の向上何れの日にかあらん。吾人男子は其の母たるに適し、妻たるに適せしむる爲めにも、先づせめて新聞位は讀んで貰ふ樣にしたきもの也。つまらぬ婦人雜誌を讀むよりも、寧ろ余は新聞紙に接せん事を望む者也。

安全第一と神第一

近來米國より『安全第一』なるものを輸入する者ありて、我國に於ても頻りに其宣傳を見つゝあり。『安全第一』とは讀んで字の如く、安全を第一とし周到なる注意を促す爲に、此四文字を隨所に貼付して、危險、錯誤等を豫防するに努むるものゝ如く、座作進退も亦悉く此れによつて律し、或は『安全第一會』なる者をも起さんと說かれつゝあり。

之を廓淸會より見れば、賣笑婦に接するは、花柳病に罹る虞れあるが故に『安全第一』の立場に於ては、之に近接す可からずといふ事になりて甚だ結構なる事に似たり。然れども『安全第一』は献身、犧牲、忠君、愛國、孝悌、仁愛、義勇等のあらゆる美德と背馳し、忠も孝も義も愛も、安全が第一にて險呑な事は御免蒙るといふ事になつては大變也。蓋し利己的思想の盛んなる米國の產物としては如何にもと首肯せらるれど、之を我國に擴げんとするは如何にや。宗教家はやはり山室大佐夫人の遺言の如く『神第一』ならざる可からず。而して我が廓淸會は『純潔第一』ならざる可からざるにあらずや。

講談全盛時代來る

近來は實に講談全盛の時代也。幾種かの講談專門的の雜誌を有する外に、新聞も雜誌も講談を載せざるは稀也。

抑講談の全盛は何を意味するや、趣味の墮落を語るものに非ざる乎、風紀の頽廢を象徵するものに非る乎、德川末期の如き淫蕩文學出現の前驅をなすものに非る乎。而して講談の流行は小說家の墮落を意味す、藝術の墮落を意味す。思ふに小說家が論文を書く時程の眞面目の態度を以て小說を書くやうにならば小說ももつと歡迎され、講談の要求も減ぜむ。

新聞紙が此等の講談や、愚劣なる小說を揭げて、俗に媚びつゝある間は、其文明は憫れむべく、國民の品位や卑しむべきものなるを知らん。

張店禁止の新傾向

娼妓の張店なるものは、蕩兒の淫欲充足の具たらしむる爲め、奴隷市場を開きて同胞の婦人を陳列する醜惡なる蠻風にして、人道上一日も早く禁止すべきものなる事は、常に吾人の叫び來れる處なるが、昨年名古屋旭遊廓移轉問題が收賄事件の爲め立消えとなると共に、後任知事によつて張店禁止の英斷に接したれども、吾人は直接張店禁止の實況を見ざりしが故に、人道上よりの必要を痛論するに止まり、いまだ嘗て

風敎上より之を論ぜざりしが、今回警視廳の新方針によつて東京各遊廓の張見世禁止の實況を調査し、そが風敎上に及ぼす甚大なる好影響、即ち所謂素見客見物客なる者の大なる減少を眼の當り見、喜び禁ずる能はざる折柄、更に大阪府亦東京に倣つて十月三十一日限り禁止の府令を發したり。或は以て飛田問題に對する失政の幾分を償はんとするにあるべきが、更に此東西兩都の禁止を導火線として、遙に大連市に又々張店禁止を見る事となり、將に全國の一傾向とならんとするが如く看取せらるゝは愉快也。

勳二等を弄ぶ者あり

過般勳三等に叙せられたる某氏は、祝宴を張つて其勳章に摸したる菓子を膳部に添へたる外、藝妓即醜業婦二十名をして鉛製の勳章を各胸間に掲げしめ、酒間を斡旋せしめたる由にて來客一同の大喝采を拍したるのみならず、之を報道する新聞紙も亦、氣の利いたしやれた事をしたもの哉と感歎し居たりしは淺間しき事どもなり。

奮へ飛田反對同盟會

廓淸會及び婦人矯風會大阪支部其他の聯合になる飛田遊廓反對同盟會は、秋期に入つて將に一大活動を開始せんとしつゝあり。吾人は今戰略上之を公表するの自由を有せざれども同盟會に席を有する者は勿論、苟も正義を愛する男女は、奮つて之が後援者となり、愈〻人道の戰場に立つ忠勇なる同志を鼓舞督勵し、「正義は最後の勝利者なり」てふ諺を實にせざる可からず。奮へ反對同盟會の義軍!!

工場法の實施と矛盾

多年の懸案たりし工場法は、遂に實施を見る事となりぬ。そが未だ甚だ理想に遠きものなりとは云へ、以て婦人小兒等に對する幾何かの保護たり得べきは勿論也。如斯にして漸を逐ひ人格の尊重を見、勞働者の資本家に、婦人の男子に、子供の大人に解放せられつゝある現代に於て、獨り依然として如舊、慘虐醜穢のどん底に泣き叫びつゝある娼妓てふ同胞に對しては、却つて之を擴張せんとするの奇怪を見る。時代錯誤か自己矛盾か、仰げば秋月徒らに澄みて我袂露既に滋し吁

男女交際問題の提供

婦人の人格を尊重するといふ事は、男女相互の理解より發足す。今日の如く男女が割據して、殆んど交通が禁ぜられ、醜業婦其隙に乘じて跋扈し、其處より男子の異性觀の作られつゝある間は、婦人問題の解決は得て望むべきに非ず。

惟ふに男女交際問題は、風紀の問題、賣笑婦の問題、貞操の問題、結婚の問題、離婚の問題、婦人の地位の問題等に若干の解決を與ふるに足る重大問題也。今日迄此問題の閑却せられ、或は一時多少の研究を見乍ら過渡的弊害に忽ち逡巡して根本解決に向つて、歩武を進めざりしは眞に人世の不幸たらずんばあらず。吾人は即ち本月號を以て、又新に此の男女交際問題を社會に提供し、吾人の所信を述べて、以て識者の研究指導を乞はんとす。(江南)

警視廳本會の主張に反省す

□人道上及風紀上より見たる遊廓の大變化□

伊藤江南

□過ては即撃ち改むれば即稱す

警視廳が張店禁止の如き人道上より觀て吾人の感謝に堪へざる程の英斷を施し乍ら、他面貸座敷に飮食店の兼業を許し一層風紀を攪亂せんとするに對し、吾人は極力其不可を切論して反省を促したが、今般當局も亦遂に其弊を認め、吾人の主張に鑑みて飮食店兼業に種々の條件を加へて改善せらるゝ事となり、爲めに張店禁止の效果と相俟つて風紀上意想外の大變化を見るに至つたのは實に近來の快事である。吾人は、公明正大、過てば即ち撃ち、改むれば即ち稱す、警視廳當局が本會の反對に鑑み過つて改むの雅量と、其の誠實なる施政振りに對して玆に賞讃の辭を述ぶると共に、如斯にして吾徒の主張の歩一歩實現せられつゝある事を同志諸君に告げて喜びを分たんとする者である。

當時警視廳は飮食店兼業を許可して如何なる組織に開店せしめんとする積りであつたかと云へば、從來の張店の場所をたゝきか何かにして恰もバーの如きものとなすにあつた。嫖客が最も輕便簡單に飮食する事を得せしめて、從來の私娼に對する蕩兒の要求を公娼に轉ぜしめんとするにあつて、廓內に於ては其バーが開放せられ恰も街頭の氷店の如くなるものてある可かりし事は、余が親しく丸山保安部長に面接した時の談話によつても明白て、故にこそ余は然らば品川、新宿の如き廓になつてゐない處はどうされるかと質問したるに對し從來影店を許し來りたる所てあるから、同一程度に許す外なしとの答へてあつた。即ち路上からは見えないやうにするが暖簾一枚くゞれば今日迄の影店同様、そこはバーになつて居る事を許さなければなるまいと說明された。此方針は各新聞にも傳つた事てあつたし、又事實に於てバーを開放して居つたのは本誌六月號の寫眞によつても其一斑を知る事が出來る

□嚴重な取締と大變化

故に吉原の様な廣い廓內を見物すれば誰しも相當の疲勞を感ずるので、場所があるなら一寸休憩したくなるのであるから、バー式飮食店の開放によつて、路傍半歩にして休憩御隨意の腰掛があるなら、玆に腰を下し、强ち酒食に及ばぬてもよいのてあるから、氷一杯飮むなりサイダーに咽喉を濕すなりする事になるので、從來格子の外から素見した見物は、直接娼妓對手に給仕せしめ乍ら卑猥極まる言動が交換される事になり風紀の紊亂は殆んと言語に絕するてあらうと、吾人は攻擊したのてあつた。然るに警視廳は八月一日を以て飜然

一、飲食物供給の客席は一切外部から見えない様にする事
一、飲食物供給の客席には同時に三人以上女を給仕に出してはならぬ
一、外部から見える處に女が立つて居つてはならぬ
一、女の聲が外部に洩れてはならぬ

といふ様な矢釜しい事に改めた。余が之れを視察したのは八月中旬で、救世軍の伊藤大尉と同行して、大門以外の門が開放せられたのを歎じつゝ、最も公園に近接する門から這入つた。すると盛夏の候であるから、娼妓がぶら〳〵納涼に廓内を散歩してゐる。大變な事になつたものだと思つたが、彼等は通行人と口を利く事を禁ぜられてゐると見えて、默つて行き過ぎる、男の方からも口をかける者がない様子で、此分なら大した事はない、廢業の爲め逃げるには大分便利になつたなと語らひながら、段々其邊を見て廻ると第一驚歎するのは張店禁止の效果である。例の妖怪な被褂姿の赤い女が耳を聾するばかり兩側から客を奪ひ合つて呼び込む彼の凄い淫聲が全くなくなつた。張店がない呼び込みがないといふよりは、店がなくなつた、女がなくなつたといふ方が適切である。

□名所としての吉原は滅ふ

張見世てあつた場所は多く寫眞を掲げてある。乍併寫眞が人を引付ける力なきはいふ迄もない。此間迄ビーアホールか氷店かバーの様な組織になる筈の飲食所は一切外部から見えない。硝子戸はすべて磨硝子又は模様付の硝子になつて覗く事も出來ない。バーて飲食しやうと思ふ者は敷居を跨いで數歩或は十歩も奥に這入り、カーテンを捲くつて入らなくてはならぬ。故に此處に飲食せんとするには從來と同様、登樓と同一程度の勇氣と決心とを要する。到底素人が牛肉屋に揚る様に簡單には這入れない。登樓する丈の恥辱を忍び得る勇氣を必要とするのみでなく、此處に這入る以上、飲食の際氣に入つた女が居たらば登樓せんとする丈の野心を藏する者でなくてはならぬらしく思はれる。即ち格子外の素見程度に於ては到底我々素人には這入れさうにない。されば此の外部と交渉を絶つたバーの中に於て如何に風紀が亂れるとしても、それは殆んど階上に於ける場合と擇ぶの必要を多く見ない。

如斯にしてバーは改良された。張見世は撤廢された。妙な着物もなくなつた。變な頭髪もなくなつた。花魁といふ様な徳川時代の響きのする言葉は相應はなくなつた。江戸趣味の連中が反對するも尤も千萬、全く吉原には昔の面影はなくなつたのである。あれては最早吉原は見物の場所ではなくなつた、建物だけは殘つてゐるが、其他に於ては何も見るものはないのである。女の餘り見えない吉原に何の變哲も珍奇もある筈がない。斯くてこそ吾人が平素叫び來つた社會の暗黑面を名所とする様な愚劣は追々に滅び行くてあらう。眞に快心の極である。今日遊客數及び遊興額に於て減少を見ないのは、一時的の現象で、男女老弱の見物場所とさへならないならば、やがて衰微を見る可きは明白である。

最後に吾人は猶警視廳當局に望む、茲迄改善の誠意を有するならば、何故に夜間だけにても門の開放を行ふかといふ事と、既に十軒ばかり、二階建の簡單なる貸座敷が新築されたが新規に營業を許可する以上は飽迄吾人は公娼を擴張する者として攻撃せざるを得ない。敢て熟考を促す。

丸山保安部長の論説に對する批評は、記事の都合で次號に廻す餘儀なきに至つた。但し右に掲ぐるが如く、此改善は主として丸山氏の反省によるものであるから、今日に於ては氏の所論も餘程變化した譯で、反駁を急ぐの必要もない。



男女交際問題研究の必要

衆議院議長
廓清會々長　島田三郎

近代史に移つて世界の大變動は屢〻繰返されたが、其の最も人類社會を根底的に動かす可き大事件は、宗教改革其一である。佛蘭西革命其二である。併し當時は交通不自由なるが故に、其及ぶ影響は一時に世界を動かす事なく、歐羅巴を中心として徐々に世界に擴がつた。

然るに今回の大戰亂は時代が違ひ、空中も水中も交通の機關が自由に働き、更に電信電話の力を以て世界を一時に動かす時代であるから、其及ぶ處の變化は極めて廣いものである。從つて前代未聞の大變革は此戰によつて生じて來る。戰爭は何れの日に終局するであらうか元より容易に逆睹するを許さぬが、永くて二年早ければ一年で熄むであらう。而して此の大波動が人類社會に及ぼして思想上に幾多の變化を與へ、人類の生活が餘程面目を改むべきは疑ひを容れない。男女の關係の如き元よりも其一であらう。

即ち、多くの壯丁が戰場に赴いて、平生男子が執りつゝあつた處の職業が、女子によつて執務せらるゝ事となつた。戰爭といふものによつて、男子の力が外に働らかなければならない範圍だけ女子が男子の從來執り來つた事業に就く必要を生じて、それを女子は而も何等の不都合なく代理しつゝある。戰局が治まつて平和の時代となつても、今後は從來否認した女子の力を認めねばならぬ事となつた。顧ふに平生女子の精神體力の働きを認めぬ國は、如斯時代に於て如何に劣弱であるべきか、想察するに難くないのである。歐羅巴諸國が今次の大戰に於て、戰場に偉大なる力を現はした其半面は、實に女子の力であるといふ可きである。從來女子の腦力を認めざる東洋諸國は、之れより戰爭にも平和にも世界的競爭の仲間入りをする現代に於て、依然として女子を無視する如き態度であつたら、此競爭に國家としても人類としても、劣敗に陷らなければならぬ。同胞の繁榮を祈り、國力の强壯を念とする者は、此問題に就て大に反省する處なくてはならぬ。

愛國の精神は日本の獨占であると自負する人々は、此の點に於て何と考へるか、英、獨、佛、の



如く其人口に比例して夥多の男子を戰場に送り、就中佛蘭西の如き英獨に比して人口少き國が、今同のやうな戰時競爭に於て驚く可き能力を現じてゐるのは、皮相の觀をなすものは、戰場にある男子のみの力と思ふてあらうが、識見ある者は背後にある婦人の力の如何に偉大なるものあるかを看取するのである。此力は平生女子を男子の玩弄物視し、男子の肉慾を滿足せしむる機關の如く思惟する國民の發揮し得る處ではなく、競爭し得る處ではないと思はねばならぬ、茲に於てか差向き我日本が反省し改善す可きは、婦人をして男子に對する半面の働きを義務として擔ふべき國民とせなければならぬことである。

凡そ力は平生自ら信ずる觀念に比例する。自ら卑しめ自ら輕んずる者は、自ら任ずる者程力を生ぜぬものである。婦人が自ら卑しめて、公事に堪へぬ如き狀態にありては、到底此の委任に堪ふべきてない。婦人をして此の高く大いなる信念を懷かしめんとすれば、先づ男子の婦人に對する考へが高く且つ大にならなければならぬ。

日本が世界的交際をなし、技藝であるとか學術であるとかいふ樣な、智識の開發には相當の效果を收めたが、同胞の婦人に對して依然として舊來の東洋思想なるは、決して優勝者の位置に立つべき國民の心掛といふ事は出來ぬ。婦人をして有用なる且つ同等なる男子の共力者と見るの觀念は、婦人の位置を認めるより生ずる觀念である。小にしては家庭の關係から婦人に對する正しき觀念を有せねばならない。

更に遺傳の法則から云へば、婦人の氣象が劣弱にして勇壯有爲の子女を得る事は理法が許さない。婦人の思想が高尚であり、純潔であり、體力が强壯であるならば、必然の結果として第二世の子女は其性質を遺傳して優良なる人を得るが、之れに反して卑屈にして劣弱、病氣勝の婦人を男子の伴侶とし、男子は其短所を却つて與し易きものとして之を利用するが如き考へであれば、人種の改良は絶望である。

斯くの如く考へ來れば學術交通の進步して、國民として世界的競爭場裡に優勝の地步を占めて、後來の繁榮を圖るものは、婦人に對しての思想改革が第一の緊急問題であるといふ事になる、否緊急問題と云はんよりは、第一條件であるといふ方が適切であらねばならぬ。即ち此事に就て特に我國民の覺醒を促さんとする所以である。

男女混合教育を主張す

早稲田大學教授
廓清會副會長　安部磯雄

□風紀頽廢を救ふの道

男女の風儀をよくするといふ事の根本解決は、男女交際を今より自由にするにある。今の處では誠に困つた話で、男女の風儀はよくしたい、併し男女間の交際は餘りさせぬがよいといふのであるから、甚だ矛盾て、勢ひ根本の解決がなかなか出來ない。

世人が男女交際を恐れるのは交際をやらせて見ると、そこに色んな弊害が起るといふ處から手を燒いて、又引込み思案になるのである。たとへば今迄比較的男女交際が行はれてゐるといふのは、基督教の教會の樣な處であるが、これなども私共の經驗から云へば大變によいと思ふけれ共、少數の間違が起るとすぐ世間ではあれだから困るといふ風に云つて了ひ少し男女交際が始まると忽ち挫いて了ふ。

併し男女の貞操を立派にするには、一度は危險に陷るかも知れぬが、結局男女が交際して不自然な結婚を用ひぬ樣にする必要がある。今日の日本の樣に男女が丸て直接知らずに結婚する、或はたゞ一寸見合をする、或はやつと二三回話をする位で結婚するなどは、實に亂暴で一生涯の運命を共にする大切な問題を、そんなに輕々しい事にするから後て樣々な悲劇や間違が起るのであつて、それには男女交際のどうしても必要がある。

然らば男女交際をすればどういふ利益があるかといふと、日本では男女が交際をしないから、偶〻一緒になるとすぐ間違ひが起る、平生男女交際をして居れば何でもない。平生交際を自由にして居ると、第一男女が性の違ひを感ずる感じを少くする、是れが男女間に間違ひを少くする所以て、一家ではどんな矢釜しい人ても男女席を同うせずといふ事はない。男でも女でも一緒てある。而して此兄弟姉妹の間には性の自覺といふ事はないのてある。男女が互にかういふ點に近い處迄進んで、親しい清い交際をする樣にあらせたいと思ふ。中には親が強ひて此子は男だからとか、女だからとか云つて、態々自覺せしめやうとするものがあるが、此れは教育法としては誤りて、子供の時は男も女もない、性の區別などはせぬ方が教育上の效果がある。

□先づ小學教育より共學制

然らば男女交際は如何にして開かるべきてあるか、色々方法はあるが、根本的の方法として一つ痛切に感じてゐるものは、學校に於て男女交際の出來る樣にする事て、之れが一番

早道であり一番有效であると思ふ。昔は小學校は男女一緒てあつた、之れなどは大變いゝと思ふ、それが段々小學校に於て男女を別々にするやうになつた。中には男女組といふて一緒にしてゐる組もあるが、それは止むを得ずやつてゐるので男ばかりでも半端になる女ばかりでも半端になると云つた樣な、教室と教師との關係上餘儀なくやつてゐる事で、主義があつて、其主義によつて男女混合教育をやつてゐるのではない。主義から云へば今日は男女を引離す事になつてゐる。そしてそれが教育上どういふ譯で必要といふ樣な、そんな深い處から來たのではなく、唯單に教師の取締、取扱上の便宜から來たものらしく思はれる。男は氣が荒いから男だけ分けて男の教師にする、女教師でもしつかりした者に受持たせやうとかいふ樣な、大した譯でなく出來上つたものと思ふ。私は男女別にすれば教育上效果が宜敷いといふ樣なそんな事もあるべきではないと思ふ。十二三歲迄は男女と云はずに寧ろ中性と云つた方が適當な位で、男女として取扱ふべきではない。よろしく教育界の輿論を起して小學校は男女一緒にし男女の取扱を別にしない。なるべへ遊戲も男女一緒にするやうにして、男として若し女を輕蔑して「女の癖」にといふ樣な事をいふ時は直に教師は充分訓誡して、決して女子を輕蔑すべきでない事を子供の時から教へ込む樣にする。



米國大學卒業生同窓會（ウエスレヤン大學文科卒業生二十年後の愉快な思出多き會合）

□男女協力の問題

斯くの如くにして小學教育に於ける男女交際を手始めとしてやつて行き、更に時期が來たら中等教育にも男女の混合教育をやる。私は男と女と何も大した差はないと思ふ。或人は男と女とは腦力が違ふから一緒に教育してはいけないといふが、此議論は確に一方に偏した意見で、さういふ事をいふなら男の中にも大した差があるのである。私共は教育者として相當の經驗を有つてゐるが、一番二番になるものと、百番といふ樣な終りの方の成績の生徒との間には實に大なる腦力の差がある。男女の腦力の差があつて混合教育が出來ないなら、此の男子間の穎才凡才の混合教育を何と見るのであるか、大抵の學校に於て之を忍んで教育してゐる以上は、男女の混合教育が出來ぬ筈はないのである。況んや概して女は男よりも眞面目に勉强するから中等教育位に於ては左程見劣りはしないと思ふ。若あるとしてもそれはほんの一時で、十年か二十年遲くとも最初の混合教育を受た者が、母となる時代に於ては、即ち一代經てば決して女は男に負ない。

夫は亞米利加の教育を見ても分る、中等から大學迄に於ては常に男が女に負けてゐる。餘り見つともないものだから出來の惡い男は東部に逃て、主に東部にある處の男丈の學校に這入るといふ風になつてゐる。如斯女の腦力の足らないなどいふは愚な話て、それは全く一時の辛抱てすぐ直るものてある。

□混合教育と戀愛關係

よしんば間違が起るにしても、同じ學校に教育を受けてゐる者ならば、教師の監督訓誡が有效に行はれる、其上學友間の制裁が有效に行はれるから、淫らな關係は却々出來ない、あつても極めて少數て、多くは必ず學校を異にする處に於て起るものてあつて、同一の學生間には起らぬことを常とする亞米利加ても太平洋沿岸は男女混合が盛んてあるが、世人の豫想に反した事實は、同じ學校の卒業生同志の間に結婚するといふ事は甚だ稀れてあるといふ事てある。之れは何故かといふと之れにも面白い理由がある。是れは同じ教場内て三年も一緒に勉强するとお互に缺點がよく分る。日本の樣に上つ面ばかり見てすぐ戀愛に落ちるのは、交際の道が開けずして異性を理解しないからて、彼等は容貌や素振りなどに動かされる樣な事はない。其人の特性を知悉するからほんとの價値を認めなくては戀愛にならない。そこて缺點を知り合つたお互の間には存外結婚が稀になるのてあつて、結果から云へば少つとも恐ろしい事はないのてある。

□結婚媒介所としての學校

斯樣に、小學校から中學校にと段々進めば、性の自覺は少ない、やはり教場も座席を男女に分たず、順番て男女入交りに坐らせるといふ樣になれば、殆んと性の自覺がなくなる、さういふ樣になれば少しも男女の間に關所がない。昔は全く關所て、男女間には嚴しい關門があつたが、それがなくなつて、ほんとに結婚てもするとなれば、兩方が充分に知り合つての結婚だから福引の樣な結婚と違つて開けて見て失望する事もなく吃驚する事もなく豫定通りに滿足に行くに違ひはない。社會は性の自覺が今の樣に鋭敏てないから、男女が節操を保つ事もよくなる、即ち男女交際は何を措いても教育上から先づやつて行く必要がある。

假りに學校の交際が緣を結ぶ機會となるならば、私はそれてもよいと思ふ。或る米人が斯ういふ事を云つた「單に舞踏とか夜會とかさういふ時に交際して自分の配偶を選ぶ者があるが、さういふ時は着物を着飾るとか、行儀を正しくするとか、惡い言葉て云へば僞善的てある。雙方が欺き合ふ樣な馬鹿な事をして結婚するなら教場て智識品性を四年間曝け出して之を求める方が遙に合理的て智識的てある」と。

私も亦學校が結婚の媒介所となるのはよいと思ふ。芝居や花見が媒介になるより何れ位適當なる媒介所かも知れぬ。乍併實は夙に述べる如くさうはならないて、兩方の缺點を曝け出す所となるのてある、故に私は學校を結婚媒介所たらしめる考は毫頭ない、性を鋭敏ならしめない事は、學校の教育が最上の場所なるを信じ之を唱道するものてある。

男女交際の理想

婦人矯風會長
廓清會副會長　矢島楫子

□男女交際の價値如何

男女交際の必要といふことは隨分古くから唱へられた事で私の覺えて居ります範圍でも幾度か、此研究問題が識者の間に論ぜられたのでしたが、其都度困つた事には從來の男女關係の餘り美しくなかつた例から、折角の曙光も水泡に歸されたのでありました。乍併現在の社會狀態は決して從來の風習によつては、迚も滿足なる發展は出來ませぬから、追々此問題も社會の必要に迫られて理が非でも解決しなければならない時期が來るのは當然な事だと思ひます。凡て社會の進歩發展といふ事は男女協力による處でありまして、今日の如き男子は男子、女子は女子と一方に偏する嫌があるのは、尤も或る意味に於ては分擔的でありますから洵に都合が良しいやうに考へられますけれども、實はさうではありません。社會の如何なる方面でも男女各々の性質から現はれる活動が、共に調和されてこそ其處に眞の實質のある確然した事業が出來るのであります。そして之れが理想の進歩であり發展であると私は信じます。何故なればさうした社會の進歩は決してどんな事變が起つても、又どんな變態的風習が現はれたとするも、夫れこそ一時の變態ですぐ社會から退かされて了ひませう。

斯く男女協力の必要は勢ひ男女を接觸せしめなければならない事になります。乍併男女の接觸は危險であると云つて了へば、其處に矛盾が生れて來ますから社會の退歩を望むか、健全なる進歩發展を望むか、謂ひ替へれば男女の交際を非とするか、是とするかの二岐になつて參ります。誰しも社會の退歩を望む者はありますまい。して見れば如何にせば男女交際を圓滑に運ばせる事が能るかを考へて來る筈であります。

□國利民福は女子の向上

元來我日本の男女關係は極めて引込み思案的で、只間違ひのないやうにと夫れ許りを望んで居りますから、何時になつたとて其間違を除く事が出來ないのであります。勿論安全な方法を取るのも時によつては結好でありますが、今日の如な狀態では何んなに苦心しても青年を箱詰めにして置く譯には行かないのですから、間違をないやうにと心配した處で夫れは獨思案の話で、當を得て居りませんやはり自由に男女を交際させても間違のないやうに考へてやらねばなりませぬ。これが今日の世の中の實際に當嵌つた子に對する親の心配だと思ひます。

男女の智識の程度が格段の差があるから、到底男女相助け合ひました處で事業の遂行に何等效果ある筈がないと謂へば

それまでなれど、此等は要するに從來の我國に於ける婦人の地位と境遇とから割り出した考へて決して今後の婦人迄が男子の手足に纒ふやうな事はないといふ事を知らない無思慮から來る囚はれた思想て。若しも男女の交際も智識の程度が違ふとか、婦人は飽く迄家庭内に在つて餘り世間へは出ぬ方がよいといふ考への下に將來に及んだなれば、譬へ女子敎育が如何程進歩しても社會の發展を望まれないと思はれます。それ許りでなく敎育ある男女が別々の道を歩くといふ事は國家社會に屹度一つの弊害が起りまして、必ず文明の度を遲れさせる事があると私は信じますから、どうしても男女の交際といふ事は必要な事であり、國民の利益を得る最大なる方法だと思ひます。

□男女相互の理解が必要

然らば其理由に依つて今日の狀態から犧牲を拂つて迄も遂行させたらどうかと思ふ方もあらうが、それは却つて危險である。といふのは譬へ敎育ある一個の人格を備ふる男女何者と雖も、只單に形式的交際、所謂精神の無い交際は甚だ危險であると考へます。今迄あつた我國の男女交際といふ樣な種々の機會に於て、種々な間違の起つたのも矢張り前に云つた身體許りの交際で靈的交際、即ち清き精神を持つた男女でなかつたからであります。從來ありましたかゝる會の如な會合も極めて外觀は立派、いや精神も清く且つ嚴重なる監督の下に於てしても、歌其物が既に戀歌でありますから多勢の中には其歌を、理解した男女が居まして其歌に醉はされるから堪つた者ではありません。私が　明治天皇陛下の御製かるたを奬勵したのも之れが爲めです。間違はなからうと見らるゝかゝる會ですらもさういふ缺點があるのですから、まして盆踊や其他の祭禮等といふ醉狂的の男女會合に間違ひの起るのも無理のない譯ではございませんか。さういふ鹽梅で清い精神の下に清い遊戲を選ぶといふ事が、男女交際の第一歩でさもなくて男女交際問題は解決の出來るものではありませんと思ひます。



婦人矯風會附屬慈愛館の一部

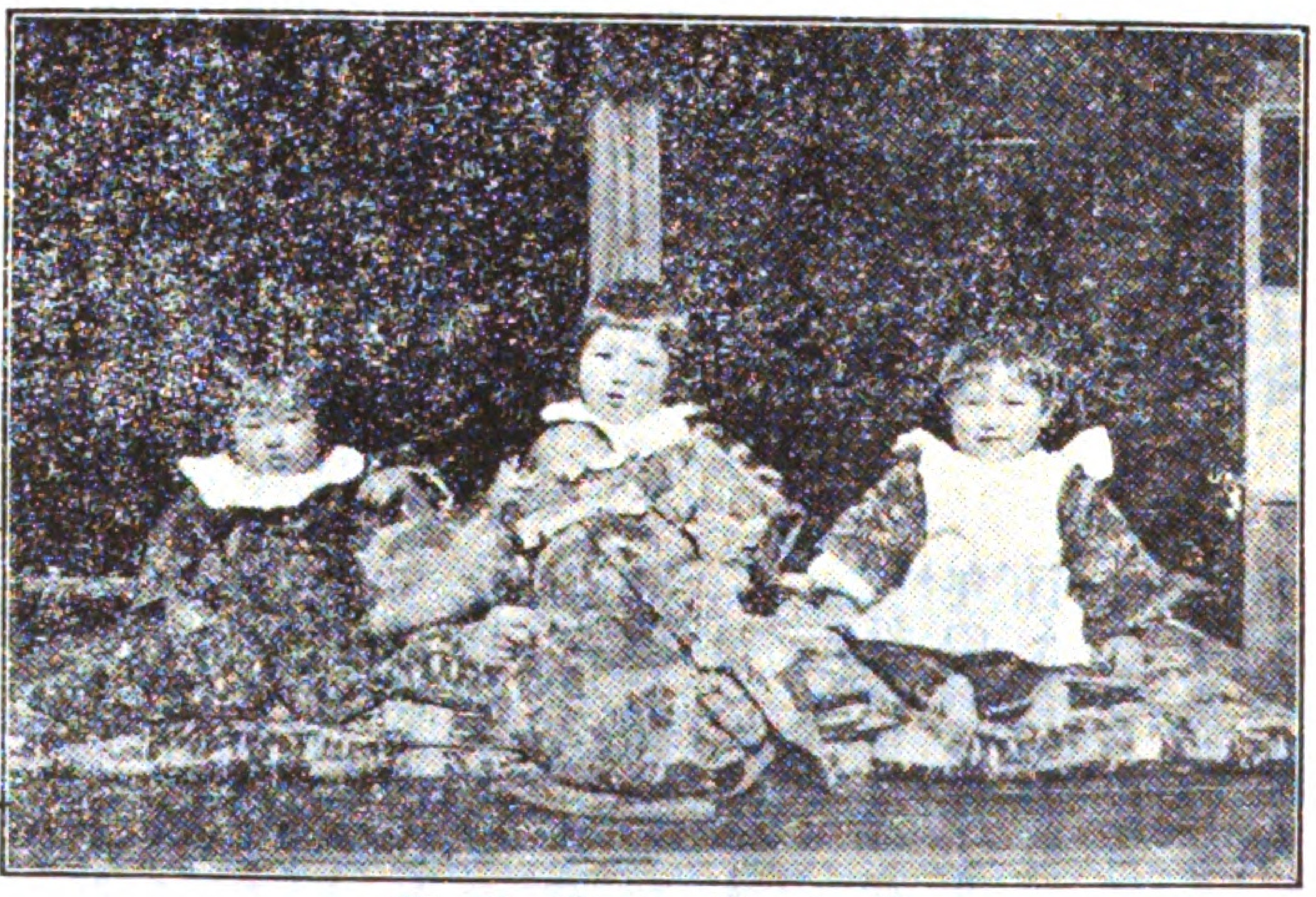
私は手前味噌を並べ立てる譯ではございませんが、精神の清淨といふ點から叩き上げた人格的交際が最も安全な道だと信じて居ります。今日敎會の狀態は丁度夫れに當嵌つた事て、殊に日曜學校といふやうな組織は洵に結好な事だと思ひます。あれ抔は其先生が男女混交で生徒もさうでございますが、斯く人格より出でたる社會事業の活動上の交際が一番完全な者と認められますから、萬國日曜學校大會のある際抔は、女子も是非列席する

やうでなくては駄目です。そしてさういふ點から出立して女子の眞の價値が社會から認められ女子も社會の一分子として活動する事が出來るやうになつたなら、其處に男女の交際の曙光が認めらるゝ事となりませう。女子の價値を認めらるゝといふ事は女子が社會的にならなければならないと同時に、男女間の理解といふ者が其處に於て初て完全になるのです。

□之が理想の男女交際

離婚は我國の名物といふ事であるけれども、之れ抔も男女の理解がないからて、人は隨分主觀以外の資質を持つて居る者て、話振りや表情といふ事は寧ろ主觀より大切な事なのてす。何となく彼の人は虫が好かぬ抔といふ例は多くありまして、それが結婚といふ事に極めて大切な事であります。今日の如き手探ぐりの結婚組織が離婚の多いのも亦無理ならぬ事だと思はれます。安全なる結婚は活動振りより觀たる人格に固いた者でなければ駄目てす。

さういふ種々な點から考へて現在の日本に於ける男女交際を實現せやうとするには、やはり精神の淸い社會事業上の交際といふ事より、より以上の良い方法はなからうと思はれますから、此邊の處から着々歩を進めて見たらと考へます。そして男女協力の美點をして社會に出現し頓て男女子の人格といふ者が今日の舊弊から拔け出さしめ、丁度エヂプトからイスラエルに出た時の彼のモーゼの訣別の時のやうな、姉のミリアムと音樂をやつたといふ男女お互の特性の現はれる事の必要であつた事を、一刻も早く知らしたい者だと思はれますから、男女はなるべく眞心から出た淸い精神の支配の下に交際をするやうにしたい。此點から從來の男女交際の機會ともなるべきかるた會や正月の雜煮招待會抔といふやうな事を、改善して行く事が必要と思ひます。



慈愛館の育兒部

□國を辱かしむる民□

(海外出稼醜業婦大正二年度末現在)

安東間島附近	三六九
遼東鐵失附近	一、一二三
長春、吉林、チ、ハルハルピン附近	一、二七二
關東洲	一、三四三
天津、北京附近	二一五
芝罘、青島	一二四
上海、南京附近蘇州附近	一四八
抗州、漢口、重慶、長沙、沙市	一二四
福州、厦門、汕頭、廣東	四
香港(英領)	一九〇
葡領澳門、佛領印度支那	一七一
馬來半島	一、六九〇
布哇	四三
比律賓群島	三五〇
スマトラ島ボルネヲ島 瓜哇其附近	一一一
カルホルニヤ	二二五

男女交際は準備を要す

早稲田大學教授
廓清會理事　内ヶ崎作三郎

□話題なき日本の男女

男女交際といふ問題を解決せんとするには、其の實行方面に幾多の難關がある、如何となれば從來我國の男女間は、互に意志を疏通し意見を交換するといふ機會が餘りない。第一家庭にありての夫婦間にてすら談話する場合が尠い。尤もそれには舅、姑に遠慮するといふやうな理由から、習慣が第二の天性となつて、夫婦が旅行する場合、譬へば汽車電車に乘つても滅多に口を利かぬといふ狀態である。一心同體である夫婦間でさへ斯くの通りであるから、況して一般青年男女の交際も推して知る可く、精神的交通といふものが見出されずして、男女交際即ち肉的關係といふ樣な、極めて簡單明瞭なのが現狀で、諸德の根本たる男女道德が廢れ、性の倫理といふものが缺如してゐるが爲めに、一切の道德が墮落して居る斯くの如き氛圍氣内に於て、健全なる眞の男女交際を成立せしむるといふ事は頗る困難である。男女交際を行ふにはそれ相當の準備が必要である。先づ第一男女共に相當の教育を要する。即ち或る程度迄人格、品性が出來上つて居るといふ事が最も大切なる條件である。

強ち我が日本の婦人許りではないが、殊に著しくある傾向は、智識、見聞、趣味の範圍が極めて狹いから、談話の種が直ぐなくなつて了ふ。だから人と對話する場合などは、自然手持不沙汰になつて困つて居る。が之れは男子も略同樣で、專門以外の話となると薩張り話題がない、若し知つて居るとすればそは極めて卑賤なる流行歌か、然らずんば粋とやら稱せらるゝ種類の妙な藝術である。斯かる男子が品位ある淑女の相手として交際するに適せず且つ之れを希望せずして、藝妓輩を相手に談笑交際する事を望むのは當然である。

□高尚にして品位ある會合より

近來また一種の傾向として無遠慮なる婦人が現はれてゐる年の若い文士とか或は評論家の處などへ、どし〳〵押掛けて行く者がある。局外者から見れば愛情の押賣りをしかね間敷とも取られる。雜誌を仲介として記者と讀者及び讀者と讀者との文通の如きも同樣である。斯かる場合の結果はといふと十中八九は大抵面白くない。遂に男女共に迷惑してお流れとなるが、要するに一般社會の道德的常識が足りないからだと批評せざるを得ないと思ふ。

歐米に於ける男女交際は、我日本人が想像するやうな自由なものではない。中流以上の男女交際は皆保護者を要してゐ

る。保護者のない場合には男子一人の處へ、女子一人で訪問するやうな事はない。又女子一人の場合も左樣であつて、決して男女一人宛の交際は公に赦されない。必ず友人かそれとも兄弟が連れて來るといふ狀態で、寧ろ今日に於ける我國の男女交際の方が或る意味に於て自由であるとも言ひ得ない事はない。

其處で我國現在の狀態では男女交際が行はれ難いといふのは、第一東京市のやうな處では日常の生活に追はれる爲め、自分が中心となつて靑年男女の爲め交際の道を開いてやるなどいふ餘裕は案外ないから、先づ能ふ可くんば敎育家、宗敎家、家庭等が中心となつて、高尙にして品位ある會合を催さしめる事が第一着の急務である。

□婦人の進步を期待す

男女交際の第二條件としては、男女共に餘り珍らしくないといふ感じが起きて來るやうに、社會の狀態がなる事が必要て、例へば歐米に於ては敎會でも講演會でも或は政治上の會合等に至る迄、婦人の聽衆が其席の半數を占めて居るから、男女共珍らしいと思はぬ。處が我國に於ては啻に學校に男女の區別がある許りてなく、講演會や演說會等には婦人の來會者が極めて少い。故に婦人と交際するに先立つて、婦人が男子の集會等に出席する習慣を作る事も大切であらうと思ふ。

第三の條件として婦人が男子の讀物を讀む事である、と云つて婦人雜誌を讀むなといふのではない、それは結構な事であるが、現今我國の婦人雜誌の種類は非常に多い、恐らく世界一だらうと思ふ位で、婦人の頭は裁縫、料理、育兒等のみに集中してゐる。勿論それ等も婦人として大切なる修養であるけれども、婦人は男子が何を考へ、何を創造し、何を爲し何を行はんとするかを知らない樣では、眞實なる婦人の向上文明の進步、人類の發展は難かしい。茲に男女交際の必要が存するのであつて、それには第一流の著述、雜誌を讀む事が必要である。今日の婦人雜誌には男子の讀者が多いといふ傾向は大體に於て惡い事ではない、それに依つて婦人の心理と長所と短所を理解する事が出來るが、同樣に男子の讀物にも婦人の讀者が這入つて來なければならない。

以上のやうな事情から之を推して見れば、男女交際は先づ學校、敎會、寺院、其他の公會集會を中心として行はれん事を望む。敎育者保護者は周到の注意を以て、人格の尊嚴を維持せしめ、純潔を鼓吹して徐々に男女交際の道を開いて行く事にしたい。準備なきの男女交際は、必ず惡結果を生んて、女に欺かるゝ男、男に欺かるゝ女を頻出し、取返しのつかぬ不名譽、悲劇墮落を見るであらうと思ふ。

高島平三郞氏曰く

三越で此間、女事務員を募集する爲めに、たつた一日新聞へ廣告をした處、驚く勿れ五百餘人といふ應募者があつた。其時に同店の重役が、序手に之れを何んとか先生の學問の方に利用する道がないかと云ふから、何程でもなると云つて次の二問題を出して見た。

一、目下世界の大出來事は何にか　二、信仰

第一の問に對し、歐洲の大亂てあると云ふことさへ知らぬ者も澤山あつた。歐洲の大亂と答へても、ドノ國とドノ國とが戰つて居るのであると云ふ事を完全に答へた者は極めて少なかつた。

第二問に對しては、無しと答へた者が多く、偶ゝあると答へても、豐川稻荷、不動尊などが其の信仰の對象てあつた。

五百人の中四百人丈答は出來たが、此中高等女學校卒業の者が一人あり、他は皆高等小學校卒業のものであつた

スパルダとアテネの男女交際

成女學校長
廓清會理事　宮田脩

□清潔自由なる男女交際

古代希臘の文明は歐羅巴最初の文明たるは何人も知る處である。併し此文明を生み出した主なる都市、スパルダ及びアテーネの兩文明を比較すれば、そこに種々な興味を覺えるのである。就中風俗上の問題を比べ見る時は啻に興趣の津々たるに止まらず、同時に多大の教訓を發見する事が出來る。

スパルダは何人も知つて居る通り尚武の國である。獨り男子と云はず女子も、青年と云はず老年も、苟もスパルダの市民の悉くが生れ落つるから、死ぬ迄、殆んど一生を通じて受ける主なる感化は、其處に磅薄としてゐた尚武勇敢の氣象であつた。餘事は暫く措いて當時のスパルダの青年の生活中我々が特に見たいと思ふのは、彼等青年男女の生活がどんな風であつたかといふ問題である。スパルダに於ては殆んど他の多くの國に於て見る可からざる青年男女間の自由な交際が、行はれて居つたといふ事は、實に驚く可き現象の一つであると思ふ。勿論近世に於ては亞米利加邊りを中心として、歐羅巴各地に漸次男女間の障壁が取れて、男女が交際する風が行はれてはゐるが、それにしても尚且つスパルダ當時の男女交際の如き無邪氣な、交際する人自身も周圍も何等の懸念なく交る事の出來た狀態は、殆んど歷史上の異彩であらうかと思ふ。

彼等は子供の時分から專ら身體を練る爲めに乘馬、水泳、圓盤投、競爭、あらゆる體育的の遊戲をやつたのであるが、此等の興味は獨り男女間のみの專有物ではなくて、まゝ女子の之に交つてやる事もあり、又場合によつて競爭中に加はらない迄も、其競技の場所に出て應援するなり、乃至は見物するなりする自由を有してゐた。又公の競技でない場合は男女擧つて練習するといふ狀態であつたらしい。水泳をやるにしても今日我國でやる如く男女の區劃を嚴重に立てゝ、其區劃を超ゆる事は出來ない樣な矢釜しい制裁はなく、男と女と伴れ立つて水音高く水中を泳ぎ廻るといふ風であつた。從つて日々の交際に於ても其間に何等の障壁を設けられる樣子がなかつた。

□スパルダ青年の異性觀

而して當時の青年男子が、女子をどんな風に見て居つたかといへば、之亦他國に見るが如く、若くば極近いアテーネの人々が見てゐたとは違つて、大に婦人を尊敬してゐた趣が殘つてゐる。假へば若い男が其人の人物若くば力量に對して他から批評を蒙るといふ場合、同性の友人から受けた事には

夫程心を惱まさないが、異性の友人から受けるといふ事は、彼等に取つて大なる問題となるのである。彼のオリンピックゲームの如き晴れの競技場に出て競技をした曉、若い婦人から貴下は誠に勇ましかつたとか、又は貴下の競技振りが氣に入つたといふ樣な讃辭を受くる事は、其靑年にとりて絕大なる名譽であると共に、其反對の場合は、其言葉によつて靑年は殆んど殺されたと同樣に、本人も思ひ其周圍も亦若い婦人から卑しまれたといふて擯斥する程の有樣であつた。

斯くの如く婦人が男子から重く見られて居つたといふ事實が、やがてスパルダの靑年男女間を自由にさせて置いて、而も其間に過ちがなかつた所以のものであらうと思ふ。

□囚はれたるアテネ婦人

之に反してアテーネに於ける此方面の狀態はどうかと云へば、アテーネ固有の婦人を除いたものは別にして、即ち當時他國から流れ込んだ婦人は別として、本來のアテーネ市民たる男女の間は全然スパルダとは反對の狀態を示してゐる。

アテーネに於ては政治上の關係から、市民の血統を重んじ其爲めに法律上に於てはアテーネ固有の婦人を尊重した形があるが、併しそれは血族の關係で婦人其者を尊敬したのではなかつた。彼等は其若い婦人を決して表へは出さなかつた。常に閨門に閉ぢ込めて甚しきに至れば、周圍から寄りつく事の出來ない場所に嚴重に圍ひして其處に置いたのである。而して彼等に敎ゆるに裁縫、紡織、料理といふ樣な極簡單な技能を授けるのを仕事とした。一方男子間に於てはあれ丈の文明が表はれたのに拘らず、女子の方は極めて貧弱な狀態に置かれた。たゞ子供の時分には漸く祭禮の場所に出る位は許されたが、年頃になると男子と席を同うせぬ位ではない。全く男子とは顏を合せぬ位、生涯異性を知るは夫と、父親の外はない程で、丁度支那に於ける婦人の狀態と變りはない。

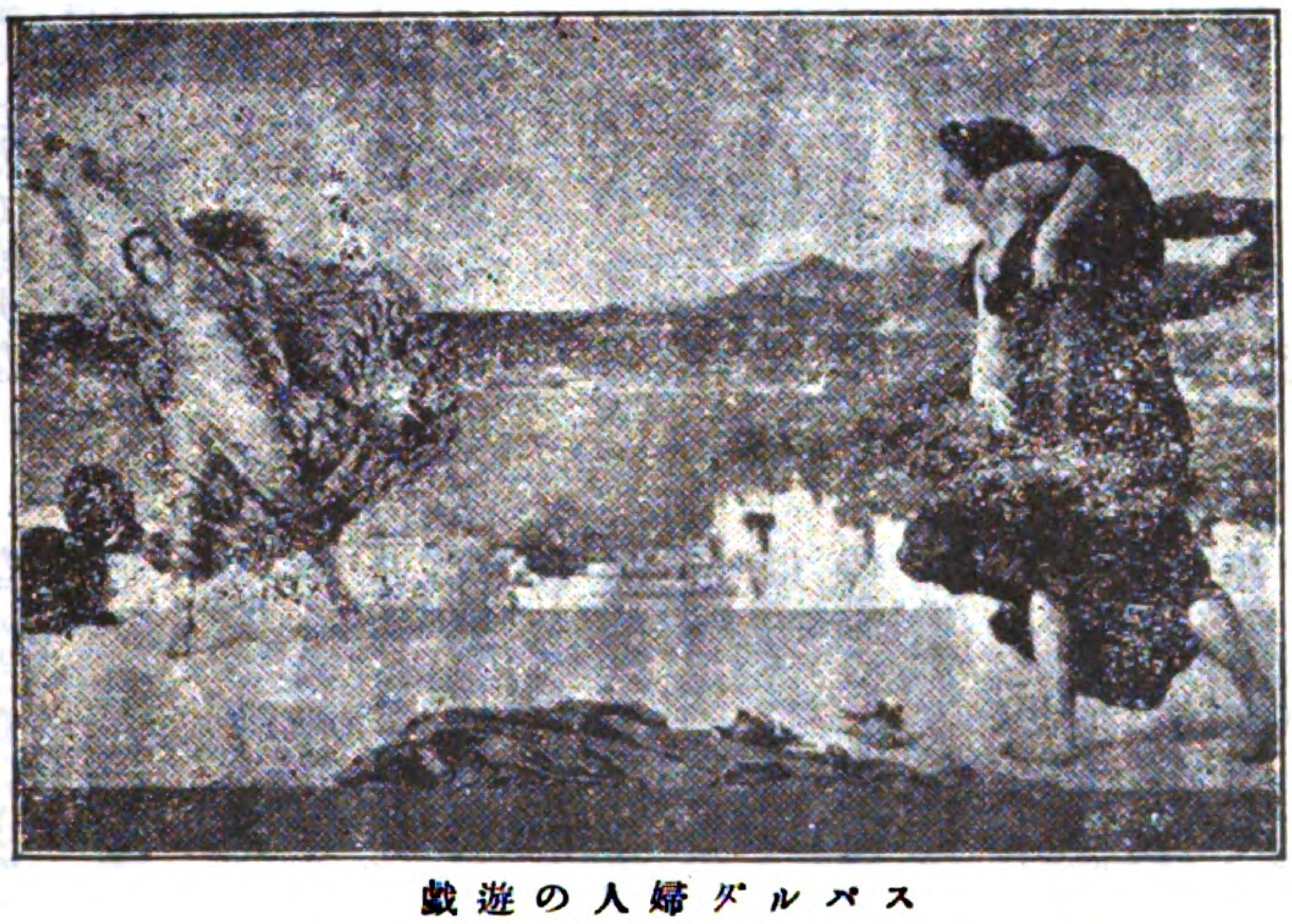
□アテネ男子の婦人觀

斯ういふ風であるから、アテネに於ける男女交際は皆無といふ樣な狀態であつた。乍併其皆無で長く續くものではないどうしても社會に活躍する男性の要求は、側に異性の友達、或は異性の話對手なる者を求めなければ止まないのである。況して獨身の若い者は、一層男子ばかりの交際では滿足が出來なかつた。此れも當時アテーネの男子がスパルダの男子と同樣に一方に尙武を强要されたのならまだしもだが。アテネは一方に學問、殊に藝術が發達してゐる丈それ丈、所謂健兒の社それ丈で滿足しては居られない。何かそこに要求を滿すものがなければならなかつた。乍併女子は閉鎖して近寄るに道がない、而して僅に年老いて來て妻を迎へるといふ事になつて始めて異性の何者かを知り、異性から受ける特殊の感情特殊の氣分を味ひ得るに至つてもアテネの女は、本來が無學無智優柔不斷、不活動を以てこね上げられてゐるのだから、生々した藝術味の勝つた、アテネ靑年の滿足を贏ち得なかつた。之れやがて男子をして女子はつまらぬものだ、愚痴な者だと思はしめ、當時の哲學者などが殘した婦人を罵つた言葉は、獨りアリストーテレス等のみでなく、アテネの男

子悉くが觀察した婦人觀と見て差支ないのである。つまりアテネの男子は婦人に對して、何等の尊敬を拂ふ譯に行かなかつた。

□缺陷に乘ずる變態の調節

此時に當つて何か此要求を滿さなくてはならぬといふのが、遠くから來たヘキラ（我國に於ける藝妓の如きもの）であつた。アテーネの法律は此等のものを市民として取扱はず、それ等の人から生れた子供に市民權を拒絶し、法律からは侮蔑された一團であるが、今アテーネの市民が要求してゐる婦人としては、法律上の特權がない丈それ丈自由で、自由である丈それ丈多くの社會に接觸する、多くの社會に接觸する丈それだけ智識に於て、氣慨に於てアテネ固有の婦人に遙に優越し、一體に生々した婦人、進んだ婦人として表はるゝ事になつた。此に於てかアテーネの男子は擧つて此等の婦人に近づく事になつたのである。それを友達としたのは、時の主權者であつたペリクレス始め、プラトーンにしても、アリストーテレスにしても、或はセボクレスにしても、何れも第一流と呼ばれて文明史上に名を殘した人にして、皆此等の者を伴侶として居つた樣な狀態で、此間には自由な男女交際が行はれたのであるが、



スパルダ婦人の遊戯

乍併此男女交際はスパルダのとは違つて、元來が賣物買物たるに過ぎない爲めに、彼等は自ら愛する事はあつても敬する事はない。

□兩市滅亡の原因

今日にして思へば當時のアテーネの正當な女子が斯樣であつたのなら、アテーネの文明はあれ丈では亡びなかつたらうが、文明を惜む可し當時の女は生々した文明を理解する事が出來ず、又其間にある青年を理解しなかつた。茲に於て正しき男女交際は途絶され、正しからざる男女交際が行はれた爲め、あれ丈けの文明が羅馬兵の爲めに蹂躙されて敢ない最後を遂げた樣な狀態である。今日から考へて見るとスパルダも元より亡びたが、乍併スパルダの亡びた所以のものは、アテネの亡ぼされた其動搖の渦巻に會つて、數の上に於て羅馬に蹂躙されたものと思ふ。アテネの如く文弱の爲めに亡びたのではない。スパルダは亡びつゝも尚スパルダ自身の威嚴と價値とは後々迄も殘したのである。主權は異動してゐても、彼等の生活には犯すべきからざるものが殘つてゐたと想像される。

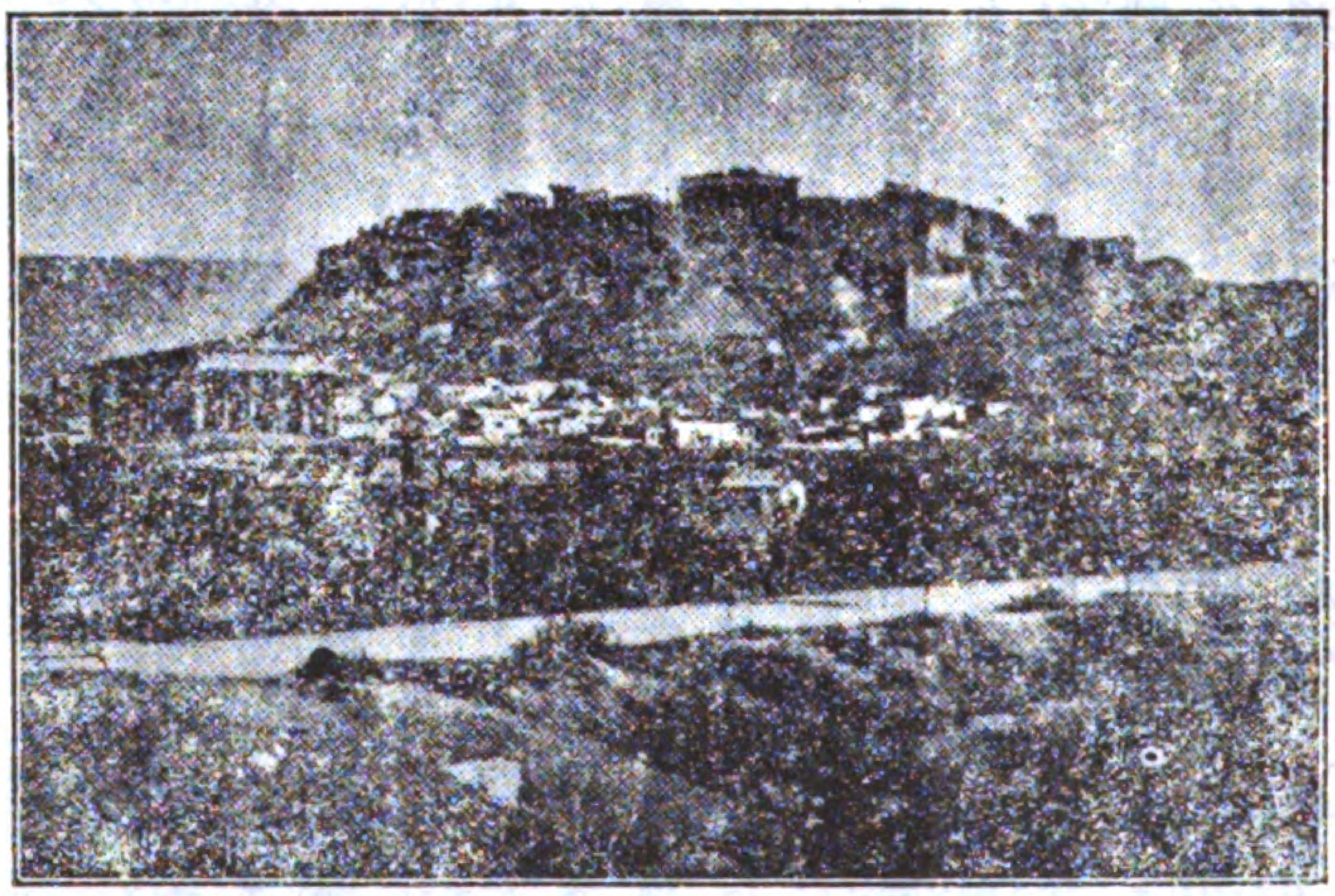
之は何の爲めといふに、風俗がよかつたからで、其風俗といふのは剛健質實なるものがあつたからである。而して其の

剛健質實の氣象は正しき男女交際が自由に行はれたからで、此の自由な男女交際がスパルダ人をして益々健實なる思想を懷かしめ、身心共に高い調子の生活を營ましむるものがあつたと思ふ。之れに反してアテネの方は智識的に或は趣味の上に高い地歩を占めたかも知れぬが、其氣力に於て其氣象に於て、到底スパルダの敵たり得なかつた所以のものは、正しき男女交際が行はれず、男女共不足の思ひをして兩者間に理解なく、互に疑念を以て、若くは侮蔑を以て見合ふといふ「男女が合して完全なる人となる」といふプラトーンの理想は、却つてアテーネに見られなかつたからであると思ふ。

□女子教養より始めよ

自分は必ずしも直ちにスパルダの狀態を移して以て我國に植ゑよといふ者ではない若し又そこに移植せやうといふ人があるなら寧ろ私は反對を表する、スパルダに於ての生々した無邪氣な交際が出來たのは當時の男子に相當するだけ女子の頭が出來てゐたからで、男子の力量に比例する女子の體力も養はれて居つたればこそ、稍平等に同一に美しい圓滿な交際が結ばれたが其體力に於て智力に於て到底男子の如くでない男女の差の著しき時代に、若くば國に於て、所詮スパルダの善風を見る譯には行かぬ。却つて妄りに解放する事はアテーネのヘキラ對當時の青年の樣な狀態に移つて了ふ虞れがあるからである。乍併國を健實にして行かう、社會を純潔にして行かうといふ場合には、どうしても偏した狀態に置いてはならない。男女の力が共同して茲に同等の敬意を持ち寄つた上の交通が行はれなくてはならぬ。

此意味に於て我國に於ても出來る丈けスパルダと同樣に自由にして、無邪氣な、美しい男女交際を實施する將來を近からしむる樣にしたいと思ふ。其希望を持てば持つだけ、婦人の多くが斯くの如き交際の開かれる場合に、よく自己の人格的權威を落さないで、相當の敬意を以て迎へられる樣な體力なり、智力なり、理解なりを養ふ樣に努めて貰はなくてはならぬ。之れがつまり根本問題で、此事が漸次向上發展して來るならば無論男女交際は自由になり、此間に生ずる空氣は社會の風紀を自然に矯め直し國家の繁榮を來すのは疑ひない處と思ふ。



アテーネ衛城の古跡

浮田博士曰 遊蕩文學の流行は政府としては大に取締る必要があるが、社會廓清を念とする者は、寧ろ之によつて現代社會を觀、人心の傾嚮を察して、遊蕩文學の生れ出づる源泉に斧鉞を下すべきであるとおもふ。

宮田脩氏曰 自分は德川時代の遊蕩文學を種彥の好色本一覽によつて輯めかゝつて驚いたが、其種類から云つても發賣を禁止されてる者が幾千といふ數に上る、何でも德富蘇峰氏は長持に一ぱい所持せられてゐるさうだ。

遊蕩文學に就て

文學博士　幸田露伴

最近遊蕩文學なるもの丶流行に伴れて、之れを非難する聲が聞えて來た。併し斯ういふ傾向は餘程以前からあつたので、私は既に昨年四月號の本誌に於て『公娼文學より私娼文學へ』といふ一文を載せた次第である。

理想といふものには、上中下種々の階段がある。立派な理想もあればつまらない理想もある。人各〻其面の異るが如くに高下大小千差萬別である。併し乍らどんなつまらない人のつまらない理想であるにした處で、なほ理想は其人の現在よりは好いものに定まつてゐる。而して其處に人間の希望があり。愉快がある。然るに冗らない理想を有つて而も其理想の實現に努力しやうともせず、僅かばかりの淺薄な自己の智識で宇宙を觀じ人世を察して、思ふ様にならないと云つては絶望する者がある。人間が絶望すれば既に惡の分子で、遊蕩文學者なるものは此の自分の絶望を更に人に強ひやうとするのであるから、惡を撒布し擴張せんとする者なのである。

人間が希望の輝きを絶すれば、色食の二道に墮する外はない。彼等は即ち此の二道に快樂を追求して耽溺する。望みのない人間には秩序がない、節制がない、即ち亂暴を生ずる。遂に色食を讃美し亂暴を謳歌する様な思想になるのは必然の逕路であらう。

□　□　□　□

斯如遊蕩文學に對して國家が取締を嚴にするは必要な事である。ところが取締をされると彼等は愈〻反抗する。而して撲滅を叫ぶ識者に對しても、彼等は舊思想として罵るを常とする。どうせ彼等は堂々たる主張を有する譯でないから、他より非議排斥されるといふ場合には、自らを辯護するにも他に言葉がない爲めに、古いといふ常套語を以て罵倒するを常とする。けれ共どうしたものか徳川時代に於ても、爲政者が淫蕩文學に取締を加へると、反抗の聲を聞くばかりで贊同を表した人がない。私の知つてる限りでは唯一人俳偕師の山崎美齊が『提醒綺談』に當局を賞てるのを見るのみである、

一體遊蕩文學といふ物はいつの世にもあるべきもので、決して今日の特産ではない。時代に反抗して快とする傾向、暗黒面を讃美する様な思潮は常に流れて居る。たゞ今日は舊信仰舊道德が破壞されて、新信仰新道德の曙光がまだ照らさない爲に、適從する所を知らずして儒教佛教などに侮辱を加へ嘲笑を敢てし、淫蕩を追ふ様な流行を旺ならしめるのである。

乍併世間は割合に悧好で、人から貰つて讀む者は別として、自分の懐から金を出して買ふ者は、一度は欺されて買つて見る氣になつても、二度目には考へるから、遊蕩文學が非常に

流行して居り世間から歡迎されて居る様に思はれて居るが、事實は決して左様でなく、好く賣れて精々二千か三千位にしか過ぎない。世の中といふ者は案外馬鹿でないから、あまり心配する程でないと思ふ。新聞や雜誌で書き立てるから如何にも盛んの様に思はれるのであるが、それは事實の眞相を知らぬからである。本屋に就て調べれば直ぐ分るとて、却つて博物の研究であるとか、乃至哲學科學等の眞面目な學術的の著述の方が賣れるのである。雜誌の如きも「日本及日本人」の様なぶつきらぼうのものが段々勢力を得て來つゝあるのであるから、割合に意を强うするに足ると思ふ。

□　□　□　□

此頃の文壇の沈滯も亦一面遊蕩文學の流行らしく見える原因である。一向雄作が表はれない。新しい思潮は先づ藝術の上から現はれて來るのが普通であるが、今日の日本の文壇は到底思想界の魁となるだけの實力を有して居らぬ。ただ惰眠を貪つてゐる。古いものを研究する様な考は毫頭なく、それならと云つて新しいものを調ぶるでもない。僅に西洋のつまらない雜誌などを讀んで、たゞ新しがつてゐるのであるから、文壇が振はない筈である。こんな風であるから一體に此頃は小說本が賣れなくなつた。最も早い話が、古本屋に行つて見ると分るけれども、學術上の著述は新本で一圓したなら、古本屋でも七十錢位の價は保つてゐるが、今日の小說本は一圓の新刊が忽ち二十錢三十錢で古本屋に賤されるのである。眞に價値があるものなら、そんな筈は決してない。這麼風だから夏目さんの様な人でも此頃あまり書かれないのであらう。群小と同一視される恐れがあるから。

□　□　□　□

男女交際を自由にして果して風紀を能く保ち得るかどうか私は餘程問題であらうと思ふ。我國でも上古は自由な交通が行はれて居たが、其の結果は餘りよいとは云へない。彼の萬葉時代に於けるが如きは何等の束縛もなかつた。當時のかゞひといふ様な遊びは今日の盆踊の濫觴となつたのであるが平安朝時代に於ても、文學に現はれた處を見ると極めて自由であつて、遂に男女交際の爲めに段々墮落して、文弱に流れ、鎌倉に天下を讓らざるを得ぬ事となつたのである。

鎌倉家から德川氏迄は所謂武士道が發達して女に壓迫を加へて來て居る。更に極端なのは支那の教へて、戲曲などに現はれた處で見ても此の女子を解放せぬ國が好いとも云へない要するに之れは信念の問題で、男女交際も或る信仰が先であらうと思ふ。私は別に佛教とも基督教とも或はまた儒教とも云はないが、何か或る信仰を持つ事が必要である。

外國で男女交際が自由に行はれて弊害がないから、それを直に日本に眞似しやうとするならそれは誤りである。外國で解放しても弊害がないといふのは信仰といふ大なる根據を有して居るからである。元來人情といふものは流動的のものであつて、流動體を平地で結束する事は出來ぬ。流動體はやはり桶の中に入れる必要がある。聖人君子は流動體から個體となつた人であるから平地でも結束が出來るが、西洋が男女交際の比較的健全に行はれるのを見て、皮相的に考へてはならぬ。彼れには信仰の桶なり、皿なりがあるのである。

婚約時代を作れ

共立女子職業學校副校長　鳩山春子

□男女交際は家庭から

男女交際は、家庭的の交際から漸を追うて發展すべきものと思ひます。一軒の家で晩餐會を催すとしますと、其家の主人主婦達は來客と應接して、お給仕其他の用事には、娘のお友達を招いて手傳つて貰ふ、其間に自然と娘達の紹介が出來るといふ樣な行方は必要でありますが、殊更に結婚年齡に達したからと云ふので結婚の爲め特別に交際の道を開く、母親が娘を伴れて夜會などに、出席するといふ樣な事は贊成が出來ませぬ。

夜會の風紀は監督によつて保つ事も困難ではありますまいが、私は寧ろ結婚の爲めの男女交際は、却つて結婚難に陷らしむるものであるといふ點から反對したいのであります。此の言葉は一見矛盾の樣に聞えますが決して左樣ではありませぬ。元來夜會のやうな交際制度は、社會の生存競爭が激甚でなかつた時に適した習俗で、今日の如く多忙に、今日の如く生活に壓迫せられる時代に於て、殊に將來にまで發達すべき交際の機關ではありません。あゝいふ制度は時と金とを多額に要しまして、娘を着飾らして親が伴れて出席するといふ事は、相當の資産階級でないと却々困難で、自然さういふ機會を多く持つ事の出來ない爲めに、結婚の機會を失つて老嬢の悲哀を見なければなりませぬ。

□日本の結婚制度は却て可

其點から申しますと、我國の結婚制度などは比較的老嬢を作る事が少い。年頃になると親の方で充分心配して好配を探して吳れます。歐羅巴の如く假令老嬢とならずとも、經驗の淺い男女が、表面的の美貌とか態度とか、親切らしかつたり優雅らしかつたり淡泊さうとか優さうとか、外部に表はれる皮相な處から戀愛に陷ゐるから、さうなるともう短所に眼が屆かず、人格を洞察する公正な判斷力を失つて結婚するから、後に至つて這麼筈ではなかつた、と後悔する場合が甚だ多い。之れに比較しますと我國の習慣の方が確實に近く、從つて幸福でありますよく西洋人が日本の婦人は幸福だと申しますが、全く我國の婦人は結婚に就て自ら老嬢になりはしないかといふ樣な心配する必要がありません。經驗に富んだ親達が精密周到なる調査を經て、娘に相談した上で、娘が厭でないならば取り定めるのですから、甚だ幸ひです。娘も其時は何等戀愛がないから、公正な智的判斷が出來ます。而して戀愛は結婚後に其人を充分熟知して發生しますから、一層圓滿に參ります。昔の樣に娘や息子の意志を壓迫して親だけで定むるのは無論いけませんが、親の選擇調査によつて子の意

志を聞ふて其上て定めます方法は、今日としまして比較的適當てあらうかと思ひます。

□婚約時代の永きは不可

併し我國にも婚約時代といふものは少しあつた方がよいと思ひます。日本では約束が整へば直に結婚して、所謂婚約時代といふものがない。外國では婚約してから二三年間は結婚をしない。而して其間が最も樂しい時期となつてゐるのでありますが、斯う二年も三年も待つてゐるといふ事は、他の弊害を惹起す。婚約時代にありては自然お互が長所だけを見せて短所を隱す。僞善的の傾向を有する。男は仕事もお留守になつて女と樂しむ時間を作る事と、喜ばせる方法ばかり考へる。殊に女は餘りお世辭を云はれるので段々いゝ氣になつてしまふ。お互はいつか勤勞を尊ぶ心を失つて了ふ。そして結婚すると今迄女の機嫌ばかり取つてゐた男は遊んでお世辭をふり撒いてばかり居る呑氣な生活をして居られるものでないから、つい小言をいふ樣になる。さうなると女は意外に感じ始めて、そこから不快な暗雲が家庭を閉して來るといふ事があり勝ちてあります。

□半年位が最も適當

そこで日本流に直に結婚するといふのもいけませぬが、二年も三年もといふのは永きに過ぎます。先づ半年位が適當の處であらうかと思ひます。而して其間にお互の趣味とか家庭の習慣といふ樣なものを研究して、適應するやうに努める。それが對手の人格を理解する期間ともなつて結婚後の悲劇を少からしむる事も出來ませう。

たゞ誠に困りますことは日本の婦人は節操に對する自覺が鈍くて、殊に婚約でも成立致しますと、身を任せるのを當然のやうに心得て許します。此點は外國人は確乎して居まして、戀愛に落ちてすら結婚迄は純潔に童貞を持します。我國に於きまして斯ういふ事は是非移植したいものであります。

さうでありませんと婚約時代が惡用されまして、婚約破棄によつて貞操を償ふ道のない事が頻々として起るでありませう。（文責記者にあり）

□川上貞奴の渡航禁止

女優川上貞奴が『藝妓と武士』と題する芝居及び『花魁道中』を海外の舞臺に演ぜん爲め渡航出願中てあつたが、斯くと聞いた本會及び救世軍にては早速禁止方を運動した處、遂に禁止せらるゝ事になつた。

□岐阜縣の花柳病講話

岐阜縣に於ては、芝居に仕組んで衛生思想を高むるに努めたりし以前からしてゐたが、今回縣下の娼妓に、病毒の怖ろ可き事、豫防の方法、治療の注意等を、極平たく丁寧に書き砕いた印刷物を配つたりして居る、そして一日も早く健康の身體て正業に復する事を望む旨が書き添へてある。

岐阜縣は御大典奉祝の時も、我等の理想に餘程叶つたやり方をしたが、どうか當局は百尺竿頭一歩を進めて、たゞ廢業を望むだけでなく廢業の自由なる事を敎へ、廢業の方法を書き添へて貰ひ度かつた。尙慾を云へば、群馬縣の樣に一思ひに姑息な講話をするよりは廢娼を斷じて貰ひたい事てある。

□各地の遊廓設置運動

和歌山市に今回又々町繁榮策の名の下に、遊廓設置の議が市の有力者の間に繰りかゝつた。水戸市と共に名譽ある廢娼市を我から墮落に導かうとする不頁老年にも困つたものである。其地會員諸君の奮鬪を望む。

大阪の飛田遊廓新設は各地に遊廓設置の導火線たらしめた處へ、更に※視廳の新方針の爲めに、公娼設置を以て私娼撲滅策かと思はしめ、全國に大分設置運動が起つてゐる。大阪府下の尼ケ崎、岡山縣下の菜島、其他宇都宮であるとか小樽であるとか其他の設置地に於ても、賑かな處に移轉しやうなどいふ運動がある。警戒を要する。

動物的女性觀

早稻田大學教授
廓清會評議員　法學博士　浮田和民

女子の男子に對する思想が、また今日の狀態では女子の側からも交際の出來る譯のものでない。女子自ら男子に劣るといふ事を自覺させられるやうになつてゐる永い間の習慣ではどうしても女子自ら卑下し、怯懦にし、且つ教育は男子の半にも及ばぬから、交際しても互に交換するに足る何物をも有つて居らぬ。一體交際は經濟上の賣買のやうなもので、男からも何か與ふ處あり、女からも何か貰ふ處がなくてはならぬ。それが一方から與へるばかりで、他は受けるだけでは交際にはならない。故に現今の日本は又此點から見て男女交際の時期に達して居らぬ。つまり今日は未だ準備の時代と解し、如何に準備す可きかを考究せなくてはならぬと思ふ。

□男女交際準備の時代

男女交際は、根本に男子の女性觀が變る事を必要とする。今迄の樣な男子の女子に對する思想では、理論上男女交際は不可能である。今日の男女觀といふものは全く動物の性慾、並に動物界に於ける動物の天性を根據にして居るのであつて人間としての觀察ではない。男が強くて女が弱いといふのは動物として見れば如何にも其通りて、性慾の強弱の問題も、例外はあるが、雄よりも雌の方が弱いに違ひない。

斯くの如き動物的女性觀が存在して居る間は、いつ迄も同等の交際の起る可き筈はない。元來交際といふものは同等でなくては行はれぬ。同じ男性間に於ても、力量にも才學にも色々差等があるが、餘り大差ある間に於ては交際は起らない。人間といふものは思想上其他萬般の事に於て、何處にか共通の點がなくては交際は行はれ得るものでない。優劣が甚しく不平等が激しくては交際しても價値も趣味もありはしない。故に其點から云ふと日本の男女交際は理論上不可能といふ事になるのである。實際上に於ても先づ不可能な狀態にあるが理論上からして、此の動物的女性觀に立脚して居る間は、眞の交際は起らぬものと見るより外はない。

□男女關係は天然に歸れ

私は先に動物的男女觀と云つたが、男子の女子に對する思想も、女子の男子に對する觀念も、全く動物的關係といふ程迄には行つてゐない。實は中途半端の觀察なのである。寧ろ動物的關係になつて了ふなら未だそれの方がよいが、それ程に徹底的ではない。動物關係に於ては強弱あるのみで尊卑はない。男子が女子を輕蔑するなどゝいふ事は、動物界にはない事である。動物は大體に於て男が強いけれども、雌を別段

輕蔑してはゐないのである。少くとも一は尊大据傲、一は卑下萎縮といふ樣な事はない。單純なる强弱の勢力あるのみで男なるが故に尊く女なるが故に卑しいなどいふ狀態はない。生じつかな動物觀に立脚するなら、一層の事茲迄徹底した方がよいのである。

人間も子供の時は尊卑はない。たゞ喧嘩の時に男が勝つだけの事で、自分が優等だとも劣等だとも考へてはゐない。單に男は强い女は弱いといふ關係で、喧嘩に負けても力では敵はずとも自分自ら卑しいと卑下する樣な事はない。此邊は全く動物的男女觀であるからやはり動物が無邪氣に交遊する如く、小兒も男女が無邪氣に交遊して居る。

然るに大人になるとさうでない、動物でない處の思想を其所に挾さむ。女は天性劣るものであるやうな間違つた宗敎思想などが這入つて來る。女の方が男よりも罪が深い、女の居る爲めに罪に陷るといふ風に、すべて女は罪惡の深いといふ思想が宗敎上から來る。之れは東洋の思想であるばかりでなく西洋にもある。佛敎に見出さるゝのみでなく基督敎にもある。舊約の始めの如きは全く男尊女卑の思想の發現である。

斯くて大人になると單純な天然自然の關係に立歸る事が出來なくなるのである。一方からいふと此の天然自然の關係を自覺して天然に立歸るといふ事が必要である。と云つて野蠻に歸れといふのではない。男も女も天性に歸つて動物の如く其の本性を全うする上に男女に優劣なく、互に挾さむ處なく考へて來る樣な傾向にならぬと、眞實の男女交際が行はれるといふ譯には行かぬ。



教會に於ける男女交際(日曜學校)

□交際を可能ならしむる第一步

根本的に此の思想上の改善を促さずして今の儘で男女交際をすれば弊害百出して社會の風紀を紊亂するに陷るだけである。そこで男女交際を可能ならしむる第一は敎育である。日本でも小學敎育では、中に男女共學制を採つて居る處もある。併し之れは止むを得ずしてやつてゐる處の、劣等なる制度としてあるのであるが、之は私も安部君と同意見で、寧ろ主義として共學制を實行するがよいと思ふ。小學時代は男女同級にして置いても少しも互に弊害はない。力は男の方が强いけれども、智能の働きは女子の方が先に進むといふ事は、小學敎育に從事する者の等しくいふ經驗である。女の子の方が男兒より悟りが早いといふ事であれば、共學制は男子の智能啓發を早くするやうなもので、また女子の方からも、力の方で男子の刺激を受けて發達するといふ利益がある。日本の女の體質の

劣惡なるは明かな事實であるから、共學制は自然女子の體質の養成になるのである。即ち男女共學制は益があつて害なきものである。

斯くの如くにして、子供には男尊女卑の思想はないから、男女純潔なる交際の第一歩は玆から始まらなくてはならぬ。抑も教育なるものは社會の實際と伴はなくてはならぬものである。然るに社會とまるで違ふ事をやるのが現在の教育になつて居るから、教育は形式的になるのである。子供は男女共に遊ぶ者であるから、學校に於ても無邪氣に遊ばせるがよいのである。

□尼寺的女學教育

中學になると少し意味が違つて來る。之れは私は或は分けて教育する方がよいかと思ふ。性の區別も餘程明かになるのみならず、同じ人間ながら職能が違ふから、共通の點もあるけれども、分業的にした方がよいと思ふ。併しも少し交際の門戸を開くといふ風にしたいのである、

中學校の方で體操とか運動會とかいふ時は、中學の生徒の家族のみでなく、團體として高等女學校の方から應援なり見物なりに行く。個人としてゞなく學校としてやるといふ事にしてはどうであらう。そんな事は西洋では抛つて居つてよいのであるが、日本では相互に見に行く應援するといふ風に團體的の交際が出來るやうにしてはどうかと思ふ。

大學教育になると專門教育で、性別を問はぬから又共學制が許される。日本の様な女子大學の少い處では澤柳氏の東北大學に共學の端を開かれたのは大變喜ぶ可き事である。力のある女性は大學に這入るがよい。尤も女子の大學も必要であるが共學を許して差支ない。女子の大學とても今日の如きやり方はいけない。社會の攻撃があるからでもあらうが、今日では殆んど尼寺同樣である。あれではいかぬ。も少し自由に教育せねばならぬと思ふ。多分女子高等師範も同樣であらうと思はれるが、今の女學校はすべて尼寺で、兄弟か親なら兎も角、面會は勿論手紙をやる事もならぬ。先生が立會つて開封するといふ嚴重な封鎖である。之れは無論封鎖の必要がある社會が惡いのであつて、どうも新教育を施さうとしても施せぬ。女子大學などもあれは新教育ではない舊教育である。私は新教育の學科の如きも文部省令に準據してやつてゐる。女子大學を起したいと思ふが、これは日本では容易でない。だから外國人の建てゝゐる女學校の方が理想的で、自由にやつてゐる。弊害も割合にないのである。耶蘇の學校は風儀が惡いかといふと却つてよいのである。

斯様にして教育制度の中に、も少し男女交際の端を開いて社會一般の健全なる交際の魁をなしたいものである。

□戀愛虐待の社會

それから小學卒業から引續き、高等女學校時代は、青年男女の間に色々交際の機會があるから、家庭でもなるべく監視はするが自由に相接する機會を與へ、將來夫婦になるのも其時代の戀愛の結果であるやうにし度いのである。まるで今日では高等女學校時代は男女絶交にしてある。女は一切物見に

も出さない。であるから日本には憐れむ可し戀愛の機會がない。嘗に其の機會を青年が持ち得ないのみならず、戀愛其物も罪惡のやうに排斥されるのである。故に若しあつたとしても之れを不義をしたものとして取扱ふから、戀愛が常に成績がよくない。不倫視される社會から脫線したる戀愛は、狂熱したる結果であるから常道を步む事を得ないのであつて、戀愛結婚の成績の惡いのは、戀愛を罪惡視する社會の一半を負ふ可き責任があるのである。

日本では戀愛が夫婦關係の基礎でなく、夫婦間に戀愛がないから離婚が多い。（余の戀愛と結婚道德に就ては詳くは本誌本年一月號參照を乞ふ）戀愛は夫婦外のものになつて夫婦の間にはないとするから、男女交際は危險といふ事になるのである。男が他に戀愛を求めても今日は女が壓制されて妻の方で默つてゐるから治まつて行くが、妻の方も戀愛を生じたら悲劇が生れるのである。而してこれが現代社會なのである。

日本の現狀では夫婦一緒に步く事さへ困難である、之は服裝の關係があつて、男女交際を奬勵する場合は服裝の改良も急務である。日本の婦人は男の半ばも步けない。夫婦が一緒に運動も出來ない、這麼風だから第一夫婦の間に談話がない之れては男女交際が社會的に出來る筈がない。男女交際は又一面夫婦交際から始まらなくてはならぬ。

□識者は促進の義務を有す

・之を要するに男子の女子に對する思想が道德化し、女子の自分に對し、世の中に對する見識が進んで、男子と色々の點を互に理解する、いくらか交換が出來るといふ樣になつて來なければ、男女交際は行はれぬ。態と交際するといふのではほんとの交際にはならぬ。矢張り男女の間に眞の利害得失が生じて來ねばならぬ。また段々女子が獨立生活をするといふ事になれば、自然女子の事務員であるとか、女の醫師であるとか、女の事業家であるとかいふ樣なものが出て、男女交際の實際的發展を見る事になる。此點からは既に交際の道は開かれつゝあるのであるが、世の識者たる者は、拱手して時の來るを待つといふよりは之を促さなくてはならぬ。而して之を促すには輿論を喚起するより外はない。輿論を喚起し敎育の機關から此の態度をとる。一方に夫婦關係を改めて行くといふ樣にして更に動物的女性觀を改めて行くやうにしたいと思ふ。

支那の新しい女

支那に此の程女權發達全國同志大會が北京に開かれた▲座長は米國實業女子大學博士蘇惠幽女史、先づ起つて饒舌喋々開會の趣旨を述べ、次て女進士華翠女史決議案を報告すると滿場大贊成拍手嘖の如くてあつた▲さて其議決の案決はといふと、先づ『不平等有五』なるもので其項目は（一）男子三妻四妾あるも女子は二夫を更ふるを得す、此れ不平等の極現在男女平權此種の惡風宜しく革除すべし（二）男子は娼院に入るも女子は閨門を出てす（三）男子政界に入るを准すも女子は政に參するを許さず（四）男子均しく兵に當るべきも女子は隊を逐ふを容さず（五）男子以て情に任かすべきも女子は必ず須く訓を守るべし　次に『不自由者有五』なるもので（一）男子は海外に雄飛するも女子は帷中に雌伏す、此れ不自由の極現在男女自立此種の陋習宜しく改良すべし（二）男子は盛んに遊ぶも女子には之を禁ず（三）男子隨時行樂するも女子は內助して勞を採る（四）男子書を讀み道を識す女子は惡を撫し兒を育す（五）男子は擅に遊食するも、女子は家務に縛せらると結ばれてゐる

斯くて此等婦人の同盟が出來た

萬國廓清會發達史（二）

横山栖雲

□英國之部（二）

最初の廓清會の爲したる事業

斯くて廓清會は次第に其活動の範圍を廣め最近二十五年間に間接直接青年男女の改善問題に關して運動したる事項は左の如くであつた。

(一)評判の惡い家は之を撲滅すること青年男女を腐敗せしむる樣な商賣をなす家を無くするに努めたのである。

(二)劇場に於て舞臺上に使役する小兒の教育及び道德上に關して其狀況を取調べ、之が改善を謀りたる事。（我國でも淺草公園の玉乘等に使役せらるゝ子供は如何なる狀態であるか取調べて救濟するの必要がありはせぬか）

(三)淫猥文學の取締りを請求したこと。之に付ては英國廓清會は幾百回の訴訟を起したか分らぬ程、裁判所にも訴へ警察にも報告して、醜惡なる寫眞、淫猥なる出版物を、幾千種と云ふ程破壞し又は禁止したのである

(四)各種の展覽會又は陳列所等に於ける猥褻を助長する恐れのある繪畫又は標本等を告發して之を取除けしめた。

(五)市街の公然衆人の眼に觸るべき塀又は壁等に貼付せられたる看板、廣告等の内淫猥的の傾向ある者をば取除かしめん爲に努力した。此の運動は遂に廓清會より分離して『張札招牌檢査會』なる者を生ずるに至つた。

(六)尚其頃音樂會等で屢々行はれたる『活人畫』と稱する、人間が種々の服裝をなして恰も繪畫の如くになし、公衆の觀覽に供したる者が行れた。廓清會は大に之に反對した。

(七)結婚の詐僞約束を罪として法律上に見認めしめる樣にした。是は巳に結婚して妻を有する男が他の婦人と結婚の約束をなし、之が爲に其婦人が身の破滅に至ることが屢々あるので、廓清會は之を告發して其男子を處罰し、之に由つて詐僞婚約は法律上罪となる樣になつた。爾來英國の大審院は此の原理を確保することになつて居るのである。（近頃日本でも頗る詐僞婚約行はれて居て、其が爲に幾多の處女が男子に玩弄せられても、唯損害金の請求を訴へる位て遂に泣寢をせねばならぬ樣であるが、是も男子を罰する法律が必要ではあるまいか）



英國廓清會長　アバーデン伯

(八)給藥書の繪畫の取締りを建議し、淫猥なるものを禁止せしめた。

(九)以上列擧した者の外に、英國廓清會の運動に由つて新法律を制定し、又は從前の法律を改正したものは、

『廣告取締條例』の制定。是は英國廓清會の立案に由り、國會議員中の首領株たるメースのアールが國會に提出して法律となつたのである。

『浮浪人取締條例』の改正。是は婦人の不正なる利得に由つて生活する人を浮浪人と見なし之を禁錮に處すべき事を同條例中に包含せしめた者て廓清會が始め此事を主張し之に對する法案を起草したが、採用せられなかつた。然るに政府に於て其主義に贊成し別に法案を提出して、法律となつたのである。

『居留人條例』の改正。外國人の罪惡に關して重要なる改正を行つた。

『刑法』の改正案に對し、廓清會の努力に由り、犯罪の告訴は是迄三ヶ月以内に爲さざれば效力なしとせられてあつた者を六ヶ月以内に延長することが出來た。

又刑法改正案中に親族間の姦淫を罰するの條項を設定せしめた。此事は英國廓清會は殆んど十年間主張し運動したが、國會議員コロネルロックウード氏の手に由つて提出せられ遂に議會を通過するに至つた者てある。(我が矢島楫風會長に由つて年々提出せらるゝ刑法改正請願は如何、英國議會は流石に英國だけて、十年間の努力で遂に之を採用したが、日本の國會は幾年過ぎても遂に採用しないのであらうか。日本の國會に一人のロックウード氏はないのか)

尙此外に種々細かい運動はあつたが、大體の所は以上の如くてある。英國廓清會の創立に付ては少からず諸方面より金圓を寄贈せられ、又諸名士が同會の爲に多くの時間を犠牲にして働かれたが、以上列擧せる各項の如きは確かに其金と其勞力とに酬ゆるに足るだけの成功であると思ふ。殊に同會の助けの爲に救濟せられたる數千人の纎弱なる青年男女が、其一生の歴史中尤も危險なる時期に於て救助せられたるを考へたならば、廓清會の運動が如何に有效てあつたかは想像するに難くはない。青年男女殊に若き婦人が今や生涯の墮落に陷らんとする時、之が救濟を自身より訴ふることは殆んど婦人としては不可能であり、又之を他人に委托するには餘りに重大なる問題である否重大と云はんよりも自己の祕密を他人に告ぐるを欲せざるが爲に、妄りに他人に委托することは出來ない。故に彼等は其苦痛を忍んて、知りながら墮落に陷り往く者があつた。然るに今日にては廓清會の努力によつて法律を改正し又は新設し、斯かる危險に遭遇したる青年少女は何人ても容易に官署に至りて之を訴へる事が出來、そして如何なる告白をなすも官署に於ては之を祕密にして決して公表することがない事になつたので、廓清會の努力は總ての人民に歡迎せられ要求せられつゝあるのてある。

賣淫廢止を提唱する動機

若き女の最も悲むべき場合は、彼が誘拐せられたる時てある。日本の新聞紙に於ても見らるゝが如く、英國に於ても殆んど毎日の如くに妙齡の娘が誘拐せらるゝが其他の事情に由つて家出した事の報告が新聞に戴つて居るが、斯かる時には其娘の父又は母は泣きつゝ警察署に出頭して搜索を願ふ。警官は娘の人相其他に付て詳細を聞取り、出來るだけの補助をなすべきを約束するが、偖其警官なる者の働きが中々敏活には行はれない。已むを得ずして其中の或者は廓清會に來つて之が補助を依頼することがある。實に其中の或一事件が廓清會を導いて、白人奴隷賣買、即ち賣淫婦の賣買に對して激烈なる反對運動を起すに至らしめたのである。



英國に於ける奴隷解放者
ウイルバーホース氏

其事件と云ふのはかうてある。英國てキャノン、ウイルバーフォールス氏夫妻が或時サウサムプトンに滯在して居た事がある。ウイルバーフォールス夫人は其地の若き女に付て頗る精密なる觀察をして居たが、其時或少女が何者にか誘拐せられて同市から逃走した事が發見せられた。處が其少女の友人たちが此事をウイルバーフォールス夫人に訴へ出て、其救助を求めた。フォールス夫妻は更に其事實を廓清會本部に報告して其救助方を依頼したので、廓清會のウイルヤムアレキサンダーコート氏は其少女を追跡し、大陸の或市府で之を發見した。彼は或珈琲店の奉公人となつて居たのである。其から續いて其の泊つて居た寄宿所をも發見し、其處を訪問して彼女に親しく逢つて話すことが出來たのであるが彼は薄暗き汚なき室の中の寢臺の上に横つて、泣く〱コート氏に其迄の來歴を語つた。其話によれば彼を誘拐した者は種々の甘言を以つて大陸にさへ渡れば多く金を得られ、賣婦人の生活が出來るなど云ふ彼を誘ひ出したのであるが、其約束は一つも實行せられないのみならず、珈琲店の奉公女に入れられ不幸苦痛殆んど堪え難いと云つて今更故郷に歸る譯にもいかず、苦んで居るとの事でコート氏は、始めて所謂白人奴隷賣買の怖るべき罪惡であることを知り、之を絶滅せしめねばならぬとの決心を起し氏を驅つて遂に萬國廢娼同盟會を組織せしめるに至つた。

歐米男女交際の禮儀

女子青年會總幹事 河井道子

歐米の男女交際狀態は話丈では誤解され易い

歐米各國に於ける男女交際問題、それは到底僅な紙上に於て之れを說明批判する事は能きませぬ。況して我國の男女殊に青年に至つては社會組織や風俗等其他あらゆる狀態が、只表面に現はれた形式と動作を觀て、其の內面に徹底する事を得ない今日、歐米の夫れを說明した處で誤解を招き易い許りで、決して眞に打ち碎いた理解を得る事は困難であると私は怖れるから、寧ろ其事に關して語りたくないのです。もう少し社會の組織や風俗關係等が歐米の夫れに準ずるやうにならなくては、彼れは斯うといふ斷定の下に、一々批判することをしたとて無理な話であります。然し乍ら何故斯く申すのであるか、私はこれに就て少しく歐米の風習と我國の夫れとの相違せる點を述べ今我國に歐米のそれを直に摸倣せんとする事の危險なるを知らしめる參考ともならば幸ひと存じます。

およそ時の古今、洋の東西を問はず、男女が年頃に達して初めて交際を爲すやうでは解決が出來ませぬ。第一我國抔は家庭に於ける又小學校教育に於ける現今の狀態が持續されるやうでは善良なる男女の交際が能るものではないと思ひます。歐米各國に於ける男女關係は我國と全然反對であるやうに感ぜらるゝ、先づ男尊女卑といふやうな亞細亞風は毛頭ない。日本では男尊女卑が今日と雖も、尙國民の頭を支配してゐるやうな傾向がありますから、俄に歐米の良風を當欲めた處で、夫れが眞の要求に應じた事でないから面白くありませぬ。

日本では婦人は蛇の化物 西洋では男女共に神の子

歐米各國に於ける凡ての風習は眞實なる宗敎が其奧底に流れて居るから、勢ひ子供は其感化を受け人は神樣のお作りになつたもので、決して男が神の子で女は蛇の化けた者だといふ樣な觀念は最初から持つ事を赦されない。隨つて男尊女卑の觀念の起らぬのも當然なのであります。

斯樣に子供の時分からの感化は延いて青年に達しましても同樣の考へを持つて、男女の交際を致します。尤も歐米では青年許りが男女の交際をするのではないから、一生を通じて殊更に何時頃の時代が、男女の交際を爲す事が出來るといふやうな時期の區限がありません。隨つて私の見聞した狹い乍らも西洋諸國に於ける風俗慣習は斯樣に我日本と根本に於て既に相違せる點を發見するのでありますが、とりわけ英米の中流に於ける男女の交際は言はず語らずの間に禮儀がります。斯ういふ場合には斯うせよとか、彼んな時にはあゝせよとかいふやうな事はしませぬ。何故なれば男女交際の際に限つての禮儀といふやうな事はなくも、日常而も小兒時代から男女相共に禮儀といふ事に就ては充分の心得があります。例へば男女間に於ける會話に致しましても首より下の事は決して口に出しませぬし就中姙娠抔といふ事は非常に忌み嫌ひます、彼の人の身體つきが何うの、足が何うの抔といふ事は決して口に出しませぬ。

然るに日本の夫れは何うでありませう、まるで反對の感があるではありませぬか。それから次は下衣、即ち婦人の服裝の事、男子に對しても同樣であります

が凡て公の場所や又は高聲に夫等の事に就て語りませぬ。私が滯米中或る日本の男子の方で服裝の事を大分研究し、且つ自らも大層判つた心算で或席上、コルセツトとかペチコツトや或は又入毛、白粉抔と種々知つたか振りして大聲で公言しました。夫れが爲め其男子は席上の人達より排斥されたといふ失敗を演じたといふ話を聞きました。之が我國であるならば何等罪だ抔と大袈裟の道徳上の制裁を受けませぬが、西洋では斯かる事を口にする人は相手にせぬ位であります。

歐米の婦人は人目に觸れる處でお化粧はせぬ

それからまた新聞紙に現はれた婦人病の賣藥廣告ですが、之抔も男子が偶に讀むで居つても婦人が來ればすぐに閉せて了ふ。婦人も矢張りさうであります。啻に新聞廣告許りでなく雜誌でも書籍でも身體や服裝に關する事は決して公然之を讀むではならぬ事になつてゐます。次に男女の洗面室でありますが、公衆の前に其動作を現はさない。而して男女別になつてゐるから、日本の樣に人の見える處で髮を結ぶやうな事はしない。男の化粧と云へば頭を洗ふとか髮を撫で附けるとかであるが、夫等の動作も決して婦人には見せぬ。そしてお互にさういふ動作は人に見られぬやうにする許りか、それを見えたとする場合にも氣を利かして遠つて了ふ事になつて居ます。次には便所でありますが之も嚴重なる男女の區別がありまして、日本人はよく航海中此事に就ては隨分失敗を致します。嘗て私の乘つた或る船抔でも日本の男子が便所の區別を頓着しないで、平氣で婦人の便所に入つて來る。而して勿論便所には、ウーメン、オンリとかメンとか確然たる區別がありますから、知つて居るべき筈なのに、それが何等の注意を起さずしてドシ〳〵と入つて來るので、遂には男入るべからず抔と日本字の大きな札抔を下げられて日本の德義といふものを外人から見下げられて了ふ事があります。又紙を散らしたり食ひ掛けを其處らへ投げたりする事抔も、歐米人には見られぬ處であります。又婦人の室へ無造作に入るやうな事も日本人獨特の事で、私が或る時、同船した日本人の動作の惡い爲め赤面した事がありました。夫れは斯うです、

婦人の寢室へ平氣で這入る事は歐米人は嫌ふ

船中婦人が輕度の病氣に罹つた。すると船の事であるから或る男子が早速其婦人の處へ見舞に出掛けた。只夫れ丈なら良いのですが而も其の婦人許りではなく他の二三人も臥して居る寢室に、無造作に入り込むで悠々と話して居る樣を、一外人が認め私に問はれ、私は非常に赤面して、いやあれは寢室ではあるが、床を上げれば應接室となる可き構造の日本室ですから、と漸つとの事其場は濁して了つたが、實に此邊の禮儀の相違せる事は日本人には迚も想像が出來ない程であります。最う一つ船中で深く感じました事は、日本室にはすき燒が出る、すると堂々たる紳士が其食事を爲すに先づ胡坐をかく、無格好な態度で膳に向ひまして申します其言葉が第一斯うなのです。

『どうも食事をする時に四角張つて居ては旨く食ふ事が出來ない、何でも自分の思ふ儘にして、而して就中斯ういふ食事をする時には、酒が出て女が側に居ないと旨くない』とて遂には『藝妓でも來て三味線でも彈けば夫れに越した食事振りはない』と謂つたのを聞きました。隨分不都合な事を平氣で公衆の前で話してゐます。一體何故日本人は身體をだらしなくしなくては食物が旨く食へないでせうか、此等は日本の家庭敎育の弊害であります。日本では小兒の食事する有樣を見ると、到底子供の持たない人達が見ると厭な心持ちがする程汚らしい食ひ方であります、歐米では決してそんな事はありません。子供の時分から食事といふ者は嚴格な態度でやつて居ますから、殊更四角振る必要もなく四角振つた處で美旨くなくなる理由もない筈です凡て歐米に於ける食事程六ツ敷いものはありません。

男女の交際でも青年少年の親達は態々他の朋友を招いて食事振りを見るといふほど極めて重要視して居りまして、若し缺點があるとしますれば、自分の子供の交際を止めさせる位にして居るのが平常の狀態なのであります。外人が食事に謹

ひのも夫れが爲めて、日本人が前に述べたやうに下品にして食はねば不味いといふのもやはり平素の習慣にある事と深く感じた事があります。

歐米に留學したとても 眞の食事法は辨ばれぬ

我國から渡歐した留學生抔の旅行者又は見學者等が三四年間滯在して、洋食は斯う食ふものである抔と知つた振りして日本へ歸つて來て威張つたとて、それはお笑ひ草てす。元來留學生といふ方々の階級は下宿住ひてす、同じ下宿人仲間の事てすから禮儀抔は餘りに重要視されない、只食ふといふ食物の出る順序や、ホーク、ナイフの持方位は知る事が出來ても食事に對する禮儀といふものを心得る事は出來ませぬのに、それを知つた振りした處て、眞個の食べ方てない事は勿論てありませう。下宿屋といふ話が出ましたから序に申して置きますが、歐米では例へ下宿ても女の處へ男が一人て尋れ行くやうな事はしないし、女が決して致しませぬ。假りに尋れて行つた處て窓を開け放るべく公衆の前に見えるやうに公然たる態度を執つて居ます日本抔てはそれが反對に男女が話を爲す場合にはなるべく人目に觸れないやうにと、婦人はさうてもないけれども、男にはよくそんな考へを持つて居ますが、歐米はさう云ふ場合には必ず多勢に限られて居ます。それから日本とは室内の構造が違ふからさう極端に謂ふ事も出來ませぬが、寢室に入るといふ事を非常に嫌ひます。何故なれば寢室は公衆の前に觸れない場所てあるから、其處へは絕對に入る事が出來ない。凡て男女の交際は左樣に公衆の前に出しても少しも疚しい處のない交際でなければ社會が之を許さないのでありますから訪問の場合でも其他如何なる時でも決して女二人のみの對座は出來ない事になつて居るのてあります。

舞踏會に於ける男女間の禮儀程六敷事はない

日本人から見て最も弊害のありさうな舞踏會にしましても、決して疚しい心を有してなす事は赦されない。何故なれば男女間の會話の一部分ですら前に申した樣に、忌み嫌ふやうな事があるとしますれば、野心を抱藏せるやうなものは忽ち排斥の的となるべきは自明の事と存じます。勿論舞踏會なるものも全然弊害がないとは謂へません。けれども常に自由に交際して居る間柄の事て、殊更に其場合のみに見ず知らずの男女が鉢合せになるやうな事てありませんから、日本人が想像するやうに左程淫逸のものではないのです。

殊に又此會合位禮儀の六ヶ敷い會合はありませんので、私の厄介になつて居た家にエール大學に通ふ西洋人の學生がありました。或る年のクリスマスの舞踏會に其男子も私も招待されましたが、其の男は嫌だといひます、何故かなれば私は不骨者であるから行きたくないといふ。お婆さんは種々と勵まして折角の招待てもあるし、又お友達に對しても只武骨だからとては濟むまいからと申して、とう〳〵仕方なしに出掛けました。私は舞踏が出來ませぬからたゞ樣子を見て居ますと、其男子は不骨者處か大變に上手て、而も非常に面白く嫌ひな樣子抔は見えない、けれども折々私の前へ回つて來ると私を見て、アー嫌だといふ表情を見せました。後て婦人のハンカチーフが落ちたので、それを拾ふ時危く轉げる處てあつたとさも重い荷物ても下したやうな物語をしたのを聞きました。斯樣にダンスは禮儀が大變に矢釜しいのてす。其他婦人にコートを着せる時抔の手附き、又はダンスの折の手を握る程度それは餘りに輕る過ぎても、又固過ぎても共に不可ませぬ。

其程度といふものは實にお話の出來ない程六ッ敷いさうであります。只之れ許りてない凡て此筆法てすから〳〵禮儀は、其拂ふ注意の細心である事我々には容易に想像すらも出來ない程てございます。そして右のやうな場合は必ず監督者が一人居て、男女夫れ〳〵の態度を見て居りまして怪しいと見られたが最後、それが一同の排斥の原因となるのであります。成程之れでは前の學生が不器用だからと嫌がるのも無理のない事だと私は染々感じました。

婦人が遠慮勝ちにモジモジ口をきくのは無禮

凡て物事が左樣に禮儀を主んじて行は

る〵が彼の國の風習てあります。口をきくのにも日本の婦人は遠慮勝ちに、女らしくといふ事を守つて居るが、歐米てはそれは人に侮辱を與へる事になつて居ります。其他人の前て手を擦つたり、顔を撫てたり頭をかきむしつたりする樣な事はしませぬ。又便所といふやうな汚穢を催すやうな、汚しい事は決して高聲ては云はないのてす。日本ては平氣て客が便所は何處てせうと聞いたり致しますが、斯樣な事は避けて居ます。必要の場合は極めて低い聲て、加も手洗水はと聞くのてあります。それが即ち日本の便所といふ意味なのてあります。日本てこんな事を申したら只手を洗ふ場所へ連れて行くてせう、大變此邊も違つて居ます。外國ては子供の時分から、便所を便所と敎へないのみならず、必ず低い聲て云はせるやうにして置くから、自然と殊更禮儀らしくもしないて淸い動作に出る事が能るのてあります。そして又歐米人は兩手を洗ふ事を一つの禮儀とする國て一日に何遍とか、夫れは衞生と外觀とから來て居る事てあります事てせうが、よくまめ、に手を洗ひます。又人が遠くから尋ねる時或は長座して歸宅する場合はお手を洗ひなさいといふことが一つの禮儀で、之は便所へお這入りなさいと氣を利かした事なのであります。

外人が一緒に並んで行くのは嚴格なる禮儀也

餘り例が多く其他に未だ〵迚も言ひ盡す事が出來ませぬが、日本人から最も自由の交際が出來てゐると見える、彼の青年男女が並んで歩く事。あれは歐米の禮儀でありまして、日本の禮儀は主人が前で、妻君が後でありますが、そんな事はしたくも彼の國の禮儀でありますから出來ませぬ。決して女が後で男が先だ抔と男尊女卑のものではない、日本人が縱へ夫婦並行した處で眞の禮儀ある並行でないから、見苦しいのも當然な事です。又男子が女子をよくいたはる事を見受けますが之は女子に對する同情心からである。此場合にも勿論不公平な同情ではない、誰彼の差別なく女子は男子がいたはる可き性質のものとしてあります。此等は女子の服裝上の關係もありますが、要するに公平といふ事に依つての禮儀でありますから如何にも高尚でございます。

斯樣に凡ての平常の風俗習慣、特に禮儀といふ點に至つて我國抔は足下にも窺ひ得ない狀態でありますから、男女の交際も自由であつても一向差支がないのです。加之此の禮儀は殊更に場所を限つた禮儀でなく何時如何なる處でも行はれる習慣で子供の時からチヤンと其禮儀の下に育て上げられたから左程困難を感じませぬ、寧ろ習慣は第二の天性であるから、日常生活其物が我國より見た禮儀であるやうな態度ですから、矢張我國の日常生活の胡坐をかき藝妓を招くといふ日常の行爲のやうに、却つて變な格好よりかも美味に食事する事が出來る事になると思ひます。今日の歐米諸國の男女交際の自由といふ事になつたのも夫れが爲めでありませう。

我國の男女交際の最大條件は眞の禮儀が必要

翻つて思ふに今日西洋の男女交際を執つて以つて我國に當て嵌めやうとするのは大なる過ちであらねばなりませぬ。我國は世界第一の離婚數の多い國だと申しますが、之は慥に一面男女交際の必要を迫る理由となるに違ひありませぬ。さりとて此の弊害を芟除せんが爲め、直に男女を開放しましたなら、其の結果は却つて恐るべきものがありはしますまいかと氣遣はれます。

現在の離婚の多きは一部の理由として舊思想と新思想の衝突期で、夫れが歐米の男女關係を誤解した結果であるとも云ひ得ませう。故に眞に我國を此離婚の弊害より救ひ、風紀の頽廢を防がんとするには、先づ第一に禮儀から注意せねばならないと存じます。

早く歐米各國に於ける最良なる禮儀を入れ。自由健全なる男女交際が其下に行はれるやうになつて欲しいと存じます。

紳士道を教へよ

三輪田高女校長
廓清會評議員　三輪田元道

△極端なる男女隔離主義は△

△文明の進歩を妨る事夥し△

男女問題は濱の眞砂が絶ゆる迄斷絶するものではない。何故なれば男女關係は人間の本能に屬して、之れが盡くる時には人類の滅する時だからである。然るに東洋に於ける男女關係はなるべく隔離して問題を起すまいと努めて來た。殊に支那の如きは最も極端に發揮して、女の部屋には誰も入れない。父親なども之れを遠ざけ、夫迄も入る事のならぬものとしてある。外出する時も駕籠にても乘るとすれば、顏を見られぬやうにする、往來へ出るなども最も恐ろしき事と考へられたのである。されば女の出る時は、男のゐない時を擇ばねばならぬ。男の居ない間と云へば往來の交通疎らな時より外にない、隨つて夜になると女が徐々外出したのである。斯樣に女子は男子に出來得る限り遠からねばならなかつたから、若し女の出る時刻に男子が往來に佇んで居るやうなことがあるとそれは男子の不都合といふ事になる。從つて男の世界と女の世界が截然區分されるといふ樣な極端な男女隔離主義の敎を守つたのであつた。此自然に逆ひ本性を蔑した其結果はといふと、決してよい筈はない。此の早婚の弊の促されるのも其主なる缺點の一であると思ふ。男女關係が隔離されてあるから男は女を非常に珍らしがるので、金のある者は二十歳未滿にして結婚するに至る。其頃に結婚の出來ない者は金がない者か、他に事情のある者で、一生結婚の出來ない者と世の中が極めてある。されば間隙さへあつたら忽ち水の堤を決するが如くに氾濫する虞れが多い、斯くの如き閉鎖は男女間に理解を奪つて社會の進歩を阻害する事幾何であるか知れない。現に我國でも男女關係がもう少し緩かであつたなら、社會の進歩の速度をもつと早からしむる事が出來たと思ふ。併し日本の如きは未だ恕すべし、支那に至つては宛然水と油の如き關係に無理矢理に引離したのであるから、遂に今日の運命に陷り、文明の城に進む事が却々困難なのである。

翻つて歐米先進國の方を見ると、男女關係が甚だ自由である。我が日本に於てもよろしく解放して自由にせしめなくてはならぬといふ人達がある。併し歐米を以て男女交際が全く自由である樣に考へるのは皮相の觀で、日本人に自由でありさうに思はれてゐる佛蘭西婦人の如きも、一人では決して外出はさせられない。必ず母親其他が監督をしてゐるのである少數の醜業婦がカッフェーなどに多く跋扈してゐるから、放縱の國の樣にいふけれども、多數の女子は歐洲中一番嚴密に

監督されてゐるのである。

△隔離に非ずして交際あり▽

△自由に非ずして節制あれ▽

然らば我日本に於て男女關係の改善進歩を圖るには、其何れを擇む可きであらうか。先づ吾人は支那的に絶對的に男女を引離すか、又は絶對に自由の交際を許すか、此二つの標準が生れる。乍併之は共に極めて危險な方法であると思ふ。それならどうしたらよいか、如何なる方法を執るのが今日の時代に適應し社會の進歩に伴ふものであるかといふに、節制ある處の清き交際をなさしむるにあると思ふ。自由でなくして節制がある、隔離でなくして交際があるのである。

凡そ男女兩性は四疊半裡に置けば亂れ易いが、公衆の面前に於ては却つて共に邊幅を飾り、出來得る丈け自分を高尚に保たうとするものである。男女交際問題は即ち此心理狀態を應用しなければならぬ。みなりを亂さないといふ唯それだけでも既に形の上に容儀が正しい事になり、國民の品位が一段と高くなつて見えるものである。我國の教會などで男女が集つて居るが、直接不都合の話を聞かない。獨り教會ばかりでなく學術講演會等でも、男女が集まれば男子は一層大人しく聞いて居る。而して下足を受取る時も女子が其場に混つてゐると秩序が亂れないで、非常に具合がよいといふ。それも女子に對する男子の品位を保つ爲めで、之れが男子ばかりだと必ず下足場が煮え返る樣な騷ぎになり、やれ足を踏んだの、早く出せの、押すな押すなの騷ぎになるものであるが、そこへ女が交ると不思議に溫良しく順序を追ふて退散するとは下足番の語る處である。以上は所謂節制ある男女交際で、雙方とも品位を保つ事を忘れない、斯ういふ清い交際品位ある交際がどこへでも行はれるやうになると、人類の道德が改まつて來る。現今でも團體の交際は誠に美しいものがある。清き交際を奬勵するには此の團體交際といふ事が誠に必要である。我國にも社會の趨勢が次第に此の清き交際を現ずる樣になつて來た。彼の宗教家や教育家の集りは大抵男女共に集會しつゝある、或は職業婦人が、官廳や會社に生じて、男女同席して職業に就事し、或は色々な催しの集會に出席しつゝある。其外親族間の家庭的集會も佛事、祭禮、誕生日等を通じて次第に男女交際の機會が多い



月に舞する農村の男女交際（盆踊）

△不自然なる强制の結果は▽

△女を見れば忽肉慾衝動す▽

此の種の家庭的集會は徳川時代にもあつた現象ではあるが、今日ほど往復が盛んではなかつた。殊に徳川時代には戸主が代表して、親族の交際や其の他に當つて居たので、今日の樣に家庭的の範圍が廣くなかつた。且つ今日の如く手輕く晩餐會が開催されるといふ樣な事がない、彼の同鄕人同町村の祭禮を中心として集るなどが主であつた。之れが其時の男女交際の機會とてもいふ可きものであつたが、併しそれても滿更無益ではなかつた。其時代に於ける稀の集りであるから多少の非難は耳にしたのであつたけれども、同鄕人となれば其間に强い制裁が行はれたから、大した事はなかつたのである。近來はお祭り騷ぎはよろしくないといふ政策的訓令が、斯ういふ集りを漸次少くして來た。彼の夏の月下に男女が打集つてする盆踊りなども、嚴重なる壓迫によつて漸く衰頽してしまつた。これは歌の卑猥な事、流行病の關係等から避けしめたものと思ふが、之れなどは缺點を去つて盛んにしたいものである。

盆踊位平民的の團體的男女交際は少い。須らく之は利用すべき事であつて、廢滅せしむべきものではない。一體男女は引離すべきものではない。接觸せしむべきものである、たゞ其接觸に健全純潔なるといふ條件を必要とするのみである。無理に引離した結果支那人は、女子を見ると如何にも恍惚たるやうな態度になる。彼等は女子を見ると直に肉慾の衝動を感ずるのである。不自然なる强制の結果は斯くの如く。我日本に來てゐる支那人の如何に圖々しいかは、人の皆知る處ではないか。

近頃宗教團體が多く出來た。青年會なども其類であるが、多くは男子ばかりのものである。從つて近來追々女子の青年會も出來るやうである。けれども之も男子と女子とを區別する傾向は必ずしも必要な事ではない。淸き團體交際を獎勵して、男女兩性を理解せしめ男女を珍らしからせずして、風紀を維持し人生の幸福と社會の進歩を希ふ上から見るならば、青年會も之れはやはり男女共に集る團體であるやうにしたい。而して名士が來ると云へば何か講演を賴んで修養を中心の集會をするなどは極めて結構である。他に團體集會としては學校の同窓會があるが、之も盆踊的に祭禮を中心としたものが多い。故に盆踊が禁止せられた結果それ迄影響して、今日では餘程衰へた感がある。

△我國に最も多き結婚生活の▽
△悲劇を如何にすくふ可き乎▽

我國に於ても平安朝や奈良朝時代に於ける男女の交際は天眞爛漫たるものであつた。打開いた愉快な而して秩序の整つたものであつた。此事は萬葉集の歌にも其美しい有樣が描かれてゐるばかりでなく、歌其ものが頗る美しいものである。今から考へて如何に上品な間柄であつたかと思はれる。然るに儒教佛教が入り來つて、其影響を受け男女關係を一變した感がある。併しそれも支那の文字通りに解釋はしない。男女七歲にして席を同うせずといふ樣な儒教も、我國では割合に融通の利く樣に解釋された、これは我國の長所である處の精神の消化力である。支那の教へ印度の教へを受入れても我國

には我國に適當に消化して了ふた爲めに、幸に日本は今日あるを得た。

余は既に男女交際が團體交際から始まる可きを道ふた。今一歩を進めて具體的に其方法を略述して見やうと思ふ。先づ第一に男女殊に青年男女の交際は、如何に文明の域に達したりとするも。經驗の淺い事と元氣の充溢してゐる所謂向ふ見ずの事だから、過ちが出來易い。世の先覺者たるものは最も親切に世話をする事が必要である。

園遊會の如き場合には母にも出來る丈出席せしめ、親たる者は出來る丈自分の娘を紹介する事が大切である。今日はまだ女を箱入にしておいて世に紹介しない者がある。そしては縁組の時に困つてゐるのである。斯くては其の人格や智識趣味等を窺ひ得ないばかりか、縁組の仲介も勢ひ僞善的たるを免れなくなる。其結果は即ち結婚生活の悲劇である。我國の離婚數が世界に冠絕するのも之れが爲めである。現に日本には寫眞結婚なるものが流行する、尤も寫眞結婚でないのも今日のはそれ以上に亂暴な結婚ではあるが——此等は大に考へなければならぬ。人は各特有の表情がある。人形でないから表情のあるのは勿論の事で、寫眞では其表情も分らないから、寫眞では醜いが會つて見ると表情の印象が一種氣持ちのいゝといふ風なのがあつて、輪廓の美よりも却つて持て囃される場合が多い。併し乍ら今日の場合急に改めやうとすれば弊害が伴ひ起るから、先づ第一着として娘の親は責任を有つた意味で其特性を世に紹介する必要がある。世の中と云へば餘りに大袈裟に聞ゆるけれども何か機會があればそれを他人の前、殊に男女の區別なく紹介する必要がある。畢竟嚴重なる監督の下に園遊會なり晩餐會なり、清き交際をさせる様にすれば理想に近く行はれるであらう。斯ういふ風にして行けば、男子が女子を見ると醜業婦同様の觀念を以て接する様な事がなくなつて來る、女子はピアノとかオルガンとか極めて高尚な品のいゝものを紹介するといふ様にすれば、男子は勢ひ敬意を拂はずに居られなくなるのである。

△女子に對する禮節を敎へ▽

△品位と人格の尊重を說け▽

一體我國の敎育は「男子の女子に對する敎訓を缺いてゐる。女子には色々敎科書に出てゐるが、男子には中學、大學に至る迄婦人に對する禮節といふ様なものを敎へない。故に今日は婦人の人格を尊重する紳士の態度を保つ可き敎育が必要である。男子が女子に對する禮儀を辨へて居らぬから、女子に對して輕卒に口を開き、侮辱を加へて自ら悟らないのである西洋諸國では斯樣な事は全く見る事が出來ぬ。日本に於ては動もすると突然婦人に口を利くのみならず、ひやかし的の態度がある。婦人の前で下がつた事や婦人を輕蔑した言語動作を平氣でする、これでは男女交際が清く行きやう道理はない西洋ではお互が自他の人格の尊嚴を維持するから、決して自らの品位を下げ他人の人格を侮辱する樣な事はない。我國はこれが根本に於て出來てゐないから、解放が困難であり危險である。我國の青年は女とさへ見れば、支那の人々の樣に衝動を感ずるのである。忽ち袖を引張る、艶書を送る、下劣な

態度を示す。これが一部少數の不良少年のみならばまだ悲觀すべきでないが、多數の靑年が機會さへあれば皆之れに墮する傾向があるのだから、險呑千萬で、情ない限りである。之れは先に述ぶる如く一層消極的に機會を閉して幸福と進歩を阻害すべきでないから、進んで禮節を說き人格の尊ぶ可きを敎へて接近せしむる積極手段に出でなくてはならぬ。それには敎育が一番大切である。即ち紳士として辨へざる可からざる道、所謂紳士道なるものを、中學大學に於て敎へなくてはならぬ。此の健全なる紳士道が興つて始めて純潔なる男女交際が行はれ、風紀の頹廢が救はれると云つて外國と雖も無論紳士科といふ樣な敎科目がある譯ではない。彼は既に社會敎育と家庭敎育によつて其處迄達し得てゐるのであるが、日本では學校に於て修身科に於て敎ゆる便宜がある。修身科といふのは我國ばかりで外國には餘り見られない敎育であつて、甚だ結構な事である。此外尙社會敎育即ち社會學といふ樣なものを施したらどうかと思ふ。

△平民的團欒的男女交際の▽

△機關たる盆踊を善導せよ▽

我國に於ける一種の男女交際たる歌留多會の如きは、家族的に靑年男女が集る處の樂しい遊戲であるが、今日は嚴極な家庭では此れに出席させない。之れはどうも當を得てゐない歌留多會の如き敎育的娛樂の集ひは、我國ばかりで外國には見る事が出來ない。誠に結構な事であるが今迄のは秩序がない、監督がないからいけないのである。年長者が責任を負ふて監督の下に行はれる樣にすれば弊害がなくして、樂しく交遊する事が出來る。私は斯樣にして寧ろ奬勵したいものと思ふ。盆踊りの如きも亦然りで、村長とか校長とかいふやうな人が、充分責任ある監督の下に主宰者となつて行ふやうにすれば、排斥すべきでなくして、奬勵すべきものとなるであらう。今日の如き生存競爭の激甚なる時代にあつては、殊に地方村落の疲弊する聲を聞く時にありては、大に奬勵して之をやらせる必要がある。人間といふものは活動すればする丈それだけの慰安を要求するものである。現在の農民は勞働に疲れて慰安を求むるに道がない、酒色に墮して資產を失ひ、自暴自棄に陷るのである。從つて慰安の求め得らる都會に集中するのは當然の趨勢である。今日盆踊再興熱が盛んに有識者間に唱へ出されて來たのも尤もといはねばならぬ。盆踊は丁度歐米の舞踏の樣なもので、唯室外と室内の區別があるのみである。我國の盆踊を見て野外であるから風俗壞亂になる、これはやはり室内でやる事にせよと論ずるものがあるが、それでは盆踊の趣味を沒却する、野外月に舞する處に興趣の津々たるものが存するのである。吾人は却つて之を導きやうによつて、曖昧屋の跋扈をも少くする事の出來るものと信じてゐる、歌の下劣なるが如きは之を變更するに左迄困難を感ずるものではない。要するに男女交際の機關として、此の二つを推稱し改善したいと思ふ。思ふに今日は男女交際の範圍と機會が擴張されて來つたのは事實である。世の識者たる者は之れを行水に托して棹を取る必要はないであらうか、要するに男女交際問題は空論に非ずして現實の問題である。如何に指導すべきかは最も時期を得たる研究である。

國民道德を振興せよ

女子東京醫學專門學校長 吉岡彌生

「遠くて近きは男女の仲」といふ諺がある。之れは啻に過去現在に於ける男女關係を喝破したものたるに止まらず、未來永劫變る事なき格言であらうと思ひます。近來男女關係は一層腐敗しつゝある樣でありますが、男女道德といふ樣な事は昔の方が餘程嚴格でありました。若し男女間に野卑な關係を生ずる樣な事があつたとしますれば、それは實に嚴しい社會の制裁を受けたものでありました。處が今日では社會の組織上亦止むを得ない一面もありませうけれども、徒らに表面だけが洵に立派に出來上り、其實裏面に突込んで觀察すれば、其處には思ひもよらぬ程の醜聞を發見する場合が多いのであります。之は要するに自己の品性の低いに歸するが社會も亦其一半の罪を負ふべきです。たゞ表面、形式に重きを置く現代社會の傾向が、見掛け倒しの品格を作り、內容の空虛な人間を生んで、たゞ一押しに押し潰れる貞操が出來上り、風紀が亂れるのであります。

支那の男女七歲にして席を同うせずといふ男女間の道德教訓は、餘りに消極的手段で、今日に適切なる道德ではない。が餘りに男女交際が容易に自由になる事も考へものである。勿論私は男女交際が必要でないといふのではないが、今日の狀態が餘りに無頓着だから、今少し秩序ある男女間の道德を打ち樹てたいと願ふのであります。

□□□□

廓清會の主張であります男女間の貞潔といふ樣な事も、矢張り今日の如き表面上の道德習慣でなく、眞に內容のある立派な道德にしたいと思ひます。我國の現在は未だに歐米熱に迷つて居ます。凡て何事でも歐米式でありさへすれば上等の品であり、人に誇るべき性質のものであるやうに考へ、何でも彼でも歐米を口にするけれども、此等も我國の道德を迷はせた一原因であつたに違ひない。我國には我國獨特の國風といふものがありますとり分け我國の樣な四面海を圍らす國には儼然として國風が發達するもので、それも外に對して遜色あるものならば考へものですが、少くとも我國の樣な忍耐力の強い、同化力の旺んな國柄では、やはりそれを應用して一國の國風とし、所謂國民道德を振興して類ひのない輝きを他に仰がせる事が肝要であり、又當然であるやうに思ひます。

歐米各國の文明は今日に於ける人類社會第一の文明でありますから、文化を進めるには矢張り歐米主義にすればよいと矢鱈に國柄の違つたものを我國に無理無體に注ぎ込むから種々の衝突が起つて來るのであります。尤も前に云つたやうに同化力の強烈な我國ですから、其儘それを入れるやうな事はないが、歐米文明は

地勢の關係が今日の域に至らしめた最大原因たるは申迄もなく、人口の激増は軈て生存競爭といふものを生み出し、其結果が次第々々に種々なる發明進歩となつて來るので、我國の今日などは僅に五十年間にして漸進的泰西文明の域に躍進したといふのは全く同化力といふ國民の特性の賜と感謝せなければならぬと思ひます。凡ての事が日本風に化せられて應用せられたから、何等社會に危險をもたらさなかつたのでありますが、男女交際も我國に劣る處があるからとて、直に歐米の自由を輸入し其儘當て篏めやうとするならば、それは失敗に終る、今日の教會が其例で表面は誠に立派で、何處へ出しても遜色のある風儀てはないが、裏面に這入つて見ると隨分非難のある行爲を敢てする例が多いといふ事であります。歐米各國に於ては教會が男女混交でも一向問題の起らぬといふやうな事は私は知りませんが、國情の違つた日本へ其儘應用すればどうしても失敗を免れぬ、日本などは教會で男女の席を分つてあつても間違ひが起るのであります。

□□□□

さればこれはどうしても日本には日本風に發達せしめなくてはならぬ。私の考へとしては時期尚早しの感なきを得ませぬ。私が女醫學校を開きましたのも、男女交際の兎角危險に陷り易い許りでなく、健全なる女子をしてあたら墮落の深淵に泣かしめる事が往々あるが爲め、其急場を救はんとしての意味を有してゐます。之れが男女同席に置いて問題の起らぬ樣な時代の來るのは遼遠でしやう。私の學校では亭主を座蒲團にするやうな所謂歐米式婦人は養成せない方針であります。外から觀ますと女醫の職掌柄女權擴張の張本人の連れてあるかと見られますけれども、私は飽迄日本式に、矢張り女らしい人格を作り上げたいと願つてゐます。私の意見は男女互に其の特性を發揮するやうに努めるにあります。

されば私の考へとしては、先づ夫婦連れの夫婦交際から始める事にしたい。そして女子にも社會を廣く知らしめ、女兒の教育上に充分男女の人格を教へ込む事が大切であると思ひます。要するに今日では男女の人格的交際が急務でありまして、夫婦交際から、漸次青年男女に移らしめたいと存じます。

□血の滴るやうな手紙□

私ことさくねん四月おやのためしかたなく、このみせにててまことにいやしいつとめお、いたすよーになりました。けれども、一日としてらくな日わありません。もとよりかくごのまいとわ申しながら、かんがえればかんがえるほど、つくづくこのつとめが、いやになりましたし又からだもだんだんに、わるくなりました。それかとゆーて、てられるみてわなし、あけくれしあんにくれておりました、けれどもかくごおきめて、せんせん月十五日にけいさつにゆきまして、じゆーはいぎよーお、おれがいいたしましたが、けいさつのほーてわ、なんだかあいまいなことお申し、又しゆじんのほーてわ、ゆろしてくれませんし、しかたなしに元しゆかんのきゆーぎよーになりました。けれどもみなさんがむりにすゝめるので、またもやつとめのみとなりました、しかし私はどうしても、このまゝつとめるきになれませんし又、からだもだんだんよわくなるばかりて、このまゝつとめるくらいなら、いつそしん ほーがよいとおもうてなんとなくなさけなくなりました、こんなつとめはいやて、いやてなりませんゆえ、どーかあなた樣がたのおちからて、このうちから、だしてくださるをがいできますならばどーぞおれがいてしから、はやくじゆーなみにしてください、どーしてもこんなつとめわてきませんから、どーぞおれがい、いたしまし、けしてごおんはわすれませんゆえどーぞじゆーなみにしてください。まづわおれがいまで

吉原揚屋町高橋ろ一内
△△△△占

廓せいさま

糠喜びの吉原

隆之助

□バー組織に變つた吉原の景氣は素晴らしいものだ。とは道樂者同士の談柄の一話題てあつたが。人の噂も七十五日とやら、月日の經つに從つて物珍らしかつた其噂が稀に耳へ響く位、今日では殆ど忘れられて來たやうな感がある。そして道樂者許りでなく、張見世禁止の結果は、只三階建ての並んだ街を見に行くやうな、そんな呑氣な人達は無いからやがて吉原と云つた處て、昔はこうだつたといふ僅の記憶を辿るやうな事になるてあらうと思はれる。吉原の寂れ行くのも亦無理ならぬ話てある。

□バーになつた吉原の狀況、それは本誌六月號に其一部分を記して置いたから今更茲に述べる事を避けて一旦改正されて又復追掛けての改正といふ話を耳にした自分は早速實地調査をして見た。日本堤署へ立寄つて其眞相を尋ねるべく風俗係に面會を求めたが、生憎居らなかつた。最も受付の係官の命令が『地下室に居るから行つて見な』と仰せられるから行つて見たけれども、初めてゞはあるし又人影を留めないから止むなく引上げるより他に方法がなかつた。其旨通ずると『ウム！居らんか』物凄い烱眼をギロリ！之れも遊廓存在の罪かと同情せられずには居られなかつた。

□二度目の改正とは如何なる組織かを觀るには自分が最初觀いた標本的バーなる者に依つて知る外はないと思ふから、六月號にも記した□△バーに同り廻つて行つた。すると以前の樣子とはガラリ變つて居る、第一硝子張が色硝子て外面から屋內を覗ふ事が出來なくなつた許りてなく、卓子や娼妓や又それを覗き込む人達も居らない。妙な事があるものだ、或は樓が違つたのか知らと考へて見ると、外觀は矢張彼の其當時と同じてある。番頭らしい男に聞くと最初の規則ては張見世禁止といふやうな事があつたが、八月一日に亦復規則が變つて、今度は女の姿を往來の人の目に入れては不可ぬ。其丈ならまだしもいゝ、娼妓の聲迄も耳に入れるやうな設備はならんとの事て、尙其上バーには三人以上娼妓を出す事も赦されない、こんな具合ては此先が思ひ遣られます』といふ成程さうてあつたかと初めて判つた。

□それから其邊を見ると休憩御隨意の看板も取除かれた樣子、夜の十時半といふに火の消えたやうな有樣、娼妓の影は二階の欄干に見えぬ。隨つて口を開いて見物するやうな人はないから婦人抔は適へ入方の非常門が開いたにしろ足を入れる者がない。其淋しさは前の張見世當時の差處てなく、誰しも現在の吉原を見たならば、最う吉原も滅亡の期の遠くない事を思ふてあらう。道樂者らしい三人連の男を捕へて聞くと『御覽の通りて漸次寂れて行くのさ。登樓客の數！それは現在は僅に多いよ、けれども之は今迄遊んだ人達が今度の改正て目先が變つたから奇を好むて遣つて來る一時の空景氣て、その證據には初めて登樓しやうとした處て、娼妓は見えぬしさ番頭も引張らないし何が何だか勝手が解らないから迚も登る勇氣は出まいよ、若し之れて登らう抔と決心する男なら最う末の見込のない者と諦めるより仕方があるまい。併し種々な方法て手を替へ品を更へてやつて居るけれども、却々初めての男は釣れないさうだ。だから現在遊んて居る人達が來なくなれば最うお了ひだ女郎屋の亭主が泣くのも無理はないネ。ても以前より少しても儲かるといふならまだ諦めやうもあらうけれど、人數許りが多くて其の實收入と來たら以前の三分一位空家が一旦塞がつて又近頃ポツ〳〵出來初めたのも其爲めてある』と。

□自分は何も其話を遽に信じはしない。けれども實狀と照合して見れば大體に於て其眞理あるを發見する事が出來る。警視廳が最初に出した廳令を改正して又新に發布した實施方が、皆本會の主張に適ふて居るのが嬉しく感ずるのてある。併し乍ら一方に擴張といふ方面から云へば未だ徹底せない點もないてはないが、兎に角本會の主張を容れて僅か改正實施期から二ヶ月位の短日月て又復今回の英斷の擧に出てたる丸山保安部長の功勞を謝す者てある。

□恥しい事のみ□

今回日露協約の取結ばれたる結果として西伯利亜にける日本の賤業婦博徒强竊盗の前科者全部退去を命ぜらるゝ事となり現にイルクツク以東ストレチンスク、ネルチンスク、プシハ、ニコライスク等に在る者は續々放逐されつゝあり其數意外に多く當局者も一驚を喫し居り猶引續き東淸鐵道沿線露領各驛にある者も放逐さるゝ都合なるが此等は悉く浦潮に收容の筈にて萬一場所不足の時はニコリスクに移すてあらうされば浦潮は醜き等の醜團を以て殆ど塡塞せんとするが如き有樣にて一種の奇觀を呈して居る



廓清春秋

河合北洲

力の叫び、小兒の力

天の星を眸となし、地の花を唇となし眞美愛の露に滴るものは小兒也。「嬰孩を我に來らせよ、神の國に居る者は此の如き者なり」と云ふ。神の脈搏に促され、小兒は神國の鍵を握つて人の國に生る、彼を環つて愛着の雲はたなびき、彼の身邊に希望の光明はかゞやく、彼の然るは啻に天眞爛漫たり、憐むべき小肉塊たるがためのみに非ざる也、神の姿と我との一體たるもの、抱擁の愛着に堪へざらしむ、神々しき彼をして人の國に歸化せしむべきか、將た我家庭を擧げて神の國たらしむべきか。

彼の生るゝや、生るゝの動機を喝破し來る、死の苦み、生の喜びと、これ産室に於ける第一の叫び也。第一の叫びは天の叫び也。地に於ける新生の凱歌也。絕えざる生の要求、絕えざる要求の叫び、徹底せる絕叫となりて開かれざるの胸襟なく、與へられざるの母乳なし、これ熱烈の祈禱、溢るゝ願望の力なれば也求めよ。叩けよ。而して與へられず、開かれざるは絕叫の未だ徹底せざるものある也。

微笑の笑凹に、一家歡喜の小波を漂し無心の動作に、全衆感激の電光に打たる彼の一擧一動は他を動かす自然の雄辯也其單純、鋭感、强記、活動、無邪氣は大說敎の眞髓なれば也。

齒漸く物を嚙みて、物に嚙まれ。舌漸く物を味ふて。物に味はる。小兒、大なる小兒も善惡の果を嗜みて、善惡の果に惑はされ、エデン園外に沙漠の綠地を求む、不安の綠地固より萬全に非ざる也。惟神の國と其正しき安全第一の道に、第二第三のエデンは歡迎す。

肉の新生は靈の新生に如かず。生みの苦勞は育ての苦勞に如かず。かくて父母

□不味いものを食つて肥る法□

女高師教授　大江壽美子

□**衣食住の理かな**　家庭には下流社會に觀るやうな體格の立派な人を、容易に觀る事の出來ないのは何が爲めでありませうか。それは餘りに身體を大切に持ち過ぎるから。と申す方もありますけれども、其大部分の原因は心に滿足が得られない結果なのであります。何事に依らず慾といふものは其上々々と殖つて行きますから、之れで滿足したといふ事がありません衣食住に何等故障の無い方、殊に豊かな人達は常に何をやつても滿足しない爲め、何時も物足らない不平だらだらの世渡りをして居ります結果、身體に惡影響を及ぼしまして夭死したり、精神に異狀を呈したりするのであります。安心立命と申すものは此不平を取り除く事に依つて、初めて得られますが此事に就けても矢張り前號に說きましたやうに感謝が一番大切であると思ひます。

□**芝居を見るにも**　さうでムいます。我々から見ますると洵に嚴しいやうにも見える彼の劇評家抔は人一倍に見られますから、定めし面白く且つ愉快である筈なのに御本人の話では些つとも面白くも愉快でもないと申します。何故かなれば場面に現はれた芝居其儘を觀るのではなく、白の出が惡いとか又は所作振りの足の踏出しが巧いとか拙いとか、一々批評する立場ですから美の觀念抔が薄らぐ爲め、折角の面白味も滅茶々々になつて了ふ、といふ事を聞きました。物事は

となるは易く、父母たるに難し、一家の暴君をつくり、手に餘る泣虫を飼ひ、不良男女を養成す、不良男女と社會、これ既に豚を魔軍に驅る也、狂暴の害は自他の負ふべき深刻なる刑罰也。禍なる哉、小兒。禍なる哉、人生と事業、家庭と國家に生産と食養ありて教育なく、一山百文の學校教育に教授ありて開發なく、學校外の學校なる社會、工場商店、街道、劇場、文學、音樂、趣味、娯樂に誘惑あり、墮落あり、陷穽ありて同情なく、試意なく、向上なし、彼等は俗惡害毒の車輪を列ねて、犧牲の轢死を待つ、かくて小兒の今日は天使也、母なき明日の彼は惡鬼也。人生母心なくんば小兒と事業の建國を如何にせむ。

愛の光、母心と妻氣質

母心、これ受くるより與ふるの生活也、與ふるの生活は神の生活也、少くとも神に至るの生活也。妻氣質、これ現はるゝより隱るゝの生活也、隱るゝの生活は詩の生活也、少くとも餘韻あるの生活也。

天地の妙用は人類に集中す、其氣は陰陽、其性は雌雄、其形は凸凹を代表するの男女、純不純の戀愛、天縁人縁に依りて結婚すれば、性質と體格に補充的なる各半身は、相合するに因りて一個の有機體を作る也。然も、地位に、智識に、體質に、人格に同一平行線に在るもの、自己を完了するの熱望により、互に獨立しつゝ二人一體となるもの、相互の人格を與ふる生活に、圓滿なる家庭の要素あり此要素を具備する有機體は、愛の結晶、生命存續の小兒を與へられて、第二第三の我をつくる、小兒は家庭に於ける神國の存在也、此存在を保留して一種の意識的勢力に發達せしむ、母たる天職のいかに尊且つ大ならずや、母は神との共同作業により人間を創造するのみならず、又一個の人格を創造するもの也。紛々たる婦人の社會事業にしかく最高最大なる貢獻ありや、否や。かくて此責任を果すべく、九ヶ月間細心の注意を以て胎兒を養育し、三ヶ年間身心を忘れて之を哺養し二十年間最善を盡して保護し教育す、搖籃を動かすの手は又世界を動かすの手也詩的生活の一面に神的生活の一面を加へらるゝもの、家庭の女王たるも亦光榮なりと云ふべし。

斯樣に批評的立場から見たり聞いたりしますと、眞の味といふものが消なつて了ふものであります。

□**食事をするにも** 其通りて厶いまして、此汁は辛いとか、甘過ぎるとか乃至は材料が惡いとか、一々難癖を附けてそれ以上美味い物と比較をする時には如何に山海の珍味てありましても美味く食べる事が能ませんのてあります。てすから其結果は胃腸の働きが鈍ります爲め、從つて身體の營養といふ點から行きましては其割合に左程滋養といふ事にならないのてす。之れが例へ不味い物ても、斯うして三度の食事を頂けるのは何と有り難い事てあらうと、感謝をして食事をしますれば批判するやうな心が起りませんから從つて美味く食べられますので身體が肥つて參るのてあります。上流と下流の人達とが滋養物を攝るといふ點から反對な結果を現すのも、只感謝の有無といふ一事だけなのて厶います。てすから

□**心の安心が第一** て理論は第二としまして、此有り難いといふ心を養ふ事が大切てあります。私は美味い物を食ふてはなりませんとは云ひませぬが、心に感謝の念がありさへすれば自づと贅澤は出來なくなるものてあると申すのてす。そして萬事に就ても其心が厶いますれば、物事に用意周到て而も親切になりまして、常に安々と些細な事抔にはアタフタするやうな事がなく、何時もニコ／＼して面白く愉快に暮す事が出來るやうになるのてあります。病氣は氣から起るといふ諺がありますが、之れ抔も感謝の心から病氣の出ない事を證明する者て常に氣を安々と持つて居りますれば、決して病氣抔には罹らぬといふ事なのてす。安心立命といふのも矢張、只感謝の一事に依つて容易に解決される事と思はれます(完)

近代文明の不調和は、女子を家庭より遠心的に解放して妻母二條の軌道より脱線せしむ。理由の其一は經濟問題也。生活難の手に脅かされたる弱者にして尚強者たるの奮闘努力なるべく。其二は内面的問題也。文明の風に誘はれ、理想の雲を追行く、特稱及高等教育の渇仰なるべく、其三は近世の精神的無政府也。過渡時代の潮流は習慣と倫理宗教の碇を押流し、海上に漂ふ捨小舟の然らしむるものあらんとす。かくて其巣を離れしさまよい鳥の如く、家庭生活を離れはなれて、不自然の生活、獨身婦人、變態の男子、職業的婦人となりて、最後の城壁たる女子の貞操をも、馬蹄の蹂躙に任せんとす貞操とは只一人の夫に許すべき、妻の神秘肉秘なる禁斷地也。此禁斷地を開放するに忍ぶものの何事をか忍ばざらん、私娼公娼たるもの、家庭の人位神位を棄てゝ路傍の獸列に入る其悽慘荒涼の狀以て察すべき也。然も局に母心あるの爲政者なく、野に妻氣質の同胞なく、僅かに娼婦的の俗吏眼を以て冷酷彼等を過せんとす。彼等の廓淸と救濟は目下焦眉の人道問題也。

田を作るの力を男と云ふ、田を作るは神との共同動作なるべきも、其野獸性たるは敵ふ可らざる也。野獸性を鼓して獸力の世界に奮闘努力す、爪を研ぎ、牙を磨くも亦彼の日課也、日課の書き散されたる散文を整理すべき、詩的の妻なくんば彼の一生は蕪雜亂脈の外なかるべし。然も幸に祭壇に献げられたるの犧牲あり夫の爲めには死を辭せざる無名の英雄たり、戶内の戰死者たるあるに、更に聖化したるの母心あり、其希望は法律となり微笑は無言の報酬となり、不同意は不文の刑罰となり、溫言は溢るゝ恩惠たるもの、愛の露と潤ひ、太陽の光と輝くあらば、其一あるも以て男子は戰場に奮死すべき也。

天下の政治家、宗教家、教育家をして皆母心たらしめよ、而して其被治者、信徒、生徒をして皆小兒たらしめよ。天下の工場主、商店主、農場主をして各〻母心たらしめよ、而して其徒弟、丁稚、小作をして各小兒たらしめよ、かくて何時も神國を此世に建つべき也。然り、必ずや建てざる可らざるは此國也。

（五、九、二五）

此れがなにより 第一の東京土産

冬の寒さに緊張し切つた大氣が、東風の陽炎から次第々々に弛んで行く春の日の午後、本部を訪れた一靑年があつた。『自分は此度東京見物に來た際、偶と胸に浮んだ同じ郷里である、山形縣西村山郡〇〇村の同字内に、家庭の貧困から洲崎大野樓に賣られた當年廿才の娘の身の上てす。目下病氣で稼業が其筋から許されない爲め、治療代を出すかそれとも前借金を返すかといふ手嚴しい談判が、樓主から來るけれども元々其麼餘裕を殘して置くべき筈がないから、只今では手の出しやうもなく程々弱つて居る樣子。併し其病氣と云つても素人の眼から觀れば如何にも丈夫さうであるが、何うしたなら宜いてせうか』といふ訴へてある。そして昨晩其女に會うと、目下下女に使はれ一方ならぬ虐待を受けて、いつそ死んだ方がと何遍か自殺を圖つたけれども、其都度國元の兩親が目の前にチラ付いて死れなかつたさうてす。と語り了つて吐息を洩したのてあつた。居合せた本部員は其娘の身上に、厚い同情の涙を催さずには居られなかつた。直に其苦境から救濟する事にした。そして靑年が救濟を訴ふるに至つた動機を尋ねたら、彼は『之れは東京の土産てす』と。答へた彼の眼には熱烈な人道の輝きがあつた。翌日相當の手續を踏むで其婦人を本部へ引取つた、併し、病氣があるといふので一先づ救世軍病院へ入院せしめ、全快の上故郷へ送り届ける事にした、靑年は喜んで歸つて行つた。人間を救ふといふ事は尊い仕事てある。

天長節の話

東京帝國大學教授　文學博士　三上參次

△天長節の始まり

天長節の御儀式は明治になつて始まつたものであるが、古い處では、これと同じ様な事がないこともない。今から丁度一一八三年前、奈良朝時代の末、孝仁天皇の寳龜六年九月の中に詔があつて、十月十三日は朕が生れた日である、此時に至る毎に目出度いと思ふ感じの深いものであるから、大きな寺に僧侶と尼とを集めて、毎年此月の此日に經を讀み行をせしむるやうにしたい、海內諸國に普く令して屠ることを禁ぜしむる、內外の百官に一日の休みを賜ふといふことがある。そして此日を名けて、天長節とすとある。

これが實に天長節の濫觴である、今から考へると一寸變なやうであるが、當時は佛教興隆の時代であるから、何かと云へば僧侶に經を讀ませられたのである。而してまた此功德によつて母后のあの世の御爲となり、且普く天下の萬民を救ふことの出來るやう祈らせられたものである。斯くて天長節には盛んにもてあそび物や御馳走を獻じ、朝廷から御褒美を賜つた。

△紀元は支那から

それならば天長節は日本で始まつた事かといふと、奈良朝時代は文化の大に擧つた時で、これは支那から來たものである。唐の元宗皇帝の開運十七年八月十七日、百官に御馳走を賜ひ、宰相其他が天皇に表を上つて長く八月十七日を御喜び申す、といふことがある、而してこれを千秋節と名けた。之れが支那の歷史に天皇の誕辰を祝する始めである、それから二十年程して天寶八年天長節と改名した。これが日本の孝仁天皇の御時より四十年ばかり前である。天長節と變つてから二十年である。

天長節といふのは天長地久の目出度い詞から取つたことは勿論であるが、其名稱は支那では種々になつてゐる、先づ元宗皇帝の千秋節を始めに、それから天長節、徽宗皇帝は天寧節、それから龍壽節或は萬壽節といふ風に稱してゐる。

△天長節中絶の理由

孝仁天皇の御代に、始めて我國に國民が陛下の御誕辰日を祝することが始まつたけれども、其後ずつと久しく、千百四年の間といふものは全く見えてゐない、廢絶して了つたものと思はれる。

尤も朝廷に於ても、たゞ九重の奥だけでは御祝をされた事は、御歷代の天皇の御日記にもある『今日は朕の誕生日だから斯う〳〵いふ祝をした。』といふやうなことが出てゐる、昔のやうな盛んなものは全然なくなつた。自分一家で自分の誕生日を祝ふといふことは、これは臣民の

家庭に於てもある。將軍、大名、武家、町家、農家、みなそれ〳〵簡單な祝をしたものである。

朝廷に於て此盛儀が廢れたのは、政權が武家に移つたといふやうなことゝ無關係に早くから無くなつてゐる。一體日本ては生れた日を祝するよりは、崩御、卒去の日を紀念する方が遙に盛んてある。假へば元服をする、結婚をする、まては目出度いが次には死ぬのてある。此の冠婚葬祭のうちにも死の方は餘程重く見られてゐる。結婚の方は一度結婚して了へば其紀念日を祝するのは僅に二十五年經つて銀婚式とか、それから金婚式位のものてある、それが死の方だといふと、三年、七年、十三年、或は十年二十年三十年と始終紀念式をする。有名な人になると三百年祭五百年祭千年祭などゝいふこともある。十一月三日は申す迄もなく先帝陛下の御誕辰日てあるが、今日は既に消えてしまつて、明治天皇祭といふものが殘つた。

これには原因は色々あるけれども、其一つは開國以來の國體即ち日本の國家の發達が、家族制度から發達したものてあることて、家族制度は即ち祖先崇拜といふことになる、昔は所謂祭政一致てあつた位て、祖先が忘れられぬから親に死に別れた日を紀念するといふことになるのてある、萬世一系の皇國は、從つて先祖を記念し死を紀念することに重きを置くのは自然の數て、我國體の然らしむる處てある、之が天長節の廢れた一因てあつたらうと思はれる。

□生日より死日を記念する

次は儒教と佛教の感化てある、これが愈〻此風潮を助長してゐるのてある、儒教に追遠といふのは親の亡くなつた惠を懷ふことてある。佛教には彼の世といふものがある。魂があるとしてゐるから、死んてから後を大切にと說くのは當然てある。七月の十三日に墓參りをなし、生靈迎へをして先祖の靈を吊ふ、干蘭盆といふのはそれて、佛教の諸說があるが要するに先祖の靈を祭るのてある。

殊に封建時代親子の關係は一種特別て今日に於ては見られないのてある、何千石、何百石といふ祿を殿樣から貰ふ、子供は大きくさへなれば其儘そつくり此の知行を讓つて貰へるのてある。之は實に親の御蔭てある、自分の努力も何も要らないのてある。

斯ういふやうな事から、我國に於ては死といふことを記念した日が多いが、それが段々長くなると生れた時と同じやうなものになる。嬉しい記念と同じやうなものになる。法事をする。始めは勿論悲痛の記憶てあるが、幾年か經つといつか精進料理から大分生臭物になる、五十年百年となるとあべこべに目出度いものとなつて了ふ。悲しい日が祝ひ日になる、忌日が祝日になる。加藤清正三百年祭、菅公千年祭と大騷ぎになる。だから江戸時代の學者が、彼是區別したいと論じてゐる伊勢貞丈は、世人が先祖のお祭の日に忌の文字を用ゆるのは不可い、祭は吉事だ忌日は悲しい心配の日だ、此日にお祭をするのはいけないといふてゐる。又他に說がある、節用集には、忌日は目出度からぬ日と考ふるのは違ふ、亡くなつた日を一念に追想する、外の事には思ひ煩はない、外の事には忌み嫌ふといふのてある。としてある、なる程斯う考へて見れ

ば仔細はない、當不當は別である。

□神社の祭禮 何日か

お宮の祭禮といふものは、一體神様の如何なる緣故の日を祝ふかといふと、上野の東照宮は四月十七日がお祭りで、此日を目出度い日となつてゐるが、何ぞ圖らん此日は家康薨去の日である、悲しい日である、それが何百年と經つと祝ふ日となつてゐる。尤もこれは日本のやうな祖先崇拜の盛んな國だからで、外國などのやうに革命の多い國では早く消えて了ふ。天滿宮はといふとこれはこわもての神様である、怨を吞んで卒せられたから祟られるだらうといふのが元で祀つたものである。それがいつか慕はれるやうになり、文學の神様、お手習の神様となつた。敬遠主義の神様から、斯ういふ風に神體さへ變るのであるから、お祭りの主意の變る位無理ならぬ事であらう。

□年賀のさま〴〵

もう一つ天長節の微々として振はなくなつた原因がある、それは年賀の盛んであつたことである。四十が此祝の始めて五十六十七十八十九十と十年毎に祝つた室町時代には四十二の年を祝つた、又六十一を還暦の祝とし、七十七と八十八をも祝つた。七十七といふ字を纒めて書くと草書の喜といふになるからで、八十八は米といふ字になる處から緣起をとつたものである。要するに理窟をつけて長命を祝さうといふのは人情であらう。

四十になつて始めてお祝をするのは、昔は四十を以て初老とした、老境に入つて過去を追想すると甚つまらぬものであるから、將來を祝福しやうといふのが年賀の始めである。人間の命の相場が五十で、四十を初老などゝいふ事は、我々も既に四十以上になるから氣にくはぬ。

この四十の祝は古い處では、聖武天皇が遊ばして居られる。天皇四十にならせ給ふと、誰か祝ふかといふと皇后である或は皇太后、または太政皇などである。太政皇四十にならせ給へば、次の帝或は皇太后から祝ひ奉るのである。尤も此時代は佛教全盛の世だから年賀も法事とごつちやで、方々の寺へ命じてお經を讀ませ、京都の貧窮を救ひ、一般の人民を賑はせられる。主上紫宸殿に出御あらせられ奏樂の間に群臣に御馳走を賜はる。大分今日の天長節と似通ふた節がある。時としては天皇から臣民の年賀をして下さる事もある。年賀は勿論臣民の間にも盛んに行はれた祝である。石川丈山、江村專齋が百のお祝をした事が老人雜話に見えてゐる。何しろ年賀は十年に一度のことであり、從つて今日の天長節の様に餘程目出度いものとなつて、臣下が表を上り詩歌を上つたりしてゐる。

□明治天皇の御復興

以上は實に天長節廢絕の原因であつたらうと思ふのであるが、明治になつてそれを復興せられた譯である。九月二十二日が明治天皇の御誕辰日で、明治元年始めて百官に參賀仰付られ、群臣に舖宴を賜ひ、天下の罪人の刑を差止められ天長節として下々の者一同お祝するやう仰出されたが全く新な威があつて下々には御趣意が徹底しない。何の事やら解らないそこで翌二年、太政官から九月二十二日を祝ふ事は既に仰出されたが、下々迄未だ貫かぬ。府、藩、縣、衆庶一同改めて喜ばしき日をお祝する様仰出される。斯

くて明治二年濱の離宮て盛んなる式を行はせられ、外國の公使に迄御馳走を賜ふた。明治五年に至り御儀も始めて整頓し皇族方を御始め三條太政大臣以下參列、勅語を賜ひ、日比谷の原て祝砲を放つた六年には大陰暦から大陽暦に改められ、九月二十二日を十一月三日に御制定相成り、五節句を廢めて神武天皇御即位の日と、天長節を祝日と定めさせられた。此時迄は未だ神武天皇御即位の時といふ名て、紀元節といふ名はなかつた。

□宮中御儀式の次第

天長節のお祭典の順序はと申すと、御叮重なる上の御祭りの事てあるからお供へ其他の事は管々しく申上げなくとも想像が出來る。此日は御三棟の中眞中が賢所て、右が神殿、左が皇靈殿てあるが、賢所は天照皇大神を祭り、皇靈殿は御歴代の神靈を祭り、神殿には天神地祇を祭つてあるのてあるが、此日は三所とも御扉が開く、御祭典には御親祭と御代用とある。四月の神武天皇祭は皇靈殿だけ明き、神嘗祭は中の賢所、春秋二季の皇靈祭は歴代の御神靈と御先祖とてあるから、皇靈殿と神殿と二ヶ所が開かれる。先帝の御祭は皇靈殿だけて、父君であるから陛下の御親祭てある。天長節は御親祭てはない。

此お祭がすむと觀兵式である。之も昔はなかつた、拜察するに尙武の國の大元帥にましますからであらう。御還幸になると鳳凰の間にて皇族の拜賀を受けさせらるゝ。それから、宮内省公司の拜賀、群臣は十一時四十分頃參内、宮中の西溜の間に控へてゐる、十二時頃豐明殿へ廻はる、一同靜肅に待つてゐると、君が代の奏樂につれて陛下御出御あらせられる其時の神々しき有樣、實に何とも云へない尊嚴な、崇高な感に打たれる。

□あやに畏き極み

豐明殿の有樣は、日に月に御盛んな我國運は、御建築當時は隨分大きかつた此御殿も、今日は百官が納まり切れず御廊下迄溢れて群臣の席が出來るに至つた。今は最早それにても及ばず、華族もやうやく公侯爵迄は勅任と一緒であるけれど伯子男爵以下は東の溜りとなつた。公侯爵も殆んど鳳鳴殿に納まり切れない有樣國家の起る時は這麼ものかと感ぜぬものはないのである、我々が始めて天長節に列した時は、勅任官は極めて少く、今の親任官位もなかつた程であつた。それが今日ではどうかといふと、參列者の總數無慮六百人といふ實に隆んな事である

聖上臨御遊ばされ勅語を賜はると、總理大臣が最敬禮をなして謹しんで聖壽無窮を祈る旨の御挨拶を奉答する。首席外使が佛語か英語て、我々迄此席に呼ばれて忝い。外國の使臣は皆陛下の御息災皇室の御繁榮を祈ると申上る。式部官が、これを日本語に飜譯すると、陛下は鳳鳴殿の一段高い玉座に御着座になる。群臣も着席する。此間といふものは實にどうも虫が這つても直に聞ゆる位、誰一人咳さへするものがなく、水を打つたといふのは斯ういふ有樣であらうと思はれる。それから御叮重なる日本料理が出づる。金モール眩いばかりの見事な間に、一人異彩を放つてゐるのは亞米利加大使の燕尾服である。外國使臣が覺束ない手つきて箸を取つてゐるのも面白い。君が代奏樂の裡に一同退出。そして菊の御紋の御盃と鶴の作り物の菓子折を頂戴して歸る



花は櫻木人は武士

（大佐夫人故山室機惠子を弔ふ）

金森通倫

此は金森先生が、山室大佐夫人の葬儀に際してせられたる說教の筆記であつて、千人の聽衆をして悉く嗚咽せしめたる近來絕無の大說教である。

山室大佐夫人の履歷に就ては、山田大校續いて兩名のお話ありし故、最早よくお分りのことと思ふ。即ち夫人が名譽を棄て、地位を棄て、富貴を棄て、安樂を棄てゝ身を救世軍に投じ、十餘年惡戰苦鬪の歷史は既に明かなるてある。然らば此夫人が如何なる精神を以て、當時の人々から世の垢、地の塵の如くに見做され凡ゆる迫害を受けたる救世軍に身を投じたるかに就ては、兼て多くをいはず、其良人にすら多く語らなかつた。然るに此度天國に赴くに先ち、始めて口を開いて之をいはれた。『私は我日本の武士道の精神を以て、基督教を受け、之を行ふて今日に至つた者である』と

■ ■

夫人は武士の家に生れ、武士的教育を受け、夙に武士道の何たるかを知て居つた。武士道とはよく人のいふ如く『花は櫻木人は武士』といふ精神である。然し啻に櫻花の美しい處ばかりをいふのではない。あの美しい花が、然も其壽命が甚だ短い、僅に二日三日で散つて了ふ。人に惜まれて居る間に、散るのが櫻の生命である。武士も亦其と同じこと、楠正成の死、佐倉宗五郎の死皆其であつた。私も夫人に交つて彼女の中に一個の女丈夫、天晴の女 丈夫を見出した。言葉をかへていへば人の爲、世の爲に生命を棄てる。其生命がけの仕事が武士道であつた事である。

彼女は武士道の教育を受け、之に由て立つた。然も基督の十字架に由て聖められた者である。而して其處に現はれたものは何か、基督教の急先鋒、救靈戰の決死隊此が其の結果であつた。然り、彼女は決死隊員の一人となり、十有八年美事な戰を爲した後、四十三歳を一期として今や散つたのである。眞に美事に散つたのである。

武士道に育てられたる佐藤機惠子が、基督教の光に由て變化せられ、決死隊中の一人物を造り出し、山室機惠子と成つた時、彼女に著しく現はれたのは何か。大說教に於てか、否、將又大著述か、名論卓說か。事業はといつても、到底此婦人の胸中に燃えたる猛火を滿足せしむるものではなかつた。然らば彼女が畢生の力を入れたるは何處か。其火は何處に燃え上つたか。否其火は外に燃え出さずして、内に燃え込むだのである。

■ ■

佐藤機惠子が消え、山室機惠子も消え、而して現はれたのは、日本救世軍の總大將山室軍平其人である。彼女の全部には山室軍平の中に、絕對に隱れて了つたのである。所謂縁の下の力持であつた。大佐が幾千の說教をせられ、幾多の著述をせられ、又ときの聲の上て何幾萬の人々に敎を說いて居らるゝ。其は大佐一人ではない。其後ろには常に大佐夫の人篤き祈禱が隱れて居たのである。

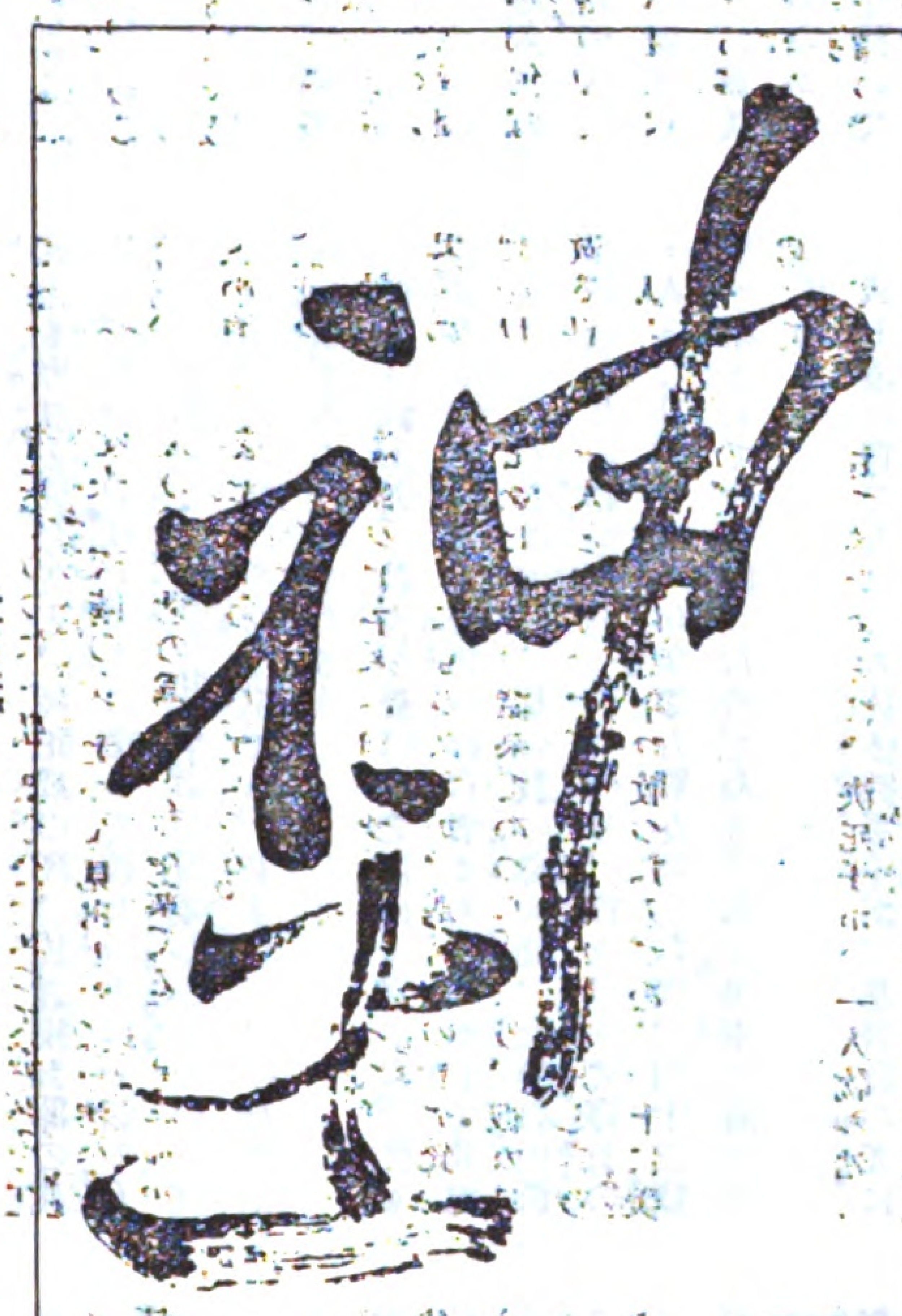
彼女は祈禱の人であつた。斷ず眞實の祈禱をして居つた。彼女が涙を流して祈つた祈禱がきかれて、日本救世軍の總大將が出來たのである。私は面前にていふことを憚るが、大佐は眞に驚くべき力を持つた人である。其力は何處から出るかといふに、それは祈禱から出るのである。血と涙の祈禱があつたからである。大佐には多くの人の祈禱がある。而して其第一に來るべきは夫人の祈禱であつた。私が夫人と話をして驚いたことは、祈禱の經驗に富まれたことであつた。私に話された丈でも數十を數へる程である。然も大佐のいはれる處によれば、『妻が祈るのは、何處で祈るのか分らぬ』とのことであつた。彼女は全然彼女自身を良人の影に隱し、其祈る姿さへも見せなかつたといふ私は此に人に妻たる完全なる模範を見る者である。

■ ■

然らば今後の機惠子女史は何處に見るか。山室大佐に見るべきである。此迄も見たのであるが、今後は一層の活躍を見るであらう。何となれば彼女の靈は肉體を離れた、肉體は此處に横はつて居る。然し乍ら彼女の靈は依然として大佐と偕にあり、決して大佐を離れることはない。大佐は決して大佐夫人の祈禱を失つて居ないのである。

私は天國に於て如何なることがあるか知らぬ。然し今後六千萬同胞の救の爲、決死隊を率ゐて南船北馬せられ、如何なる惡戰苦鬪をせらるゝか知れぬ大佐を、彼女が如何て見棄ることが出來ませう。私は夫人の昇天に際して大佐の事を考へるが。大佐は夫人の内助を要す。然し其内助は飯を食はせ、子供を育てる如きことばかりてはない。其も内助には異ひないが、其よりも大切なことは大佐が靈的の力を得らるゝことてある。

夫人が病篤くして、自ら此世を去る時の遠からざるを察し、其覺悟を定めたる時、後には餘り健康にもあらぬ夫、然も今後益々奮鬪の時期に入りたる者を遺し、十七を頭に七人の子女を遺して、逝かればならぬことは悲慘の極てあつた。然も其間にあつて、彼女は少しも動せず。靜に神の命を受けたのである。而して其遺言には一として肉につけることがなかつた。金の事もない。衣服のこともない。彼女は最初から衣服のこと等は考へたことがなかつた。曾て結婚の時『若も衣服を造つて下さるなら、皆無地の物ばかり下さいませ』といふことてあつた。身は書記長官の妻にてあり乍ら、生涯に未だ制服を新調したことがない。皆染返して舊い物を用ゐたのてある。唯最後に愈々天國に往かるゝといふことになつた時、出來るならば正規の制服を着けて凱旋したしとの希望に、大急ぎて新調したものを、今玆に身に着けて居らるゝのてある。而して其處に多少の金があるならば、其は大佐の書物となつた。或は子女の教育に、若くは難儀な人々に施を施す爲に費やされたのてある。



山室大佐夫人の絶筆

■■

斯て其遺言は悉く心靈的の問題ばかりてあつた。其第一は子供等に與へたものてある。臨終の前日の午前十時頃、大佐は私を夫人の病室に伴ふて話をさせられた。其時彼女は右の手をのべて私の手を捕へ。『私の子供の信仰をお托し致します』と言はれた。其處には日本救世軍の書記長官たる大佐が居られる。併し夫人は私を知つて居られた。而して其子供等の信仰を私に托せられた。不肖乍ら私は此任を負ひませう。彼等の衣食のことてはない、彼等の靈魂の面倒を見ませう。

夫人は病の爲に左の手が利かないので子供等に紙を持たせ、書き記した文字は何か。『神第一』

此れ等七人の子供等に與へたる遺言は此てあつた。此が救世軍、此がキリスト教てはないか。『汝等は己の爲に生きる者となつてはならぬ。神の爲に生きよ』といふのてある。私は此信仰の教育を托せられたる者として權威を以て、子供等にものいふのである。民子も武甫も、友子も、周平も、光子も、善子も、而して此處には居らぬが、生後十日なる使徒も、お前方は神が第一てなくてはならぬ。お前方は自分の爲に生きてはならぬ。神の爲而して次には六千萬同胞の救の爲に生きよ。民子も友子も母親の通り、機惠子の通りになれ神の爲人の爲に散れよ、光子も善子も母の如き女となれ。武甫も周平も使徒も、汝等の父山室軍平の如くなれ。神を第一に、而して次に六千萬同胞を置き、己を無き者として散れよ花は櫻木人は武士、此が最後に汝等に遺す訓戒てある。母は汝等に安樂、立身、出世を與へんとは思はず。母は十餘年の救世軍に於ける生涯に於て新調の制服すら着ざりしに非ずや、汝等は決して己が富貴榮達安逸の爲に生てはならぬ。母の臨終の語を思ひ、神を第一に置き母の如く生き、母の如く死れよ。』

■■

此が彼女の其子等に與へたる遺言てあつた姉が十七、次が十五、次が十、次が八つ、六つ、四つ第七は生後十日、而して何も肉の事に就てはいふ處なく唯七人の子女に『神第一』の遺言をのこして逝きたる山室機惠子は神の使徒てはあるまいか。救世軍の女士官を始め、凡ゆる基督の神の鑑が此處にあるてはないか。救世軍は決死隊てある。未だ信仰せざる前、基督の血に觸れざる前の佐藤機惠子は武士道の魂、基督に觸れ、救世軍人となりたる山室機惠子は決死隊員の一人となつたのてある。

「我等の戰爭は生命かけてなくては出來ない。眞實決死隊の軍である。散れよ散れよ、神と六千萬同胞の爲に『花は櫻木人は武士』。」

私共は日本に於ける救世軍の母を喪ふた。然し日本人救世軍の女士官は一人々々山室機惠子となり。男子の士官も下士官も兵士も、準兵士も、同じく決死の戰を爲やうではないか。攻めとられればやまぬ決心を以て、日本救世軍の母山室機惠子の爲に弔合戰をやらうてはないか。此に後れをとつたならば何の顏あつて機惠子に合ふことが出來るか。

彼女が親戚友人に遺したる言葉は何か。死に垂んたる諸君の友が諸君に遺したる語は何か。『幸福は唯十字架の傍にあり。』

□

彼女は主の十字架に由て救はれ、決死隊の一人となつた。其力の出所は何處にありや、彼女は基督の十字架に此を見出したのである。

夫人は今何處にあるか。夫人は天國にあり、神の御傍に居るのである。

我等は夫人の昇天に由て、天國と現世との隔りがとれた。其は何の力によるか。彼女の人格か、武士道か否假令何があつても罪人は罪人である。罪ある間は天國に入ることが出來ぬ。今天國の門は廣く開かれて居る。然も此に入らしむるは、唯基督の十字架の血あるのみ、此血の救を受けぬ者は榮の御國に入ることが出來ぬ。

山室夫人が友人に遺したる言葉は、第一には『どうぞ皆樣が此十字架の血に由て贖はれ潔められよ。皆樣は此血に由てバプテスマを受けて居られまするか。私の上に落來つた如きことが、皆樣の上に起つたならば、私と共に手をとつて天國に入ることが出來まするか』『此十字架に縋つて下され』といふことであります。而して第二は『此十字架を負ふて下され』といふことである。機惠子は此を負ふ、十有餘年此を負ひ、今や其十字架の重味の爲に散つた。然し其生涯は喜びの生涯てあつた。一點の曇りなき、喜びと感謝の生涯であつた此七人の子を遺して死んで行く婦人が、安心と、滿足と平和と勝利との中に凱旋することの出來る力は何か基督の十字架『幸福は唯十字架の傍にあり』滿堂の諸氏此十字架を負ふてお立ちなされ、終に臨むで今一度彼女の生涯を追想する時、第一彼女の主義は何か。『神第一』即ち同胞の爲に己は消えてなくなることである。第二、彼女の精神は何處か。基督の血を見ぬ前は武士道、基督の十字架に贖はれた後は救靈戰の決死隊であつた、而して第三、彼女の信仰は何か。唯基督の十字架の血あるのみ。何卒此を最後に諸君に呈したる言葉として味はれんことを。神の御惠。家族、親戚、友人又救世軍の戰友諸君一同の上あらんことを。

□貞操蹂躪の訴訟□

■を起して男子を懲らしめよ■（安部磯雄）

近來頻々と起る離婚や貞操蹂躪やに關する訴訟問題に就ては、私は、日本の女が從來男子のために壓迫されてゐて、名譽や地位の有形上無形上に於ける損害を受けても大抵の場合泣き寢入りに終つてゐたのに比して其損害を法律に訴へて解決しようとするのは寧ろよい傾向と思ひます。元來法律は弱いものを保護する爲めに設けられたもので、夫婦關係に於ても夫が不法な行爲や不法な處置を取つて、細君が再び從來の名譽や幸福を保つて行けなくした場合なぞには、矢張り法律の保護の下に最後の解決を求めればならぬし又それ以外に取るべき手段がないと思ひます。勿論、私とても法律に訴へればならぬやうな結果に立ち至る事は決して好ましいものとは思ひません。然しながらこんな結果に立ち至つた時にはどうしても之より外に解決の方法がないから遠慮なく損害を受けた人は、法律の力を借りるがよい。けれども勿論この事は理想的てなく、從つて種々の弊害も生ずるが、從來の女の如く泣寢入りに終つて了ふよりは寧ろよい事であります。夫婦關係に於てはどうしても女が弱者の位置に立つてゐるそして男から虐げられてゐる、然るに日本ではそんな場合法律に訴へると云ふ事を妙な眼で見てゐる。勿論その人の主義が法律の力を借りぬ例へば亞米利加のクエーカーと云ふ主義の如く、決してどんな事があつても法律の力を借りないと云ふ主義の立場から起つてゐれば面白い事であるが、然し單に財產上の損害を受けた場合に訴へて置きながら、名譽を毀損された場合に訴へぬのは（殊に婦人が男子から受けた場合を指す）矛盾した事、おかしな事と思はれます。そんな場合にはどしどし訴へればならぬ、縱令夫婦の間であつても然りである。今日は最早男子には種々横着なものがゐるから單純に道德の力のみで濟まつては行きません。それ故横着な男子の不法な行爲を除き、女子が有形無形上の少からぬ損害を受けながら泣寢入りに終るのを防ぐには、法律が解決を與へる唯一のものであります。



虛僞より愛へ

福井壽郎

梧桐の一葉は早くも天下の秋を報ずる時となつた。凋落をかこつ蟋蟀はそも何を吾人に囁くのであるか。萬緑日を追ふて靜寂の冥府に歸しつゝある此の時に當つて吾人有情、又多少の感慨なきを得ない。

伊藤江南兄足下、

飛田遊廓問題を提げて、廓清會の諸賢が滿腔の熱誠を罩めて道義の爲めに萬丈の氣焔を東西の二都に上げられたのは未だ此の間の樣であるが早くも半ヶ年の日星は流れ去つた。其の間警視廳では公娼を保護するの目的?(乃ち娼婦の人權を蹂躙せらるることを當然として樓主の爲めに之を認め娼婦の自由を剝奪せらるるを公認せる結果となる今日の公許賣笑の保護)を以て私娼の撲滅を策した人民の安寧秩序の擁護を目的として人々相依りて作りたる保安制度なる警視廳は事實上の奴隷を認むる、人權蹂躙を强者?の爲めには公許する片手落の依估贔負なる手段を以て私娼を都市より逐はんとし、社會の幸福個人の美德漸進の爲めに男女の貞潔を奬する廓淸會は人道の爲めに公娼の廢止を竿頭の大問題とした。斯くて此所に此の二大主張の衝突を見たのである。即ち一は國權を以てし一は即ち民衆を以てした。彼は即ち力を以てし、我は即ち智を以てした、然れ共智なきの力は暴にして、力なきの智は虛に過ぎない吾人は速に此の智と力を合一せらるゝ日の來らん事を熱望せざるを得ぬ。

伊藤江南兄足下。

物質文明と其の裏面!生活問題と賣笑營業!影の形に於けるが如く明暗常に伴はざるべからざるものなりとしても私共は常に吾人並に我が友と共に明るい世界に生活したい。それと同時に同じ自然より享けたる人格の保有者の暗い生活、汚れたる營業を爲すものとも何日かは彼等の覺醒する時が來て共に手を携へて黎明の太陽を芙蓉峰の上に眺むる悅樂を享けたい。自ら恥づべき業に從事する苦痛と凌辱を知りながらも自ら脫し得ざる慘酷なる桎梏の下に沈吟する婦女子、或は誤られたる舊思想より來る犧牲の精神より自ら其潔白の靈肉を泥土に委することを敢てする女性(名譽とすると云ふ方が適切かも知れない)(不幸にも我が國に於ては遊女が文藝の骨子をなして親の爲め病夫の爲めに其の節操を他人に提供することが美德と賞せられたが爲めに其の感化を蒙つた)に生の自覺を與へ、生存の權威と喜悅とを知得せしめたい。

同時に何人も自己の自由を主張し他人の自由を尊重し自己が自然より授けられたる責務を全つたからしむることと無上の光榮と心がけしめたい。

私は自己が善に進まんとして進み得ざる苦痛を常に感ずるが故に「善に進め」と多くの人に言ふ資格が全然ないと信じてゐる。併し私は善に進むべく心掛けて居る、かるが故に多くの人と共に多くの人の後に附隨して善に進んで行きたい。尙自白すれば私はYoshiwaraを一度も覗いたことがない。この事實は私が公娼問題を徹底的に論ずる資格を奪ふに充分であるかも知れない。

此の意思を抱き此の無資格を以て社會の大問題を論ぜんとする私の大膽厚顏を幾重にも社會の諸君の前に御容赦を願ふのである。

□□

伊藤江南兄足下。

飾りなく直言すれば私は今日の所謂宗教家、教育家に至大なる不平がある。國家の法律と雖も善良なる人民を保護するよりも惡人を罰することのみに急ではないか、醇樸なるべき農村が疲弊して華美なる都會、罪惡を以て築ける高樓は其の盛榮を誇らんとしては居りはしないか。大惡人は公然として法網をくゞり小盜人のみが獄屋の深夜獨り夢に覺醒めて、前非を悔いてゐるではないか。

罪惡を積んで築ける都市、華美を競はんとする伽藍敎會、其の下に群集して刹那の享樂を求め空虛なる信仰を得んと喚げる人類!あはれ文明の權威今や何處にかありやと云ひたい。

更に慄然とする程に恐ろしいことは都市の宏壯よりも、衣服調度の艷麗よりも人類多くのものの頭を犯せし所の柔弱不徹底なる思想である。底力のなき主義主張、これやがて現代文明の弊害を叫ぶ基礎でなければならん。

弊害ある此の基礎の上に立つ宗教家、教育家、司政家に世の迷想を打ち破るだけの權威ある學問說教政治の現出せざるは蓋し當然ではなからうか、牧師は富豪に近き權勢に媚びんとして焦慮それ事とし、教育家は

名譽に走り黄金に走らんとして日も足らざるが如き醜態を曝露せんとし、政治家は榮爵を求めんが爲めに節を賣りて恥ぢず、事茲に至つては世も末ではないか。世を導くもの決して學者宗敎家政治家のみではない。勿論各個人としての權威ある生活其所に時代の高調、優越が期せられるのであるが、少なくとも世の指導者たるが如き地位と職責に身を委ぬる者は、人心の敎導、靈肉合流文明の誘導であることを切實に考慮して欲しい。然るに此等の人にして健全なるもの少なきを事實とすれば憂慮に堪へざる次第ではないか。

伊藤江南兄足下。

今や吾人は我が味方と賴むべきもの甚だ少なきことを覺悟せればならぬ。然し汚泥より出でゝ容姿亂れざる蓮花の清いのは誰れが目にも快いではないか、崇高ではないか。

人生全ての虛僞を捨てた時眞實の愛の泉は流れ出づる。紅紫を以て織りなされたる虛榮の衣を脫ぎ捨てた時に豐艷な肉體美は絕對の權威ある藝術そのものとして爛然たる光輝を發する。繰り返して云ふ。今や吾人は他力を賴んで自己の清澄を期するには其の周圍はあまりに濁つてゐる。擧世滔々眞理は爲めに蔽はれてしまつた。

□　□

伊藤兄足下。

吾人は茲に於てか、神の敎へる善に努力するより外はない。信じて斷行する勇氣を養なふより外はない。あらゆる人々が醜惡なる虛僞から覺醒て萬物に純なる愛をそゝぐ時自ら公娼問題、私娼問題の解決が來るではないか。空虛なる理窟の千萬言を費すよりも誠實なき說敎を百年千年を續けるよりも、醜穢なる士人の絕對の愛は遙かに多くの荒める心を蘇生らしめ得ることであらう。單に公娼問題に限らず全ての問題の解決は愛にまたなければならない。

大宗敎家として萬人に敬仰せられるクスリトの偉大なるは彼れがマリアの私生兒であつた故ではなく、彼れの五體を熱してゐた愛の焰である、人一番熾烈なる熱誠ありしが故に、彼れは大工の私生兒から處女に宿つた聖靈とまで出世したのである。安國論を書いて身延に隱れてしまつた日蓮は漁夫の子である、けれども彼の大慈の愛は覓に鎌倉執權を靡かして末法の今日聖人として尊敬せられてゐるではないか。自己を捨て虛僞から脫した愛こそは世を救ふ力である。

私は廓淸會の諸賢が孤勇、常に世の毀譽褒貶の外に超然として活動せられてゐることを嬉しく思ふと同時に、空漠なる社會の彌治馬のおさきに使はれて、自己の信念を通し得ない人間は豆腐の角に頭でもぶつけて死んで了へと提言して筆を擱く。（五、九、一三稿）

□不面目な社會　■基督敎退治號の化の皮■

『大國民』といふ一雜誌がある。近頃基督敎退治號を發行した。それに大臣や博士など堂々たる肩書ある人の名義を以て。大層基督敎を非難攻擊したる文章が載てゐる。ところが同雜誌八月號に警視總監西久保弘道氏の名義を以て「邪宗敎の熱慮反省を促す」と書きたる記事は九月號に於て全部取消した、仍つて東京神田美土代町基督靑年會館內の宗敎通信社は博士などの地位を有して、よしその議論の趣意がいかに幼稚にして粗末なるにもせよ、一般讀者をして多少の注意を惹くに足る人々の所論につきて、一應之を確めてみることは全く不必要なることで無いとて、次の如き問合の書簡を發してみた。

一、基督敎退治號のために御意見御發表に相成候哉

二、閣下の御直談又は御執筆のものにて全文の意味に間違無之候哉

三、若し間違有之候はゞ如何の點に御座候哉

これに對して文學博士遠藤隆吉氏、文學博士澤柳政太郞氏、文部大臣高田早苗氏、法學博士子爵平田東助氏、海軍大學校長佐藤鐵太郞氏、中央新聞社長吉植庄一郞氏、世界新聞編輯長野澤枕城氏等より來た同答の總てに左の如き共通する點ありとて公表してゐる。

一、基督敎退治號に揭載する承諾を得たるものなき事

一、名義者の執筆したるものなきこと

一、名義者の校閱さへ經たるものなき事

一、名義者が如何なる題を以て如何なる文章の出てたるかを知るものなき事

此の如く虛僞を以て世と人とを欺き恬として更に恥づる所なきのみならず、更に去る十月號に於て、又候同一の毒筆を以て基督敎を毀損せんと企てつゝありと聞く。その厚顏實に呆るゝの外なし、

社會の誤解なからんことを望む。

□天鼓の響き□

最後の勝利者

沖繩　島袋德加

余は八月號に於て熱情溢れたる益富氏が故山室大佐夫人の人物を遺憾なく述べ盡されたるに依り初めて同女史を知り我が國にも斯かる女丈夫ありとは夢にも知らざる程なりき。流石は日本救世軍の母たるに恥ぢざる品性力量及人格を備へられしなるべし。

我が廓清會も實に同女史の如き人物が最大必要にして特に奴隷的娼妓の憫人救濟は妹姉たる婦人等の責任と迄考へらるゝなり。亦本國たる英國のみならず外國に對しても躍動して專ら純潔の道德を宣傳し、公娼の弊制を廢止し、悲慘なる姉妹を奴隷の生涯より救濟せし有名なる彼のジョセフインバトラー夫人が其千辛萬苦を排して歐洲大陸に乘り出せし男氣は男子と雖も及ばざる所にして古哲の『男を鼓して起つ時は不可能のことも可能となる』とはバトラー夫人に於て能く實現し得るを見るなり。

今兩女史の心懷を探るに何れも正義人道の犧牲者にして眞理の宣傳に生涯を沒したる愛國者なるを發見せずんばあらず。我が國家を熱愛する會員諸君よ。

大正の聖代我が日本の社會は今や如何日々の新聞紙は如何にして青年を墮落せしむるかを苦心攻究するが如き態度にて常に紙面は『花街便り』を以て滿たされ居るに非ずや。放蕩兒養成所たる遊廓は大都市たる大阪に增設され今や國民道德の危機に到れる今日たる全く暗黑の時代に非ずや。最暗黑の社會に非ずや。然らば諸君は是れを如何にすべき。斷念すべきか。坐視して忍ぶべきか。否、其儘放任すべきか。諸君よ、諸君よ、起て、起て、今は休息すべからず。諸君の堅く握れる眞理を宣べよ、傳へよ而して倦む勿れ。恐れず驚かず叫べ大いに叫べ。例へ眞理は現在に嘲笑を免れざるも最後は必ず勝利を得べし。即ち眞理は最後の勝利者なればなり。

其眞理の成長は聽て最暗黑の倫敦に光明を輝かしたるヴイリヤムブースを起たしめ、淫逸の英國を救ひえん爲めにバトラー夫人を躍らしめ、我同胞を邪より救はん爲めに獻身したる山室夫人の如き、是等は實に眞の愛國者、眞理の使者、神に似たる人に非ずして何ぞや。眞理を奉ずる者は遂に勝利を得亦其靈たる永遠に朽ちざるべし。かつて大隈侯は公娼廢止の演說に臨みて『眞理は最後の勝利者なり』と曰へり。吾人會員は大隈顧門の此不朽の言をたゞ信じて最後の最後迄愛國義勇の此人道戰を挑まんのみ。

貧民と社會

深川　有馬純雄

口高樓輝く市街を見る時は實に美はしく壯大である然其の裏面を觀るを百鬼夜行も只ならぬ光景を見る事がある。私は今深川の貧民窟に使命を負ふて趣味に活て其の片から私の要求を書き記す。東京市中を荒す乞食狗盜、放火見、淫賣婦、板の間稼、屑拾、窃盜、掏兒等は殆ど本所深川淺草の三區で〆めてると言つても過言ではあるまい。彼等は酒と色とは俺等の生命だ。妻はなし、家はなし、名譽財產があるではなし、毎日朝から晚まで血の汗で働らいて居る世の中に何の樂があるか。酒と色とが惡魔だと言ふ救世軍の奴等の言葉が解らない飲め飲め胃の破裂するまで、飲んで死んだら極樂よと牛のやうに飲み虎のやうに笑ふ。

口俺だつて惡い事はしたくねえても冬に着る衣物はなし、寒天に單衣一枚で朝から晚まで一口もありつかれと仕方がねイ、盜んで牢に入れられても死なぬ方が好よ。脊に腹は代えられや………ほんにさうよ。俺も若け時から幾度と牢に入つたが俺許りぢやれエ。朝出て夜牢屋に歸る奴もあられ、俺等も惡いが又社會も惡い。

口不平の聲は改革の聲、改革の聲は進步の聲とか。歷史は不平なき國家は退步的國民と證明してゐるが斯の不平は斯の國の進步になるんだらうか。彼等貧民の中から新らしい男女を發見することは出來ない。けれども創り變える事は出來る。打捨て置けば貧民は百年經つても元の儘の貧民だけれども雛形を與えされすれば猫にでも虎にでもなす事が出來ると短い經驗の中に知つた。故に與多くの同情と犧牲を有せねばならぬと。貧民の性は背辯ありと斷じ貧民は養ひ難しと嘆じ貧民は彷彿せずと與り貧民を眼中に置くは眞丈夫に非ずと威張つた舊い思想から先づ拔けねばならぬ。近時文士抔すら此邊に着目して來たのは誠に喜ぶべき現象である。乍併研究及び方法を見るに及んでは未だ吾人の希望に副はざるものの多きあるを覺ゆ。

口貧民に對する働らきは、昔の婦人の如く心得てはならぬ。たゞ如何に心を奪ひ、如何に玩弄し得るの事の

み考へる先に根底に入込んで研究せねばならぬ。從來過去婦人は男子の玩弄物として男子の寄生虫として自身又それを使命と心得てゐる者すらあつた。捨てられたる如き婦人が社會に立つて、より重大なるペトトを働くの社會は、より文明なる社會を生み出すは是れ亦爭ふ可からざる事實である。故に社會文明の改善と進步は婦人の地位を上進せしむるにあると云ふ點から下位とせられたる婦人でも放棄する事は出來ぬ。茅屋に眠民を見るといふ研究者の目的及方法は果して此の要求に副ふ者なるや。婦人が男子の玩弄に甘するといふ結果は爾來社會組織が婦人に教育と財產を與へず婦人の獨立を許さずつまり自己に活る事の出來ぬ者と宣言し來つた此際、誰か弱肉强食の今日の社會より救はんものは實に醒めたる相愛主義あるのみであるといふ事を。

口婦人問題と貧民問題とは重大なる社會の二問題である、而して是れを解決するの方法は先づ婦人をして奴隷の境遇より救ひ出し、彼等を平等なる人間たらしむる如く、知識と財產の獨立は勿論現時の社會自由競爭の組織を變じてやられければならぬ。自覺よ自覺よ、失望傷心の餘り醉眼朦朧暗黑にある貧民を有する日本よ所謂世の虛名、物質的有形の寄禍を犧牲となし、憫れなる勞働者色光澤もなき青白き陋態の救ひのため奮起せよ。

慈愛と友愛に輝ける人格

家田作吉

先輩故藤田寬太郎氏が明治廿一年基督信者として受洗せられしが、途中偶としたる誘惑によりて、信仰上の挫折を來るもしたる親友た原忠美先生の熱烈なる勸告と奨勵とに依りて、再び元の信仰に立ち歸り光明ある少希望ある幸福の生涯を送ることゝ爲られたり。

明治四十年一月二日藤田家にとりては容易ならざる天の譴は下りぬ。そは其の獨子なる久太郎君が天に召されたることなり。藤田氏夫婦の悲嘆愁傷やる方なかりしが、幸にして信仰復興後の出來事なりしを以て、妻に絕望落膽の深淵に沈らずして、能く神の與へ給ひし正道の光明を認められたり。而して氏の悲嘆はやがて一變して、世の多くの子女を失ひし父母に對する同情同感の淚と化しぬ。先年出版せられたる『慈愛の淚』なる書は其の赤心の發露の一なりき。此書が如何ばかり子を失ひし幾多の人々に絕大なる感動と慰藉と力を與へ今尙ほ與へつゝあるかは、一たび此書を手にしたる人々の異口同音に唱ふる所なり。

次に數年前氏の心に起りたる一の感興は、彼の純潔無邪氣なる兒童の心に父母の慈愛及明友の親愛が、如何に映寫し徹底するかを見んと欲するの熱望にてありき。是に於てか氏は日本內地及朝鮮の各小學校に書を送りて其の兒童等の飾りなき所感を募ることゝせられたり。然るに應募者頗る多く北海道のはてより九州のはしに至る迄續々應募者ありたるのみならず、朝鮮よりも少なからざる文書到着しきたれり。氏は大に喜び直ちに大家の選評を乞ひ公刊する豫定なりしに、一昨年八月二十日越後水原の旅途に於て突然永眠せらるゝことゝなりぬ。其後嚴谷小波竹谷恒三郎の兩先生が氏の遺志を繼承し自ら選評兼編纂の任に當り今回公刊せられたるもの即ち『慈愛と友愛』の一書なり。之を一讀するに十三四歲前後の小學兒童三百名が、如何に父母の慈愛に感じたるか、又百十餘名が如何に明友の慈愛を—

口之を讀みて何と思ふ

一寸御願がい申ます。まことにな利いりますかあなた様には滿お叙ども御目にかゝりし事もなく、この與お祭こ女とお、お願がいもしまし手わ、海だめしお津かましき女とおもおてしようが、ぜひお願がいもしあけます。

私はだち二人はおじわら京一ノ二十五ち山下よいちのかおばしおぎにて小津るとかおるとゆうものですが、私しだち二人りわ山下よいちにかゝいられなしてから、ちようどことして四年になりますが、二人ともからだがよわいのでとてもこのさきつとめができませんから、奈にとぞわたくし二人りわおやのためにわはいましたか、二人とも殴し宇にわしにわかれました。私は二人りわ、からだがよわくいまえてわどおすることもできず、ただただふたりてはなしてわなくばかりてありますがしち宇はやかましくねきのしたにもださず、いしやにも路くにやつてわくれ奈いのですから、わたくしも津くつくどこのしぢうもこおかと、おもおとおそ踏じやら、かなしやら津くつくいやに奈りましたゆい、なにとぞあわれ奈わたくしおなすくいくださる、おかたわあなた様よりたのむおかたわなしと、おもいおりますゆいなにとぞなにとぞ、このふなりおたすけるかたき二あなた様からおるせくだされくれぐれも御願がいもしあげます。

また殿は仁入りもかたきに奈りさいすれば、かならずはたちいておかいしいたしますから、なにとぞあつかましき女だとおもおでしようが、なにどぞ奈にとぞ、おたすけくだされたくれぐれくもおう然がいます。

津き添してわ京町一ノ目二十五ち辨中村。本みよわ△△△△、〇〇〇〇ともしますものでございますが、何ぞなにとぞ、私はたち二人りおふびんとおもい、なにとぞおたすけくだされたく位。

かくせいかいさま

感じたるか、其の實例を書き綴りたるものにして。其の無邪氣なる天眞の情流露して、實に掬すべく味ふべきもの尠なからず。

之を要するに、本書は兒童の淸き心に寫れる無邪氣にして飾りなき潔き愛の告白感話なり、世の子女を有せらるゝ父母たちは其の子女の心の奧にも、斯くの如き美しき情緖と靈妙なる音樂を有することを默認して一層之が敎養を樂むに至るべく、兒童等も同じく之を讀みて必ずや心の奧底に共鳴の琴線あるを讃美すべし敎育家も之に依りて兒童心理の最高なる機微を窺し得べく。宗敎家も之に依りて燃ゆるが如き天啓の聖愛を發見し得べし。而して讀者諸君に注意を乞ふべき一事は此書の紙背に藤田氏なる人格が嚴乎として潜在し犯すべからざるものあるを忘れ給はざらんことなり。

最後に於ける藤田氏畢生の事業は、最も完全なる兒童圖書館を建設して世上幾多の兒童を敎養するの一事にてありき。兒童一たび此館に入れば、其の宏壯なる圖書室に於て讀書の眞味を味ひ、其の廣大淸新なる運動場、庭園に於ては自由に運動し散策し、或は崇高なる講堂に參集して古今の偉人豪傑の面影を忍び、又は名士大家の逸話を聽き一日を最も樂しく最も有益に送り得るものにあらざれば、氏の理想を滿足せしむること能はざりき。玆に於てか氏は其の理想を實現せんが爲めに東奔西走途中の越後水原に於て突然永眠せられしは、誠に惜みても尙ほ餘りある事と云ふべし。世の同情ある篤志家にして、氏の此高潔博愛なる大志を成就する志士仁人あらば、氏は必ずや天の高きに於て、莞爾として其の義氣と心勞と努力とに對し、滿腔の感謝を表せらるゝなるべし、今回『慈愛と友愛』公刊せらるゝに當り、余は感喜の情に堪へず所感を陳べ謹んで藤田氏の人格を追慕す。

□廓清會報

■浸禮敎會に於ける演說會

七月二十一日午後七時中央バプテスト敎會と本會と聯合にて廢娼演說會を開く、中島牧師司會の下に第一席伊藤秀吉氏は『社會政策上より見たる公娼問題』と題し、第二席伊藤富士雄氏は『醜業婦人に就て』小松武治氏は『男女一體論』と題して熱辯を揮ひ、十時午閉會。聽衆百五十名。

■前橋に於ける幹部相談會

八月二十六日、前橋市に於て本秋に於ける群馬廓淸の大運動打合せ會を開く。本部よりは島田三郎、松宮彌平の二氏出張、支部長德江亥之助氏其他の支部幹事等と協議を遂ぐ。

■廣島支部發會

九月十九日廣島市に於ては、林歌子女史の遊說により覺醒の曙光開け支部創立委員は熱心奔走中なりしが、山室軍平氏の來廣を機として演說會を開き、五十名の會員を得て支部の發會を見るに至つた。役員諸氏の氏名及び事務所如左

支部長　細川潤氏　幹事　田邊重吾
幹　事　木原平兵衛　同　淸茂基
◎事務所　廣島市下中町十一番地廓淸會廣島支部

■飛田遊廓設置反對運動

男女貞操問題と題して今同問題となれる飛田の接近地天下茶屋に演說會を開く。九月八九兩日同地基督敎會を開放して各夜男女三名の辯士熱心に語られたり。折柄殘暑甚しき夜なりしにも係らず堂內立錐の地なきまでの盛會にて、演說の聲の聞ゆる限り敎會外にも數多の聽衆を見受けられたり。殊に府會議長湯淺氏の如きは『天王寺村民の覺醒を促す』てふ題の下に、隨分同地方の在住民の頂門に一針を刺されしにも係らず、滿場拍手を以て贊成の意を表せしなど實に痛快なりき。

今同斷行しつゝある遊廓反對運動演說或は男女貞操問題の講說會には、每時演場の盛況を見るは社會全般の人心に、公娼の害毒遊廓の廢止すべきものなる事を自覺せしめし證據ならんと大に感謝する處である。（飛田遊廓設置反對同盟會報）

吾人の責任

長野　竹淵靜雄

廓淸會員！此言葉其物が旣に、現代の墮落者輩の間に立ちて、如何に誇りらしく且つ愉快に響くてあらう自分が此言葉を口にするの光榮を得たのは今年の四月である。併し其實を擧げて卑猥なる小說、浪花節等あらゆる下劣な分子より離脫したのは最近頃の事である事を恥ぢる。自分は今日迄迷夢の裡に彷徨して居た事を、此處に懺悔して正道に踏み入るべき强き決心を持つた其源因に就き感謝の意を表せなければならぬ。即ち自分許の賜でなく幾多の迷夢に彷徨せる靑年を墮落の淵より救ひ上け度い者である、我等の双肩にかゝる責任は重且つ大である。

奮へ我同志諸君!!

■□■□■□■ 癖探しの失敗話 若い内に矯めよ □■□■□■□

或る癖を持つた老人連が、互に癖探しをやつたさうです。一人は話をする時無暗に鼻下を右の指で擦る癖、次は兩手で眼を擦る癖、次は衣服の袖を突張る癖、手を叩く癖のある四人が今日は淺草の觀音でも參詣しませうと一同揃つて出ましたが、どうもお互に癖ある仲だから他人に見られて態が宜くない、今日は一つ癖を出さぬやうにしませう。若し例の癖を出した者があつたなら五十錢のお茶菓子を罰金としてお仲間に提供する事にしやうといふ確い約束が出來ました。

さあ斯うなると大變です。人にやるなと止めらるれば尙更やりたがるのは人情とやらで何うしてもやりたいもの、やりたい許りでなく遣らないと何うも氣持が惡くなつて來るさうて、苦しいのを我慢し乍らやつと淺草に着いた。大分長い間苦しい思ひをしたのですから耐りません。第一着にあれ！妙な鳩だ御覽、と許りに鼻の下を擦つて誤間化しながら指しますと。又一人が眼を擦り乍らどーれ〳〵と許り之も件の癖を出すと又一人は鳩が斯うやつて飛んで居ると許りに衣服の袖を突張つて同じく癖を出し乍ら鳩の飛ぶ眞似をする。到頭三人共癖を出して了ひましたから、之を先刻から見て居つた一人が、到底彼の通りみんな癖を出して了つたから一人五十錢宛の罰金では、一圓五十錢のお茶菓子が御馳走になれる、こりや占た。と許りに思はず知らずに手を叩いて了つたといふ昔話がある。

話は大變滑稽的ですからお伽式のやうでもありま

公娼廢止の實行期至れり

横濱　梅　翁

早早公娼廢止論は、存娼論者の完膚なきまでに、論究したと思つて差閊あるまい、一體廓淸派は、學問や議論の智慧競べをするおもちやに生れた者でなからう早く颯々と埒を明てしまつても、まだ〳〵藝妓も私娼も家庭も廓淸せんければならん者は澤山あるてはないか、今は公娼廢止論は實行時期として、政府をして實行に着手せしめなければならんてあらふ、八月號の天鼓の響て言つてある通り、公娼を設けて花柳病を禦ぐのは泥を以て泥を洗ふの愚て、共同便所的醜穢極まる者が、花柳病防止にならぬ事は此上說明の必要がなからふ。

又風紀取締？　風紀紊亂の元素たる本家本元の實物が、國家制度の下に公々然として保護されて、存在して居るなら、障子一重て聽言いふて、聞いてならんは莫迦らしい、何と滑稽てないか、噴飯に堪へぬてはないか。

又同じ賣春婦を之れは公、之れは私と區別したなと同じ鰹節を、之れが土佐節、之れが駄節と區別する奸商と異ならぬてはないか、實に呆れるよ君大概に莫迦したなら何かれ。

官當局者が、公娼廢止は是なりと認むるも、廢業の結果多くの失業者の出づるを如何せんとは、極り文句てあらふ、之れも亦口實にして、之れを救ふに易々たる者てある。

我明治の維新は今日の文明を形成した事を考ふるならば思ひ半に過ん、又何人も否定す可からざる規範てある、唯斷行の一有のみてある、見よ廢藩置縣の大業は、今日の女郎屋つぶしより大業てはないか、當時大數の士族の活路は、見た事も聞た事もない、公債證書一枚て有つた、又太政官令も朝令暮改天下の人民は殆ど歸趣に迷つた、公債證書も多分は奸商の爲めに占められて、一萬石とりの殿樣が杉下駄に紫緖のを穿いて歩くやうな悲慘もあり、某と謂ふ名家の跡も絕滅して終つた、けれども今日の文明を買ふ犧牲としては安價と云はればならぬ。

公娼廢止も之れに效ふて、一ヶ年を期し公娼廢止令を發し、半面には技師に命じ、マッチ製造とか機業とかボール箱製造とか、余は共向てないから之れを撰擇する能力がないけれども彼等に適業と思ふ者の撰擇の相談役となる者があつて、官民一致之れが善後策を講じたなら、必適當の工商業を爲さしむるに難からぬに相違ない、今まで只居て暴利を貪つたやうには行かずとも屹度都合のつく事と思ふ、中には失業者もあつて杉下駄を穿く者もあらふ、併老熟なる工商業者さへ失敗があるからそれまては致し方がない、けれども何時までも愚痴々々して、互に五里霧中に呻吟して水掛論斗りやつて居るなら國家の爲めに悲しむ可きてはないか、娼妓論として歐米東洋都てにとつて有とか無とか云ふは、社會あつて以來ある娼妓てあるから絕滅は期し難い事は知れきつた話てある、と云ふても之れが保護制度を立て畏しくも、陛下の御裁可を仰ぎ奉りて公然之れを爲さしむるの國辱たるを顧みぬとは、何たる國賊てあらふ、志士何ぞ起たざる？　勅語奉讀事件の時には植村氏の病床にまて踏込んだ志士があつたと聞くが、此の國辱事件はなぜ華々しく喧傳せられてあらふ、偖て色と云ふ者は斯ふ云ふ者かナ。

して、取るに足らないやうにも考へられませうが。洵に癖といふ眞理が此の中に含まれて居りますまいか。斯樣に老人になつてからは如何とも矯正しやうが厶ゐませんから、若い時分に早く矯正するやうにしたいものて厶ゐます。

『人として一つの癖はあるものを、我にはゆるせ敷島の道』無くて七癖、有つて四十八癖とやら、此癖ぐらゐ又他人から見て可笑な者は厶ゐません。鼻の先を摘むだり、顔を擦つたり、かと思ふと蚤も虱も居りませんに、人の前て腹の邊を掻いたり種々な癖を御當人は何も知らずにやつては居りますが、他目から見ると洵に不格好なもので、更に非道いのになりますと人の物を我物と思ふやうなのが厶ゐます。て斯麼種々な癖といふ者は我々が持つて生れて來た譯のものては無論ありません。皆内外の刺戟からの習慣が所謂癖となつたものて厶ゐますから、此習慣といふもの程恐ろしい者は厶ゐません。

酒呑みが酒屋の前を通る時、プーンと匂ふ酒氣て咽喉がグー〳〵鳴つたり警官が職を辭してからも人を見ると矢張り、頭の上から足の爪先まで睨むやうな癖のあるのも、全く習慣といふ第二の天性なのてす、てすから此惡習慣を矯正するといふ事は一寸困難て厶ゐますが今日のやうに社交といふ者が盛んになりましては之を矯正せずには置けません。第一我身の損になりますから。我身の擧動を微細に省み、又人からら癖の有無を聞きまして一刻も早く矯正することが肝腎てはありますまいか。さもなくて何時迄も捨てゝ置いたならば、年を經るに從ひまして第二の天性が殆ど天性のやうに固まつて了ひ、矯正する事が益々困難になつて參りまして、前の老人連のやうに一生涯抜けずに終つて了ふやうな事になるのてあります(癖緣投)

離婚は教育者の罪？

熊谷　中里正次郎

世界各國中我國程名高い者はないといふ。夫れも他國に對して國の譽れともなるならば我々は大に氣を强ふするに足るけれども、人類の幸福を破るべき、道德の低きを證據立てる離婚の多きに至つては、何と謂ふて良いか其言葉がない。本縣に於ける大正四年度の離婚數を引證して見ると、結婚數が一萬三千二百十九組に對して離婚數が一千六百五組といふ數に達して居る割合を以つて之を示せば一割二分强といふ滅想もない數てある。けれども之が正確なる離婚の割合ならば未だ寒心すべき現象てないにしても、玆に表はれた統計は即ち結婚が成立されて夫婦間何等の故障もなく、子が生れそして初めて其屆を當該役場へ出すのてあるから、結婚して最も離婚し易いといふ一年内外の月以内には屆けた數が極めて僅かてあるから、結婚といふ正式又は其他の方法て行はれた全體の數からどれ丈離婚するかといふに及んては到底意想外てあると思はれる。

斯く離婚の多き實例を見出して我等は、今日我國に於ける男女交際並に社會道德が如何に歐米各國より低級てあるかを知るに至つて啞然として、遂に慟哭せざるを得ぬのてある。其上尙且つ慟哭しても及ばぬ事態は、此離婚なる者が下級社會より中流・中流より上流と登るに從つて多きを見る一事てある。敎育は即ち道德を根底とする智能發展の機關だと云ふならば、中流以上の社會は殊に下流の夫より男女共に敎育の程度が高い筈てある。高い丈けそれだけ道德、就中結婚といふ人生の一大事業の道德觀念を無視して居るといふ事は實に何とも申し樣がない。中流以上の家庭に私生兒の多いのも夫れが爲めてある。又不良少年の出るのも夫れが爲めてある。離婚といふ大道德を平氣て蹂躙して顧みないやうな、家庭に於ける道德觀念から善良なる子弟の生れやうな筈がある可き道理がない。社會の潮流は斯くして濁りつゝ行くてあらう、私は何時も思

ひを茲に及んで熱き涙を催さぬ事はないのてある。

鳥の聲

白菊女

涼風秋を呼ぶ靜思の侯に私共の靈は天地に滿つ！神の靈と融合せり。虫の啜泣にも人生の悲哀を物語る者の何ものか求めんとする執着、そのあこがれあり。あゝ何故にかくも秋は悲しきものなるか、人と生れて人らしき生涯を送らず、大猫の如き生活を爲し巳の貞操を蹂躙られ、又とかへがたき傷手を負ふあまたの女等よ。あゝ汝等は秋の虫よりも尙細き音を出して傷つきの胸を啜泣てあらふ。

女子の誘惑か男子の我儘か、私には判られど一つの罪のはらめる罪の子！

あゝ何故か斯くも泪の出づる。罪をして洗ひつくす淸き流れをくめよ、世の波はげしきときの寄りさふ濱邊を見よ、限りなき慰めと能を與へ給ふ愛なる神を抱けよ。

世の男等よ明治維新前後の英雄の二男士を忍べよ、而して之れにならへよ彼のなげきといめとに耳をすませよ。彼は今も汝等に囁かん。

過ㇾ淀　　吉田松陰

男山如古　男兒人既非
廣柳車中客　涙帶暮雨飛

大正の男子等これに向ひて怒りの聲を發せざるや。あゝ悲しくもうらめしきことよ。男女の道德依然として亂れ、淸きも汚れも見分けることさへ能はずして唯濁り行くのみ。多くの貞操なき我兄弟よ海の廣きも地球の中、陸なくしては之だにあらず、凡て各々淸く正しふしてこそ美しくもあれ、汚れたる濁れる水に何とて山水の美を味ふべきや。

人の靈に與へられたる美なるものは一つのみを愛して輝くなれ。

されど光は多くのものを弱し害増す毎に淸くすみ渡り、調和の美はいよ〳〵得て神も共に住み給はん。

熱血紅涙

□**岸太静衛君**(京都)　本部諸氏に於ては社會廓清の爲め御奮鬪の事と推察仕候小生大正元年中會員の末席に名を列ねるを得候へ共未だ之とて何等自個眞心に對する廓清をも爲し得ず候段赤面の極みに御座有之候山室軍平安部磯雄兩氏の人格は余の既に多大の崇敬を拂ひつゝありて只管諸先生の誠心に感動され居り候。

□**池部才三君**(山形)　小生は我國娼妓の產地とも稱せらるゝ地に生れ、社會の進步は常に本縣をして此汚辱より救ふ事能はざるを歎じ居り候處上京の砌偶々貴會のあるを聞き早速あのやうな御手數を相掛け本縣出身の娼妓一人を救ひ出し被下、歸鄉し斯く〳〵の次第と御話し申候其時の父兄の喜びは何に例へんものもなき有樣にて、之等悲慘なる事情は縣當局者輩が一考して然るべくと被存候、單に貧困よりの事情とは云ひ乍ら一は土地の習慣上もあり此習慣を矯むるやう彼等に諭しやりなば、夫れ丈本縣より出稼の娼妓も減少する筈と考へられ候。

□**細川保君**(茨城)　筆硯御雄健奉賀候私も今同社會廓清の運動開始致度、雜誌差當り六十部位入用左樣御取計被下度候。

□**木藤冷劍君**　前略今同當署長の交迭は實に欣喜すべき一事にして、今後當市の廓清は必ず見るべきもの可有之と被存候。從來歷代の署長が斧鉞を下す能はざりし私娼窟に、交迭後早々英斷の擧に出てゝ見ん事碎きたる事。且又公娼方面に於ては時に壇上に立つて衛生講話を爲されて花柳病の如何に恐ろしき事を述べられつゝあるは、陰に娼妓稼業の危險なるを悟すもの吾人は感謝の辭なき程にて此際如何て扼腕せざるを得んや、貧弱なる此一靑年の爲め祝福を祈り被下度願上候。尙十月號は平月より四册御追加願上候

□**木村博一君**　私事今大江山へ探檢に登り候歸途旅館にて『廓清』なる雜誌發見し、貴會の如き最も眞面目なる主張を有する團體の此日本にもありしかと今更乍ら感に打たれ是非不肖なる私共も會員の一人として御加入被下度願上候。而して旅館より譲受けを乞ふ譯にも行かざりし事とて、一日も早く拜見致し度旅行途中に於て亂筆をも省みず、御懇願の次第左記住所へ大至急御送附被下度候

□**寺田作造君**　此間主人の用件ありまして、本所の小林ライオンへ行つた時、休む處(來客控所)に廓清の雜誌が一さつ出てゐるから、何の氣なしにひらいて見ると面白くもないやうに見えたけれども、讀み初めました處が爲になる事ばかりなので、私も是非ほしいと思ひますから一册いくらですか知らせて下さい。私は修身讀本を讀むつもりて讀みますから、ほかの朋だちにも見せまして皆て讀む事に致します。

編輯の後

□閣下等に親むの候會員諸氏の御健在を祝します。偖て早速御詑を申上ればならない事は、本誌發行の遲延した事であります。實は逓歷に遲れる筈てはなかつたのてすけれども、丁度編輯中に大阪飛田遊廓反對意見書の刊行に就き、校正やら發送やらて意想外の時日を要した事と、且つは又從來の本誌印刷人が突然死去せしが爲め印刷所の變更等、發行間際に折り重つた事故が出來しましたので、遂斯く遲延するの止む無きになつたのてありますから、何卒御寬大の思召を以つて御赦し下さるやう切望致します。來月號よりは出來得る限り早く發行する注意します。本誌特別號が男女交際問題號と致しましたのは、役員諸氏の方に御銘々問合せた結果此問題に御贊成の御方が多かつたので、出來得る限り之等に關して平常御研究に與はつて居なさる方々から御意見を伺つしたのてあります。

□飛田遊廓設置反對同盟會から今回出版された飛田遊廓反對意見は、本部伊藤主筆が心血を灑いて執筆されたもの內容は堂々たる廢娼論て、本會の主張を解明するに足る大論文てす。第一篇公娼制度の現勢、第二篇公娼廢止論、第三篇存娼論の枝城、第四篇公娼廢止の善後策、第五篇現下事實の問題、第六篇、輿論の歸嚮の六篇に分れ菊判百四十頁に亙つて詳述されてありますから本會の主張等を一見して知り度い方は非賣品てはありますが、會員諸氏に限り實費廿錢を以て頒布しますから、御希望の方は頒布切れにならぬ內御申込み下さるやう御注意まて申上げて置きます。

□會費の事に就ては每號願つて置きます通り、會費の切の際集金郵便て頂戴するのは貴重なる運動資金を割く譯てすから、可成直接振替口座か又は其他の方法に依り御送金下さる樣、さもなくば双方の不利益てあり且つ本部の事務上に非常な手數が掛る譯になりまして實に遺憾てすから何卒好都合の時御送金下さる樣切に願ひます。

□廓清運動の必然的要求が各地より本會へ辯士の出張講演を依賴して來ますので、本部ても是非喜んて其の需めに應じたいのてありますが、何分本會役員其他の方々は常に御多忙の身てありますから、思ふ樣に取運ぶ事出來ず、從つて不得止御延期を願ふやうな事になりますのは、何とも申譯御座ゐませんが漸次御希望順に處置する事に致しますから不惡御含み置きを願つて置きます。(小林生)

大正五年十月一日納本　(每月一日發行)
大正五年十月一日發行　一部本號に限り十二錢

編輯兼發行人　神田區今川小路一丁目三番地　伊藤秀吉
印刷人　小石川區大塚窪町一番地　久保民生
印刷所　神田區三崎町三丁目一番地　博信堂印刷所
發行所　芝區三田四國町二番地　廓清會發行所
電話芝五八五五番
振替東京二七〇七二番